謠曲　放下僧（蓄音器レコード）　昭和十五年七月
謠曲　養老（蓄音器レコード）　同
交聲曲「海道東征」（蓄音器レコード）　昭和十六年一月
國民學校の歌（蓄音器レコード）　昭和十六年三月
皇后陛下御誕辰奉祝の歌（蓄音器レコード）　同
聽覺訓練に關するレコード（蓄音器レコード）　昭和十六年五月
霜の旦（蓄音器レコード）　昭和十六年七月
羽衣（蓄音器レコード）　同
空しく老いぬ（蓄音器レコード）　同
分袖（蓄音器レコード）　同
菊の盃（蓄音器レコード）　同
櫻（蓄音器レコード）　同
舟歌（蓄音器レコード）　同
夏のひかり（蓄音器レコード）　同
國民皆詠の歌（蓄音器レコード）　同
北白川永久王殿下御歌（蓄音器レコード）　昭和十六年八月
宗良親王御歌（蓄音器レコード）　昭和十七年一月
大詔奉戴の歌（蓄音器レコード）　昭和十七年三月
君が代（蓄音器レコード）　同
勅語奉答（蓄音器レコード）　同
一月一日（蓄音器レコード）　同
紀元節（蓄音器レコード）　同
天長節（蓄音器レコード）　同
明治節（蓄音器レコード）　同
特別攻撃隊（蓄音器レコード）　昭和十七年四月
大東亞戰爭海軍の歌（蓄音器レコード）　昭和十七年五月

（『東京音樂學校一覽　自昭和十六年至昭和十七年』　二四七～二五四頁）

五　東京音楽学校演奏および作曲による SPレコード

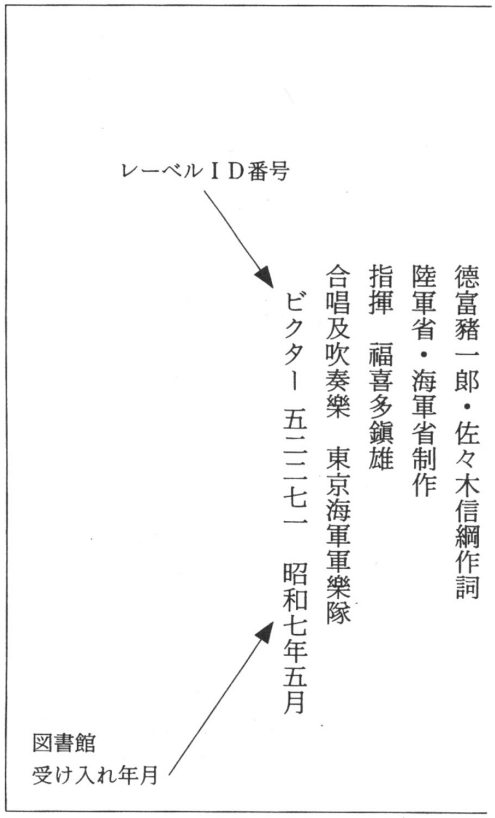
本項では本学附属図書館に収蔵されているSPレコードのうち、東京音楽学校が演奏もしくは作曲で関わったものをまとめた。『東京音樂學校一覽』中の年譜によれば、本校は昭和五年四月に初めて蓄音器レコードの吹込みおよび発行を行っている。

表記と内容は各レコード中央に貼られているレーベルおよび付属資料に倣い、凡例に見られるようにレコード一枚ごとの通し番号で整理した。個々のレコードの製作年月日を特定することは困難であるため、これを補うものとして図書館の受け入れ年月を記した。受け入れの時期は昭和七年から十九年にわたる。

凡例

レコード１枚ごとの通し番号

(1)　軍歌　皇軍の歌　東京音樂學校作曲



徳富豬一郎・佐々木信綱作詞
陸軍省・海軍省制作
指揮　福喜多鎭雄
合唱及吹奏樂　東京海軍軍樂隊
ビクター　五二二七一　昭和七年五月

(1)
軍歌　皇軍の歌
東京音樂學校作曲／徳富豬一郎・佐々木信綱作詞
陸軍省・海軍省製作
指揮　福喜多鎭雄
合唱及吹奏樂　東京海軍々樂隊
（ビクター　五二二七一）昭和七年五月

(2)
國歌　君が代（A）
東京音樂學校謹奏
於　東京音樂學校奏樂堂
國歌　君が代（B）
（コロムビア　A一八）八年六月

(3)
式日歌　一月一日
指揮　澤崎定之
合唱　東京音樂學校生徒
ピアノ　高折宮次
オルガン　眞篠俊雄
式日歌　紀元節
指揮　澤崎定之
合唱　東京音樂學校生徒
オルガン伴奏　眞篠俊雄
（コロムビア　A二六）八年六月

(4)
式日歌　天長節
指揮　澤崎定之
合唱　東京音樂學校生徒
ピアノ　高折宮次
オルガン　眞篠俊雄
式日歌　勅語奉答（齊唱）
指揮　澤崎定之
合唱　東京音樂學校生徒
ピアノ　高折宮次
（コロムビア　A二七）八年六月

(5)
式日歌　明治節
指揮　澤崎定之
合唱　東京音樂學校生徒
オルガン　眞篠俊雄
式日歌　勅語奉答（合唱）

指　揮　澤崎定之
合　唱　東京音樂學校生徒
オルガン　眞篠俊雄

（コロムビア A二八）八年六月

(6)
ヴァーグネル：大歌劇　ローエングリーン　第一幕より
Wagner, R.: Lohengrin.
第二場　エルザの夢 Elsas Traum "Einsam in trüben Tagen"
ソプラノ　マリア・トル Maria Toll（エルザ）
バ　ス　ヘルマン・ウッヘルプフェニッヒ Dr. H. Wucherpfennig（王）
合　唱　東京音樂學校生徒
管絃樂　東京音樂學校管絃樂
指　揮　クラウス・プリングスハイム Klaus Pringsheim
ヴァーグネル：大歌劇　ローエングリーン　第一幕より
第二場　エルザの夢 "In lichter Waffen Scheine"
ソプラノ　マリア・トル（エルザ）
合　唱　東京音樂學校生徒
管絃樂　東京音樂學校管絃樂
指　揮　クラウス・プリングスハイム

(7)
ヴァーグネル：大歌劇　ローエングリーン　第一幕より
第二場　ローエングリーンの到着 Lohengrins Ankunft "Wer hier im Gotteskampf zu streiten kam"
バリトーン　増永丈夫（王の傳令）
ソプラノ　マリア・トル（エルザ）
合　唱　東京音樂學校生徒
管絃樂　東京音樂學校管絃樂
指　揮　クラウス・プリングスハイム
ヴァーグネル：大歌劇　ローエングリーン　第一幕より
第三場　ローエングリーンの到着 "Sei gegrüsst, du gottgesandter Held"
テノール　薗田誠一（ローエングリーン）
合　唱　東京音樂學校生徒
管絃樂　東京音樂學校管絃樂
指　揮　クラウス・プリングスハイム

(8)
ヴァーグネル：大歌劇　ローエングリーン　第一幕より
第三場　祈りと終曲 Gebet und Finale "Nun höret mich, und achtet wohl"
バリトン　増永丈夫（王の傳令）
テノール　薗田誠一（ローエングリーン）
バリトン　秋月直胤（フリードリッヒ）
合　唱　東京音樂學校生徒
管絃樂　東京音樂學校管絃樂
指　揮　クラウス・プリングスハイム
ヴァーグネル：大歌劇　ローエングリーン　第一幕より
第三場　祈りと終曲 "Mein Herr und Gott, nun ruf' ich dich"
バ　ス　ヘルマン・ウッヘルプフェニッヒ（王）

テノール　薗田誠一（ローエングリーン）
バリトン　秋月直胤（フリードリッヒ）
ソプラノ　マリア・トル（エルザ）
合　唱　東京音樂學校生徒
管絃樂　東京音樂學校管絃樂
指　揮　クラウス・プリングスハイム

(9) ヴァーグネル：大歌劇　ローエングリーン　第一幕より
第三場　祈りと終曲 "Des Reinen Arm gib Heldenkraft"
ソプラノ　マリア・トル（エルザ）
アルト　武田惠美（オルトルード）
テノール　薗田誠一（ローエングリーン）
バリトン　秋月直胤（フリードリッヒ）
バス　クルマン・ウックルプフェニッヒ（王）
合　唱　東京音樂學校生徒
管絃樂　東京音樂學校管絃樂
指　揮　クラウス・プリングスハイム
ヴァーグネル：大歌劇　ローエングリーン　第一幕より
第三場　祈りと終曲 "Durch Gottes Sieg ist jetzt dein Leben mein"
ソプラノ　マリア・トル（エルザ）
アルト　武田惠美（オルトルード）
テノール　薗田誠一（ローエングリーン）
バリトン　秋月直胤（フリードリッヒ）
バス　クルマン・ウックルプフェニッヒ（王）
合　唱　東京音樂學校生徒
管絃樂　東京音樂學校管絃樂
指　揮　クラウス・プリングスハイム
（コロムビア J五九〇二～五九〇五）八年三月

(10) Haydn, J.: The seven words of the saviour upon the cross.
Oratorio for solos, chorus & orchestra.
Orchestra and Chorus of Tokyo Academy of Music.
Cond: Charles Lautrup.
Solists: T. Kurosawa, H. Tanji, S. Sonoda, T. Itoh.
Introduction: Adagio maestoso.
(11) First word: "Vater! Vergieb Ihnen—", Largo
(12) Second word: "Fürwahr, ich sag' es dir —", Grave e cantabile.
(13) Third word: "Frau, siehe deinen Sohn—", Grave.
(14) Fourth word: "Mein Gott! Warum hast du—", Largo.
(15) Fifth word: "Jesus rufet: ach mich dürstet!", Adagio.
(16) Sixth word: "Es ist vollbracht!", Lento.
(17) Seventh word: "Vater! in deine Hände—", Largo.
(18) Il terremoto: "Er ist nicht mehr!", Presto.
(Columbia J-3961～3969) 8.6.

(19) Händel, G. F.: Aus "Judas Maccabäus"
Chor: "GT, Söhne Judas"
Orchester und Chor der Akademie der Musik zu

Tokyo.
Dirigent : Charles Lautrup.
(Columbia J-5900) 8.6.

(20) Händel, G. F.: Aus "Judas Maccabäus"
Marsch und Chor: "Seht den Sieger—"
Orchester und Chor der Akademie der Musik zu Tokyo.
Dirigent: Charles Lautrup.
Händel, G. F.: Aus "Judas Maccabäus"
Chor: "Fall ward sein Loos".
Orchester und Chor der Akademie der Musik zu Tokyo.
Dirigent: Charles Lautrup.
(Columbia J-3960) 8.6.

(21) 國民歌　奉迎歌
福井縣謹選／東京音樂學校謹作
陸軍戸山學校軍樂隊
指揮　伊藤隆一
(ビクター　五二九〇三B)　八年十一月

(22) 國民歌　非常時日本の歌
日本教育音樂協會選
東京音樂學校
獨唱　伊藤武雄
オーケストラ伴奏
國民歌　非常時日本の歌
日本教育音樂協會選
指揮　澤崎定之
齊唱　東京音樂學校男女生徒
ピアノ伴奏
(コロムビア　A一二四)　八年十一月

(23)〜(25) 皇太子殿下御生誕奉祝歌（一）
東京音樂學校謹作
指揮　橋本國彦
管絃樂　東京音樂學校管絃樂部
獨唱　ソプラノ　淺野千鶴子
アルト　青木博子
テノール　城多又兵衛
バトリン　澤崎定之
バス　伊藤武雄
(コロムビア　A一八五〜一八七)　九年十月

(26) 唱歌　滿洲國皇帝陛下奉迎歌
文部省作詩／東京音樂學校作曲
吉澤園子
オーゴン管絃樂團
唱歌　滿洲國皇帝陛下奉迎歌
文部省作詩／東京音樂學校作曲

嶺村利夫
オーゴンコーラス
オーゴン管絃樂團
（オーゴン A一〇〇一）十年五月

(27)
躍進日本
東京音樂學校內日本教育音樂協會選
獨唱　伊藤武雄
コロムビア・オーケストラ
躍進日本
東京音樂學校內日本教育音樂協會選
合唱　東京音樂學校生徒
獨唱　澤崎定之
ピアノ伴奏
（コロムビア 二八一三九）十年九月

(28)
メンデルスゾーン曲／二宮龍雄詞
アヴェ・マリヤ
女聲四部合唱（獨唱付）
東京音樂學校生徒
指揮　木下　保
獨逸民謠／武島又次郎詞
混聲合唱　閃く星
東京音樂學校生徒
指揮　木下　保
（コロムビア 三三三一一）十年十月

(29)
ヘンデル曲／妹尾幸陽詞
混聲合唱　ハレルヤ（一）
東京音樂學校生徒、ピアノ伴奏
指揮　木下　保
ヘンデル曲
ハレルヤ（二）
（コロムビア 三三三一〇）十年十月

(30)
土井晩翠詞／山田源一郎曲
男聲獨唱及び齊唱　ヲーターロー
東京音樂學校生徒
指揮　木下　保
ピアノ伴奏
キュッケン曲／葛原しげる詞
女聲二部合唱　森の歌
東京音樂學校生徒
指揮　木下　保
ピアノ伴奏
（コロムビア 三三三一二）十年十月

(31)
ウェーベル曲／桑田つねし詞
男聲三部合唱　獵人の合唱
東京音樂學校生徒
指揮　木下　保

ピアノ伴奏
ロッシーニ曲／吉岡鄉圃詞
女聲齊唱　湖上の月
東京音樂學校生徒
指揮　木下　保
ピアノ伴奏

（コロムビア　三三三一三）十年十一月

(32)
パーキンス曲／佐々木信綱詞
女聲三部合唱　三つの舟
東京音樂學校生徒
指揮　木下　保
露國民謠／妹尾幸陽譯詞
男聲二部合唱　ヴォルガの舟曳唄
東京音樂學校生徒
指揮　木下　保
ピアノ伴奏

（コロムビア　三三三一四）十年十一月

(33)
ブラームス曲（獨逸民謠）／二宮德馬譯詞
女聲三部合唱　眠の精
東京音樂學校生徒
指揮　木下　保
蘇蘭民謠／水田詩仙作詞
男聲齊唱　若草の古戰場
東京音樂學校生徒
指揮　木下　保
ピアノ伴奏

（コロムビア　三三三一五）十年十一月

(34)
蘇蘭民謠／鳥居忱詞
女聲齊唱　笛の音
東京音樂學校生徒
指揮　木下　保
ピアノ伴奏
シューマン曲／江南文三詞
男聲獨唱　夢の花
東京音樂學校生徒
指揮　木下　保
ピアノ伴奏

（コロムビア　三三三一九）十一年一月

(35)
ハウプトマン曲／鳥居忱詞
混聲合唱　羽衣
東京音樂學校生徒
指揮　木下　保
ショウ曲／中村春二詞
男女齊唱　日出づる國
東京音樂學校生徒
指揮　木下　保

ピアノ伴奏

（コロムビア　三三三一八）十一年一月

(36)

東本願寺　大谷智子裏方御作歌／東京音樂學校作曲

病める同朋を思ひて

獨唱　大谷智子裏方

ピアノ　東伏見邦英伯爵

東本願寺　大谷智子裏方御作歌　東京音樂學校作曲

病める同朋を思ひて

合唱　東京上野音樂學校男女生徒

指揮　木下　保

（ポリドール　二二六六）十一年三月

(37)

レーガー作曲／伊藤武雄譯詞

女聲獨唱　マリヤの子守歌

東京音樂學校生徒

指揮　木下　保

ピアノ伴奏

蘇蘭民謠／大和田建樹作詞

男女齊唱　故郷の空

東京音樂學校生徒

ピアノ伴奏

（コロムビア　三三三二一）十一年三月

(38)

瑞典民謠／高野辰之作詞

混聲合唱　空しく老いぬ

東京音樂學校生徒

指揮　木下　保

ベルディ作曲／大和田建樹作詞

女聲合唱　曉起

東京音樂學校生徒

指揮　木下　保

ピアノ伴奏

ヴァイオリン獨奏付

獨逸民謠／藤田建治詞

男女齊唱　遠足

東京音樂學校生徒

指揮　木下　保

ピアノ伴奏

（コロムビア　三三三二〇）十一年三月

(39)

蘇蘭民謠／乙骨三郎詞

混聲合唱　あゝ何地行く

東京音樂學校生徒

指揮　木下　保

ジルヘル曲／旗野十一郎詞

混聲合唱　いざ擊たな

東京音樂學校生徒

指揮　木下　保

ブッテルフィールド曲／植村　甫詞

男聲獨唱及び齊唱　若人の歌
東京音樂學校生徒
指揮　木下　保
（コロムビア　三三三二五）十一年五月

(40)
蘇蘭民謠／小學唱歌集
混聲合唱　才女
東京音樂學校生徒
指揮　木下　保
ヘイズ作曲／永井農三作詞
女聲齊唱　搖籃の歌
東京音樂學校生徒
指揮　木下　保
ピアノ伴奏
ヴァイオリン助奏
（コロムビア　三三三二四）十一年五月

(41)
ナイト曲／近藤朔風詞
女聲齊唱　たゆたふ小舟
東京音樂學校生徒
指揮　木下　保
ピアノ伴奏
キュッケン曲／藤村　俊詞
男聲獨唱及び齊唱　海國日本
東京音樂學校生徒
指揮　木下　保
ピアノ伴奏
（コロムビア　三三三二七）十一年六月

(42)
ジルヘル曲／黑川眞賴詞
混聲合唱　大塔宮
東京音樂學校生徒
指揮　木下　保
フォスター曲／林　古溪詞
女聲三部合唱　櫻散る
東京音樂學校生徒
指揮　木下　保
ピアノ伴奏
ホーソン曲／二宮龍雄詞
女聲二部合唱　夏のひかり
東京音樂學校生徒
指揮　木下　保
ピアノ伴奏
（コロムビア　三三三二六）十一年六月

(43)
島崎藤村詞／下總皖一曲
混聲合唱　舟路
東京音樂學校生徒
指揮　木下　保
濱田廣介詞／船橋榮吉曲
男聲獨唱　父と子
東京音樂學校生徒

指揮　木下　保

（コロムビア　三三四二四）十一年十月

(44)

ヨセフ・ハイドン曲／妹尾幸陽譯詞

混聲四部合唱　天地創造曲（一）（二）

東京音樂學校生徒

指揮　澤崎定之

（コロムビア　三三四二三）十一年十月

(45)

リヒアルト・ワグナー作曲／妹尾幸陽譯詩

混聲合唱　祝婚の合唱

東京音樂學校生徒

指揮　木下　保

ハワイ民謠／妹尾幸陽詞

獨唱及び混聲合唱　アロハ・オエー

東京音樂學校生徒

指揮　木下　保

（コロムビア　三三四二六）十一年十一月

(46)

信時　潔

混聲合唱無伴奏　いろはうた（一）（二）（越天樂の旋律による）

東京音樂學校生徒

指揮　澤崎定之

（コロムビア　三三四二五）十一年十一月

(47)

ヨハネス・ブラームス曲／桃井京次譯詞

混聲四部合唱　マリヤのみ寺詣で

東京音樂學校生徒

指揮　澤崎定之

ヘンデル曲／妹尾幸陽譯詞

女聲獨唱　ラルゴ

東京音樂學校生徒

（コロムビア　三三四二八）十一年十二月

(48)

乘杉嘉壽作詞／下總皖一作曲

國旗揭揚の歌（齊唱）

東京音樂學校合唱團

指揮　澤崎定之

乘杉嘉壽作詞／下總皖一作曲

國旗揭揚の歌（吹奏樂）

東京音樂學校吹奏樂團

指揮　萩原英一

（コロムビア　三三三八〇）十一年十二月

(49)

木下　保

男聲四部合唱　百人一首（一）、（二）

東京音樂學校生徒

指揮　木下　保

（コロムビア　三三四二九）十二年一月

(50)

フォスター作曲／妹尾幸陽譯詞

男聲四部合唱　ケンタッキー・ホーム

東京音樂學校生徒

指揮　澤崎定之

上田　敏作詞／信時　潔作曲
女聲獨唱　忘れな草
東京音樂學校生徒
（コロムビア　三三四三〇）十二年一月

(51)
グノー作曲／妹尾幸陽譯詞
男聲四部合唱　兵士の合唱
東京音樂學校生徒
指揮　澤崎定之
シューベルト作曲／妹尾幸陽譯詞
女聲獨唱　聽け雲雀
東京音樂學校生徒
（コロムビア　三三四三一）十二年一月

(52)
信時　潔編曲
混聲合唱　大島節
東京音樂學校生徒
指揮　木下　保
信時　潔編曲
男聲獨唱　君と別れて
島木赤彦作詞／片山潁太郎作曲
男聲獨唱　くぬぎ落葉
東京音樂學校生徒
（コロムビア　三三四三二）十二年一月

(53)
信時　潔
古歌　櫻花の歌（一）、（二）（女聲獨唱附三部合唱及齊唱）
東京音樂學校生徒
指揮　澤崎定之
（コロムビア　三三四三三）十二年三月

(54)
生田春月作詞／下總皖一作曲
混聲四部合唱　水草
東京音樂學校生徒
指揮　木下　保
ブッセ原作・上田　敏譯詞／下總皖一作曲
男聲獨唱　山のあなた
東京音樂學校生徒
（コロムビア　三三四三四）十二年三月

(55)
島崎藤村作詞／下總皖一作曲
混聲四部合唱　小兎のうた
東京音樂學校生徒
指揮　木下　保
近藤朔風譯詞／ワグネル作曲
女聲三部合唱　つむぎうた
東京音樂學校生徒
指揮　木下　保
（コロムビア　三三四三七）十二年五月

(56)
妹尾幸陽譯詩／ワグネル作曲
男聲四部合唱　順禮（ママ）の合唱（歌劇「タンホイゼル」より）
東京音樂學校生徒
指揮　澤崎定之

西條八十作詞／岡野貞一作曲
女聲齊唱　月と母
東京音樂學校生徒
指揮　澤崎定之
（コロムビア　三三四三八）十二年五月

(57)
イラヂェル作曲／妹尾幸陽譯詞
女聲三部合唱　ラ・パロマ
東京音樂學校生徒
指揮　木下　保
木下　保
古歌　見わたせば（混聲四部合唱）
東京音樂學校生徒
指揮　木下　保
（コロムビア　三三四四〇）十二年六月

(58)
シューベルト作曲／妹尾幸陽譯詞
男聲四部合唱　海邊にて
東京音樂學校生徒
指揮　澤崎定之
國木田獨歩作詞／信時　潔作曲
女聲齊唱及獨唱　故郷の翁
東京音樂學校生徒
指揮　澤崎定之
（コロムビア　三三四三九）十二年六月

(59)
千家元麿作詞／橋本國彦作曲
女聲二部合唱　川
東京音樂學校生徒
指揮　木下　保
林　古溪作詞／信時　潔作曲
混聲合唱　阿蘇
東京音樂學校生徒
指揮　木下　保
（コロムビア　三三四四一）十二年六月

(60)
竹友藻風作詞／下總皖一作曲
混聲三部合唱　秋の落葉
東京音樂學校生徒
指揮　木下　保
藤森秀夫作詞／木下　保作曲
女聲獨唱　濱は白砂
木下　保作曲
民謠　いつになく（女聲獨唱）
東京音樂學校生徒
（コロムビア　三三四四二）十二年六月

(61)
文部省撰歌／東京音樂學校作曲
青年學校の歌（齊唱）
東京音樂學校合唱團
指揮　澤崎定之
文部省撰歌／東京音樂學校作曲
青年學校の歌（吹奏樂）

日本コロムビア吹奏樂團
指揮　奥山貞吉
（コロムビア　三三四九〇）十二年十月

(62)
クライスラー作曲／妹尾幸陽作詞
女聲獨唱　クライスラーの子守唄
東京音樂學校生徒
（コロムビア　三三四九二）十二年十月

信時　潔作曲
獅子舞歌　大寺の（混聲四部合唱）
東京音樂學校生徒
指揮　澤崎定之
（コロムビア　三三四九二）十二年十月

マスカーニ作曲／妹尾幸陽譯詞
混聲四部合唱　復活祭の朝の歌
東京音樂學校生徒
指揮　木下　保

妹尾幸陽作詞／成田爲三作曲
女聲齊唱　古戰場の秋
東京音樂學校生徒
指揮　木下　保
（コロムビア　三三四九一）十二年十月

(64)
乘杉嘉壽作歌／橋本國彦作曲
日本青年の歌（男聲獨唱及合唱）
東京音樂學校生徒
指揮　橋本國彦

乘杉嘉壽作歌／橋本國彦作曲
日本青年の歌（男女混聲合唱管絃樂伴奏）
東京音樂學校生徒
指揮　橋本國彦
（コロムビア　二九五六四）十二年十一月

(65)
信時　潔
（萬葉集より）
紀の國の歌
くるしくも（女聲齊唱）
あてすぎて（女聲二部合唱）
東京音樂學校生徒
指揮　澤崎定之

信時　潔
紀の國の歌
かざはやの（獨唱付女聲三部合唱）
東京音樂學校生徒
指揮　澤崎定之
（コロムビア　三三四九四）十二年十一月

(66)
信時　潔
紀の國の歌
和歌の浦に（女聲二部合唱）
東京音樂學校生徒
指揮　澤崎定之

信時　潔
紀の國の歌
こせやまの（女聲三部合唱）
三　熊　の（　〃　）
東京音樂學校生徒
指揮　澤崎定之
（コロムビア　三三四九三）十二年十一月

(67)
瀧　廉太郎作詞作曲
混聲四部合唱　月
中村秋香作詞／瀧　廉太郎作曲
混聲四部合唱　雪
東京音樂學校生徒
指揮　澤崎定之
東　久米子作詞／瀧　廉太郎作曲
女聲獨唱　納涼
東京音樂學校生徒
（コロムビア　三三四九五）十二年十二月

(68)
內閣情報部撰定
文部省檢定濟／山田耕筰編曲
愛國行進曲（獨唱竝齊唱）
指揮　澤崎定之
東京音樂學校管絃樂伴奏
內閣情報部撰定
文部省檢定濟
愛國行進曲（大齊唱）
指揮　澤崎定之
東京音樂學校
（コロムビア　三〇〇〇〇）十三年一月

(69)
飯田龜代司作詞／下總皖一作曲／奧山貞吉編曲
混聲合唱　大日本
東京音樂學校生徒
コロムビア管絃樂團
陸軍省・海軍省作詞／東京音樂學校作曲／奧山貞吉編曲
男聲合唱　皇軍の歌
東京音樂學校生徒
コロムビア管絃樂團伴奏
（コロムビア　二九五八八）十三年一月

(70)
ワグネル作曲／乙骨三郎譯詞
混聲八部合唱　祝歌（タンホイゼル第二幕）
東京音樂學校生徒
指揮　木下　保
リューランス作曲／妹尾幸陽譯詞
女聲獨唱　シュー族のセレナーデ
東京音樂學校生徒
指揮　木下　保
（コロムビア　三三四九八）十三年一月

(71)
島崎藤村作詞／大中寅二作曲
混聲四部合唱竝女聲三部合唱　椰子の實

東京音樂學校生徒
指揮　澤崎定之
長尾　豐作詞／弘田龍太郎作曲
男聲獨唱　牧人の歎き
東京音樂學校生徒
指揮　澤崎定之
（コロムビア　三三四九七）十三年一月

(72)
イヴァノヴィッチ作曲／堀内敬三作詞
女聲三部合唱　ドナウ河の波
東京音樂學校生徒
指揮　木下　保
ナポリ民謠／木下　保編曲／妹尾幸陽作詞
合唱付男聲獨唱　わが太陽よ
東京音樂學校生徒
指揮　木下　保
（コロムビア　三三四九六）十三年一月

(73)
獨逸民謠／吉丸一昌作詞
女聲三部合唱　故郷を離るゝ歌
東京音樂學校生徒
指揮　澤崎定之
ルビンスタイン作曲／葉山影雄作詞
女聲二部合唱　旅の夜
東京音樂學校生徒
指揮　澤崎定之
（コロムビア　三三五〇〇）十三年二月

(74)
シューベルト作曲／妹尾幸陽作詞
男聲四部合唱　菩提樹
東京音樂學校生徒
指揮　木下　保
クルチス作曲／妹尾幸陽作詞
合唱附男聲二重唱　歸れソレントへ
東京音樂學校生徒
指揮　木下　保
（コロムビア　三三四九九）十三年二月

(75)
文部省撰定
一月一日（絃樂伴奏付混聲四部合唱）
元始祭（　〃　）
東京音樂學校
指揮　澤崎定之
文部省撰定
紀元節（絃樂伴奏付混聲四部合唱）
東京音樂學校
指揮　澤崎定之
（コロムビア　一一〇一）十三年二月

(76)
文部省撰定
天長節（絃樂伴奏付齊唱竝ニ無伴奏四部合唱）
東京音樂學校
指揮　澤崎定之

文部省撰定
神嘗祭（絃樂伴奏付混聲四部合唱）
新嘗祭（絃樂伴奏付齊唱）
東京音樂學校
指揮　澤崎定之
（コロムビア　一一〇二）十三年二月

(77)
文部省撰定
明治節（絃樂伴奏付混聲四部合唱）
東京音樂學校生徒
指揮　澤崎定之
文部省撰定
神宮奉頌唱歌（絃樂伴奏付混聲四部合唱）
東京音樂學校生徒
指揮　澤崎定之
（コロムビア　一一〇三）十三年二月

(78)
野口雨情作詩／下總皖一作曲
混聲四部合唱　春の雪
日ぐれの花（Ⅰ）
春　の　雪（Ⅲ）
雉子が啼く（Ⅱ）
東京音樂學校生徒
指揮　木下　保
（コロムビア　三三五〇二）十三年三月

(79)
伊藤小虎作詩／下總皖一作曲
混聲四部合唱　春の雪
旅ははるかよ（Ⅲ）
夜明けの癒（Ⅴ）
東京音樂學校生徒
指揮　木下　保
（コロムビア　三三五〇一）十三年三月

(80)
小學唱歌　螢の光（絃樂伴奏付混聲四部合唱）
東京音樂學校
指揮　澤崎定之
小學唱歌　あふげば尊し（絃樂伴奏付混聲四部合唱）
東京音樂學校生徒
指揮　澤崎定之
（コロムビア　三三三八七）十三年三月

(81)
林　古溪作詞／成田爲三作曲
女聲三部合唱　濱邊の歌
東京音樂學校生徒
指揮　木下　保
メンデルスゾーン作曲／妹尾幸陽譯詞
男聲獨唱　歌の翼に
東京音樂學校生徒
指揮　木下　保
（コロムビア　三三五〇三）十三年五月

(82)
ヴェルナー作曲／飯田忠純譯詞
男聲四部合唱　野薔薇

東京音樂學校生徒
指揮　木下　保
ベートーベン作曲／妹尾幸陽譯詞
女聲獨唱　五月の歌
東京音樂學校生徒
指揮　木下　保
（コロムビア　三三五〇五）十三年五月

(83)
メンデルスゾーン作曲／近藤朔風譯詞
混聲四部合唱　鶯
東京音樂學校生徒
指揮　澤崎定之
シューベルト作曲／妹尾幸陽譯詞
女聲獨唱　春の信仰
東京音樂學校生徒
指揮　澤崎定之
（コロムビア　三三五〇四）十三年五月

(84)
大伴氏言立／信時　潔作曲
男聲合唱　海行かば
東京音樂學校生徒
指揮　澤崎定之
山上憶良歌／信時　潔作曲
混聲四部合唱　子等を思ふ歌
東京音樂學校生徒
指揮　澤崎定之
（コロムビア　三三三八六）十三年五月

(85)
日本萬國博覽會選歌
山口晋一作詩／東京音樂學校作曲
紀元二千六百年記念
日本萬國博覽會行進曲
東京音樂學校
指揮　澤崎定之
日本萬國博覽會選歌
藪内喜一郎作詩／古關裕而作曲／奥山貞吉編曲
萬博をどり
松平　晃、霧島　昇、ミス・コロムビア
二葉あき子、コロムビア・オーケストラ
（コロムビア　二九七六五）十三年五月

(86)
古歌／信時　潔作曲
混聲四部合唱　深山には
東京音樂學校生徒
指揮　木下　保
ペルゴレージ作曲／妹尾幸陽譯詞
女聲四部合唱　ニーナの死
東京音樂學校生徒
指揮　木下　保
（コロムビア　三三五〇七）十三年六月

(87)
大須賀　績作詞／信時　潔作曲
混聲四部合唱　渡り鳥

東京音樂學校生徒
指揮　澤崎定之
シューマン作曲／妹尾幸陽譯詞
男聲獨唱　二人の精兵
東京音樂學校生徒
（コロムビア　三三五〇六）十三年六月

(88)
廣田美須々作詞／信時　潔作曲
混聲四部合唱　クンスト・デル・フーゲ
東京音樂學校生徒
指揮　澤崎定之
ハウプトマン作曲／高橋　均譯詞
女聲三部合唱　初菫
青木歌子作詞／澤崎定之作曲
女聲齊唱　菊
東京音樂學校生徒
指揮　澤崎定之
（コロムビア　三三五〇九）十三年七月

(89)
大須賀　績作詞／信時　潔作曲
混聲四部合唱　旅の歌
東京音樂學校生徒
指揮　木下　保
キンケル作曲／妹尾幸陽譯詞
男聲四部合唱　騎士の別離
東京音樂學校生徒
指揮　木下　保
（コロムビア　三三五〇八）十三年七月

(90)
大西　勉作詞／長谷川良夫作曲／飯田信夫編曲
國民歌　若い日本だよ
波岡惣一郎、東京リーダーターフェル・フェライン
日本ビクター管絃樂團
指揮　飯田信夫
芳賀秀次郎作詞／東京音樂學校作曲／橋本國彦編曲
國民歌　大日本の歌
德山　璉
四家文子
東京混聲合唱團
日本ビクター交響管絃樂團
指揮　橋本國彦
（ビクター　J五四三九三）十三年九月

(91)
齊唱　君か代
東京音樂學校
陸軍戸山學校軍樂隊
指揮　大沼　哲樂長
（コロムビア　A一一〇四）十三年十月
內閣情報部撰定／日本放送協會編曲
齊唱　愛國行進曲
齊唱　東京音樂學校
吹奏　帝國海軍軍樂隊

指揮　内藤清五樂長

（コロムビア　A一一〇四）十三年十月

(92)

芳賀秀次郎作詞／東京音樂學校作曲／橋本國彦編曲

大日本の歌

東京音樂學校管絃樂伴奏

指揮　橋本國彦

大西　勉作詞／長谷川良夫作曲／奥山貞吉編曲

若い日本だよ

松平　晃、霧島　昇

松原　操、二葉あき子

コロムビア合唱團、コロムビア・オーケストラ

（コロムビア　二九九四六）十三年十月

(93)

生田流箏曲　六段（替手付）（一）

箏竝三絃合奏

東京音樂學校

指揮　宮城道雄

生田流箏曲　六段（二）

（コロムビア　三三五六四）十三年十月

(94)

畑　耕一作詞／山田耕筰作曲

男女齊唱竝合唱　青年の歌

東京音樂學校生徒

指揮　澤崎定之

與謝野晶子作詞／渡　鏡子作曲

女聲三部合唱　日本新女性の歌

東京音樂學校生徒

指揮　澤崎定之

（コロムビア　三三五六二）十三年十二月

(95)

乘杉嘉壽作詞／吉住小三郎・稀音家六四郎作曲

長唄　皇軍必勝（一）

東京音樂學校（邦樂科）

囃子　望月太佐吉・望月長之助　外

(96)

長唄　皇軍必勝（二）

〃　（三）

〃　（四）

（コロムビア　三三五六六～三三五六七）十三年十二月

(97)

三好達治作詞／下總皖一作曲竝編曲

旅　人

獨唱　木下　保

伴奏　東京音樂學校管絃樂團

喜志邦三作詞／内田　元作曲／山口正男編曲

春の唄

合唱　加古三枝子、鹽田　順、藤島紀久子

伴奏　東京音樂學校管絃樂團

（コロムビア　三三六一二）十四年一月

(98)

柴野爲亥知作詞／大沼哲作曲竝編曲

大建設の歌

獨唱　伊藤武雄
伴奏　東京音樂學校管絃樂團
板谷節子作詞／橋本國彦作曲竝編曲
母の歌
獨唱　加古三枝子
伴奏　東京音樂學校管絃樂團
（コロムビア　三三六一一）十四年一月

(99)
高野辰之作詞／吉住小三郎・稀音家六四郎作曲
長唄　楠の薫（一）
〃　（二）
〃　（三）
〃　（四）
東京音樂學校邦樂科
（コロムビア　三三五六八～三三五六九）十四年一月

(100)
中能島欣一作曲・編曲
山田流箏曲　花三題（古今集）（一）
〃　（二）
東京音樂學校邦樂科
指揮　中能島欣一
（コロムビア　三三五六五）十四年一月

(101)
文部省新訂高等小學唱歌
春の曲（女聲齊唱・男聲齊唱・混聲齊唱）
東京音樂學校
指揮　澤崎定之
文部省新訂高等小學唱歌
山茶花三題（女聲齊唱・女聲獨唱）
東京音樂學校
指揮　木下　保
（コロムビア　三三五七七）十四年一月

(102)
文部省新訂高等小學唱歌
太平洋（男聲齊唱）
東京音樂學校
指揮　澤崎定之
文部省新訂高等小學唱歌
御代の榮（女聲二部合唱）
東京音樂學校
指揮　木下　保
（コロムビア　三三五七三）十四年一月

(103)
文部省新訂高等小學唱歌
羽衣（女聲獨唱・男聲獨唱・二部合唱）
東京音樂學校
指揮　澤崎定之
文部省新訂高等小學唱歌
小鳥よ（女聲獨唱）
東京音樂學校
指揮　木下　保
（コロムビア　三三五七六）十四年一月

(104)
文部省新訂高等小學唱歌

(105)

海國男子（男聲齊唱・男聲獨唱）
東京音樂學校
指揮　澤崎定之
文部省新訂高等小學唱歌
渡り鳥（女聲獨唱）
東京音樂學校
指揮　木下　保
（コロムビア　三三五七八）十四年一月

(106)
文部省新訂高等小學唱歌
長柄堤の訣別（男聲獨唱）
東京音樂學校生徒
文部省新訂高等小學唱歌
菊の香（女聲二部合唱）
東京音樂學校生徒
指揮　澤崎定之
（コロムビア　三三五七五）十四年一月

(107)
文部省新訂高等小學唱歌
野分（男聲齊唱）、蓑蟲（二聲輪唱）
東京音樂學校生徒
指揮　木下　保
文部省新訂高等小學唱歌
秋の調（女聲三部合唱）
東京音樂學校生徒
指揮　澤崎定之
（コロムビア　三三五七四）十四年一月

(108)
文部省新訂高等小學唱歌
山（男聲齊唱）
東京音樂學校
指揮　木下　保
文部省新訂高等小學唱歌
村時雨（女聲獨唱）
東京音樂學校
指揮　木下　保
（コロムビア　三三五八一）十四年二月

(109)
文部省新訂高等小學唱歌
雪の行軍（男聲齊唱・男聲獨唱）
東京音樂學校
指揮　澤崎定之
文部省新訂高等小學唱歌
千鳥（女聲獨唱）
東京音樂學校
指揮　木下　保
（コロムビア　三三五七九）十四年二月

(110)
文部省新訂高等小學唱歌
曉の調（女聲三部合唱）
東京音樂學校
指揮　澤崎定之
（コロムビア　三三五八〇）十四年二月

文部省新訂高等小學唱歌
月見草（女聲獨唱）
東京音樂學校
指揮　木下　保
（コロムビア　三三五八〇）十四年二月

(111)
長唄　小鍛冶（一）
〃　（二）
〃　（三）
〃　（四）
東京音樂學校邦樂科
（コロムビア　三三五七〇、三三五七一）十四年五月

(112)
明治天皇御製謹唱
社頭・友（混聲四部合唱）
無伴奏
謹作曲　下總皖一
道（男聲二部合唱）、玉（女聲二部合唱）
管絃樂伴奏
謹作曲　信時　潔

(113)
天・日（女聲齊唱及び二部合唱）
ピアノ伴奏
謹作曲　橋本國彦
をりにふれて（男女齊唱）、仁（女聲齊唱）
ピアノ伴奏
謹作曲　山田耕筰

(114)
鏡・心（混聲四部合唱）
絃樂伴奏
謹作曲　岡野貞一
孝（男聲獨唱及女聲齊唱）
をりにふれて（女聲三部合唱）
絃樂伴奏
謹作曲　信時　潔

(115)
正述心緒・誠（混聲四部合唱）
をりにふれて・心（混聲四部合唱）
ピアノ伴奏
謹作曲　細川　碧

(116)
窓前花（男女聲齊唱）・書（混聲四部合唱）
管絃樂伴奏
謹作曲　下總皖一
鏡（女聲齊唱）、折にふれて（男女聲齊唱）
ピアノ伴奏
謹作曲　小松耕輔
謹吹込　東京音樂學校
指　揮　澤崎定之

(117)
明治天皇御製謹唱
峰・道（男女聲齊唱）
ピアノ伴奏
謹作曲　橋本國彦
身（男女聲齊唱）・水（混聲四部合唱）

(118)

絃樂伴奏
謹作曲　岡野貞一
謹吹込　東京音樂學校
指　揮　澤崎定之
（コロムビア　S一六七～一七二）十四年五月

(119)
北原白秋作歌／山田耕筰作曲・編曲
大陸日本の歌
伊藤武雄
コロムビア合唱團
コロムビア・オーケストラ伴奏
佐藤春夫作歌／池内友次郎作曲・編曲
農民の歌
鐵　能子
コロムビア・オーケストラ伴奏
（コロムビア〔ID番号読みとれず〕）十四年五月

(120)
佐藤惣之助作詞／内田元作曲／山田和男編曲
日の出島（男聲獨唱竝ニ齊唱）
東京音樂學校男聲合唱團
東京音樂學校管絃樂團
今中楓溪作詞／水谷ひろし作曲／安部幸明編曲
乙女の歌
獨唱　藤島紀久子
伴奏　東京音樂學校管絃樂團
（コロムビア　三三六一四）十四年六月

(121)
野口米次郎作詞／信時潔作曲竝編曲
國に誓ふ（獨唱付合唱）
獨唱　澤崎定之　外　合唱團
伴奏　東京音樂學校管絃樂團
西条】八十作詞／大中寅二作曲／下總皖一編曲
白百合（女聲齊唱竝ニ獨唱）
獨唱　加古三枝子
伴奏　東京音樂學校管絃樂團
（コロムビア　三三六一三）十四年六月

(122)
稲野靜哉作詞／内田元作曲／山田和男編曲
日章旗を仰いで
東京音樂學校合唱團
伴奏　東京音樂學校管絃樂團
芳賀秀次郎作詞／東京音樂學校作曲／橋本國彦編曲
大日本の歌
東京音樂學校合唱團
伴奏　東京音樂學校管絃樂團
（コロムビア　三三六一五）十四年六月

(123)
三木露風作詞／齋藤佳三作曲／山口正男編曲
ふるさとの
獨唱　木下　保
伴奏　東京音樂學校管絃樂團
佐藤惣之助作詞／弘田龍太郎作曲／下總皖一編曲
野薔薇の歌

獨唱　衞藤美津代
伴奏　東京音樂學校管絃樂團
（コロムビア　三三六一六）十四年六月

(124)
野田代志夫作詞／齋藤佳三作曲／山口正男編曲
月の夜更けに
獨唱　伊藤武雄
伴奏　東京音樂學校管絃樂團
稲野靜哉作詞／宮原禎次作曲／下總皖一編曲
心の子守唄
獨唱　藤島紀久子
伴奏　東京音樂學校管絃樂團
（コロムビア　三三六一八）十四年七月

(125)
稲野靜哉作詞／長谷川良夫作曲／山田和夫編曲
黎明勤勞の歌
獨唱竝合唱　東京音樂學校
伴奏　東京音樂學校管絃樂團
今中楓溪作詞／森正雄作曲／安部幸明編曲
乙女の春
獨唱　衞藤美津代
伴奏　東京音樂學校管絃樂團
（コロムビア　三三六一七）十四年七月

(126)
加藤義清作詞／奥好義作曲／下總皖一編曲
婦人從軍歌
東京音樂學校生徒
伴奏　東京音樂學校生徒管絃樂團
指揮　木下　保
佐々木信綱作詞／奥好義作曲／橋本國彦編曲
勇敢なる水兵
東京音樂學校生徒
指揮　伊藤武雄
（ビクター　J五四六二〇）十四年九月

(127)
大伴家持作詞／信時潔作曲
混聲合唱　海ゆかば
日本ビクター混聲合唱團
日本ビクター管絃樂團
芳賀秀次郎作詞／東京音樂學校作曲／橋本國彦編曲
女聲合唱　大日本の歌
東京音樂學校生徒
指揮　橋本國彦
（ピアノ伴奏）
（ビクター　J五四六二二）十四年九月

(128)
風卷景次郎作詞／下總皖一作曲
女聲齊唱　日本の秋
東京音樂學校生徒
東京音樂學校生徒管絃樂團
指揮　澤崎定之
乘杉嘉壽作詞／安部幸明作曲
男女齊唱　東亞の黎明

東京音樂學校生徒
伴奏　東京音樂學校生徒管絃樂團
指揮　澤崎定之
（ビクター　J五四六二一）十四年九月

(129)
箏曲合奏（山田流）
みだれ（一）
〃　（二）
東京音樂學校（邦樂科）
指揮　中能島欣一
（コロムビア　三三六〇一）十四年十月

(130)
島崎藤村作詞／大中寅二作曲
混聲四部・女聲三部　椰子の實
東京音樂學校合唱團
ピアノ伴奏
薄田泣菫作詞／小田進吾作曲／安部幸明編曲
白すみれ
獨唱　鹽田　順
伴奏　東京音樂學校管絃樂團
（コロムビア　三三六二〇）十四年十二月

(131)
深尾須磨子作詞／宮原禎次作曲竝編曲
早春の物語
獨唱　加古三枝子
伴奏　東京音樂學校管絃樂團
喜志邦三作詞／富永三郎作曲／下總皖一編曲
村の少女（をとめ）
齊唱　東京音樂學校合唱團
伴奏　東京音樂學校管絃樂團
（コロムビア　三三六九二）十四年十二月

(132)
伊藤小虎作詞／橋本國彦作曲
女聲二部合唱　秋風の歌
東京音樂學校生徒
指揮　橋本國彦
西條八十作詞／下總皖一作曲
女聲二部合唱　母を頌ふ
東京音樂學校生徒
指揮　澤崎定之
（コロムビア　三三六八六）十四年十二月

(133)
紀元二千六百年奉祝會・日本放送協會制定
奉祝國民歌　紀元二千六百年
東京音樂學校
（一）管絃樂伴奏
（二）ピアノ伴奏
（コロムビア　三〇五〇一）十五年二月

(134)
東京音樂學校作詞・作曲／長津義司編曲
紀元二千六百年頌歌
紀元二千六百年奉祝會制定
日本放送協會制定
東京中央放送局編曲

紀元二千六百年
日本ポリドール兒童合唱團
指導　山口保治
伴奏　日本ポリドール管絃樂團
（ポリドール　九二四五）十五年五月

(135)
大日本警防協會選定
東京音樂學校作曲／奥山貞吉編曲
警防團歌
伊藤武雄
コロムビア・オーケストラ
（コロムビア　A五六九）十五年五月

(136)
前田鐵之助作詞／兎束龍夫作曲
獨唱付女聲二部合唱　明星の歌
佐藤春夫作詞／宮原禎次作曲
女聲三部合唱　をとめ等よ歌ふべし
良寛歌／宮原禎次作曲
齊唱竝獨唱　月よみの
東京音樂學校
指揮　木下　保
（コロムビア　三三六八七）十五年五月

(137)
深尾須磨子作詞／橋本國彦作曲
女聲二部合唱　小鳥の歌
東京音樂學校
指揮　橋本國彦
古今集より／平井保喜作曲
無伴奏女聲二部輪唱　春霞・吹く風の
島崎藤村作詞／平井保喜作曲
女聲二部合唱　潮音
東京音樂學校
指揮　澤崎定之
（コロムビア　三三六八八）十五年五月

(138)
木下杢太郎作詞／山田耕筰作曲
むかしの仲間
獨唱　木下　保
伴奏　東京音樂學校管絃樂團
室生犀星作詞／梁田貞作曲／下總皖一編曲
若葉の歌
獨唱　加古三枝子
合唱　東京音樂學校合唱團
伴奏　東京音樂學校管絃樂團
（コロムビア　三三六九三）十五年五月

(139)
飯田龜代司作詞／下總皖一作曲
混聲合唱　かもめ
東京音樂學校生徒
箏伴奏　東京音樂學校邦樂科生徒
指　揮　伊藤武雄
東京音樂學校謹作曲／下總皖一編曲
明治天皇御製

東京音樂學校邦樂科生徒
指揮　下總皖一
（ビクター　J五四六三〇）十五年五月

(140)
觀世小次郎作
謠曲　船辨慶（上）
〃　（下）
シテ　實生重英
地　實生英雄　外
東京音樂學校邦樂科生徒
（ビクター　J五四六三一）十五年五月

(141)
箏曲　みだれ（上）
〃　（下）
東京音樂學校邦樂科生徒
指導　宮城道雄
（ビクター　J五四六六〇）十五年五月

(142)
長歌　春日局
（一）花は萬歳の
（二）かくてふ文字の
（三）犬うつ童も
（四）みもすそ川の
東京音樂學校邦樂科生徒
（ビクター　J五四六五四～五四六五五）十五年五月

(143)
柿本人麿呂歌／長谷川良夫作曲
女聲四部合唱　ひんがしの
賀茂眞淵歌／長谷川良夫作曲
女聲二部合唱　うらうらと
東京音樂學校
指揮　木下　保
佐藤春夫作詞／弘田龍太郎作竝編曲
女聲三部合唱　ものいふ葦
東京音樂學校
指揮　澤崎定之
（コロムビア　三三六八九）十五年五月

(144)
教學局制定
橋本國彦作曲
夏雲白く
柴田睦陸
合唱　東京音樂學校生徒
伴奏　日本ビクター管絃樂團
指揮　橋本國彦
紀元二千六百年奉祝會・日本放送協會制定
陸軍軍樂隊編曲
吹奏樂　行進曲「紀元二千六百年」
陸軍軍樂隊
指揮　大沼　哲
（ビクター　A四一〇二）十五年十月

(145)
風卷景次郎作詞／下總皖一作曲
女聲四部合唱　春うつる

東京音樂學校
指揮　木下　保
佐藤一英作詞／岡野貞一作曲
女聲齊唱・獨唱　向ふ岸
西條八十作詞／澤崎定之作曲／岡野貞一編曲
女聲二部合唱　春の日
東京音樂學校
指揮　澤崎定之
（コロムビア　三三六九〇）十五年十月

(147)
武内俊子作歌／下總皖一作曲
女聲三部合唱　うるはしの朝
東京音樂學校
指揮　城多又兵衞
竹中郁作詞／古關裕而作曲
かへり道の歌
加古三枝子
日本コロムビア管絃樂團
指揮　古關裕而
（コロムビア　三三七七〇）十五年十月

(148)
風巻景次郎作詞／下總皖一作曲
女聲齊唱・獨唱　都會のうた
吉田一穂作詞／下總皖一作曲
女聲三部合唱　水邊合唱
東京音樂學校
指揮　澤崎定之
河井醉茗作詞／細川　碧作曲
女聲齊唱・獨唱　山百合
東京音樂學校
指揮　木下　保
（コロムビア　三三六九一）十五年十月

(149)
ブラームス編曲によるドイツ民謠集（一）
二宮德馬譯詞
女聲獨唱付混聲四部合唱　三つの薔薇が咲いてゐた
女聲獨唱付混聲四部合唱　あはれ聽きませ
東京音樂學校
指揮　澤崎定之
（コロムビア　三三七一五）十五年十一月

(150)
源實朝歌／佐々木すぐる作曲
男聲三部・男聲獨唱・混聲四部合唱　山はさけ
水町京子作歌／岡野貞一作曲
女聲三部合唱　椿
東京音樂學校
指揮　城多又兵衞
（コロムビア　三三七一七）十五年十一月

(151)
在原勾當作曲
生田流箏曲　さむしろ
東京音樂學校（邦樂科）
指揮　宮城道雄

(152)
紀元二千六百年奉祝會謹撰
（コロムビア 三三七二一）十五年十一月
信時潔謹作曲／下總皖一謹編曲
舒明天皇御製
混聲四部合唱　やまとには（一）
〃　（二）
東京音樂學校
指揮　澤崎定之
（コロムビア 三三七一八）十六年一月

(153)
シューマン作曲／下總皖一編曲／石倉小三郎譯詞
混聲四部合唱　流浪の民
東京音樂學校
指揮　城多又兵衛
古謠・萬葉集より／信時潔作曲
混聲四部合唱　あかがり
痩人を嗤ふ歌二首
東京音樂學校
指揮　城多又兵衛
（コロムビア 三三七一九）十六年一月

(154)
高野辰之作詞／中能島欣一作曲
山田流箏曲　八幡船（一）（二）
東京音樂學校
指揮　中能島欣一
（コロムビア 三三七二二）十六年一月

(155)
世阿彌元清作
觀世流謠曲　養老
禪竹氏信作
觀世流謠曲　放下僧
東京音樂學校
指導　藤波順三郎
（コロムビア 三三七二三）十六年一月

(156)
ブラームス編曲によるドイツ民謠集（二）
二宮德馬譯詞
女聲獨唱付混聲四部合唱
うぐひす・白い鳥がゐた・さしのぼる月
東京音樂學校
指揮　澤崎定之
（コロムビア 三三七一六）十六年三月

(157)
ピツェッティ Ildebrando Pizzetti 作曲
交響曲　イ長調
第一樂章（一）
〃　（二）

(158)
〃　（三）
〃　（四）

(159)
第二樂章（一）
〃　（二）

(160)
〃　（三）
第三樂章（一）

紀元二千六百年奉祝交響樂團
指揮　ガエタノ・コメリ Gaetano Comelli
（コロムビア　A二〇〇〇六～二〇〇〇九）十六年三月
ピツェッティ作曲
交響曲　イ長調
(161) 第三樂章（一）
第四樂章（一）
(162) 〃　（二）
〃　（三）
(163) 〃　（四）
紀元二千六百年奉祝交響樂團
指揮　ガエタノ・コメリ
（コロムビア　A二〇〇一〇～二〇〇一二S）十六年三月
(164) 飯田龜代司作詞／下總皖一作曲
混聲四部合唱　麥秋
古謠／下總皖一作曲
女聲四部合唱　通りゃんせ
東京音樂學校
指揮　下總皖一
（コロムビア　三三七二〇）十六年三月
(165) 世阿彌元清作
寶生流謠曲　鞍馬天狗（一）
〃　（二）
東京音樂學校
指導　寶生九郎
（コロムビア　三三七二四A）十六年三月
シャンドール Veress Sándor 作曲
(166) 交響曲　第一樂章（一）
〃　（二）
(167) 第二樂章（一）
〃　（二）
〃　（三）
(168) 〃　（四）
第三樂章（一）
〃　（二）
紀元二千六百年奉祝交響樂團
指揮　橋本國彥
（コロムビア　A二〇〇〇三～二〇〇〇六）十六年三月
イベール Jacques Ibert 作曲
(169) 祝典序曲（一）
〃　（二）
紀元二千六百年奉祝交響樂團
指揮　山田耕筰
（コロムビア　A二〇〇〇一）十六年三月
(170) イベール作曲
祝典序曲（三）
〃　（四）
紀元二千六百年奉祝交響樂團

指揮　山田耕筰
（コロムビア　A二〇〇〇二）十六年三月

(171) シュトラウス Richard Strauss 作曲
祝典音樂（一）
〃　（二）
(172) 〃　（三）
〃　（四）
(173) 〃　（五）
紀元二千六百年奉祝交響樂團
指揮　フェルマー Hermut Fellmer
（コロムビア　A二〇〇一三～二〇〇一五S）十六年三月

(174) 洗鯉樓主人作詞／吉住小三郎・稀音家淨觀作曲
長唄　櫻咲く國（一）
〃　（二）
東京音樂學校
指導　稀音家淨觀
（コロムビア　三三七二五）十六年三月

(175) 相馬御風作詞／深海善次作曲
日本婦人の歌（やまとをみな）
大谷冽子
日本ビクター女聲合唱團
日本ビクター管絃樂團
東京音樂學校作曲／橋本國彦編曲
をみなの希ひ

中村淑子
日本ビクター管絃樂團
（ビクター　A四一五六）十六年三月

(176) 文部省撰定
東京音樂學校作詞作曲
青年學校生徒御親閲奉唱歌（獨唱）
〃　（齊唱）
（ビクター　PR二五八）十六年三月

(177) 北原白秋作詞／信時潔作曲
交聲曲　海道東征（一）第一章　高千穂（上）
〃　（二）
〃　（下）
(178) 〃　（三）第二章　大和思慕
〃　（四）第三章　御船出（上）
(179) 〃　（五）
〃　（下）
(180) 〃　（六）第四章　御船謠（上）
〃　（七）
〃　（中）
(181) 〃　（八）
〃　（下）
〃　（九）第五章　速吸と菟狹（上）
〃　（十）
〃　（下）
(182) 〃　（十一）第六章　海道回顧（上）
〃　（十二）
〃　（下）
(183) 〃　（十三）第七章　白肩の津上陸
〃　（十四）第八章　天業恢弘（上）
(184) 〃　（十五）
〃　（下）

獨唱竝合唱　東京音樂學校
伴奏　東京音樂學校管絃樂部
指揮　木下　保
大伴氏言立／信時　潔作曲
合唱　海ゆかば
東京音樂學校
伴奏　東京音樂學校管絃樂部
（ビクター　A五〇四～五一一）十六年五月

(185) 朝日新聞社選定／東京音樂學校作曲
國民學校の歌
東京音樂學校生徒
上野兒童音樂學園兒童
伴奏　東京音樂學校管絃管團
指揮　橋本國彦
東京音樂學校作曲
行進曲　國民學校の歌
東京音樂學校管絃樂團
指揮　橋本國彦
（コロムビア　〇〇二四八）十六年五月

(186) ヨハン・シュトラウス曲／妹尾幸陽譯詞
混聲四部合唱　美しく碧きドナウ（一）（二）
東京音樂學校生徒
指揮　木下　保
（コロムビア　三三四二七）十六年九月

(187) 佐々木信綱謹作曲／信時　潔謹作曲
皇后陛下御誕辰奉祝歌
女聲齊唱竝二部合唱　東京音樂學校
指揮　澤崎定之
獨唱　淺野千鶴子
（コロムビア　三三七四一）十六年九月

(188) 北白川宮永久王殿下御作／信時　潔謹作曲
伊勢神宮にて
謹　唱　東京音樂學校
ピヤノ　朝倉靖子
北白川宮永久王殿下御作／陸軍軍樂隊謹作曲
駐蒙軍の歌
獨唱　伊藤武雄
陸軍軍樂隊
指揮　大沼　哲
（コロムビア　一〇〇三五八）十六年十二月

(189) ボヘミヤ民謠／旗野十一郎詩
混聲四部合唱　霜の旦
東京音樂學校
指揮　木下　保
メンデルスゾーン曲／黒川眞頼詩
混聲四部合唱　分袖
東京音樂學校
指揮　木下　保

(190)
日本古謠／下總皖一編曲
さくらさくら（上）（下）
東京音樂學校
指揮　木下　保
（コロムビア　三三七五〇）十六年十二月

(191)
鳥居忱詩／ハウプトマン曲
混聲四部合唱　羽衣
高野辰之詩
スエーデン民謠
混聲四部合唱　空しく老いぬ
武島羽衣詩／ベートーヴェン曲
菊の盃
東京音樂學校
指揮　木下　保
（コロムビア　三三七五一）十七年三月

(192)
末廣嚴太郎作詞／東京音樂學校作曲／橋本國彦編曲
國民皆泳の歌
獨唱　藤井典明、加古三枝子
東京音樂學校管絃樂團
指揮　橋本國彦
齊唱　東京音樂學校
指揮　橋本國彦
（コロムビア　二三〇一五）十七年六月

(193)
信濃宮神社奉贊會謹選
信濃宮御歌
信時　潔謹作曲・奥山貞吉謹編曲
君のため
東京音樂學校謹唱
コロムビア管絃樂團
指揮　澤崎定之
萬葉集より／下總皖一曲
醜の御楯（男聲齊唱、獨唱、四部合唱）
酒井　弘
コロムビア男聲合唱團
コロムビア管絃樂團
指揮　下總皖一
（コロムビア　三二〇五六）十七年六月

(194)
尾崎喜八作詞／信時潔作曲／服部正編曲
大詔奉戴日の歌
柴田睦陸
大谷洌子
菅　美沙緒
かちどき合唱團
日本ビクター管絃樂團
紀元蓿
合唱　東京音樂學校
指揮　木下　保

(195)
古歌／林　廣守作曲
君が代
千家尊福作歌／上眞行作曲
一月一日
合唱及絃樂伴奏　東京音樂學校
指揮　澤崎定之
（ポリドール（大東亞）P五二四七）十七年九月

(196)
黑川眞頼作歌／奥　好義作曲
天長節
勝　安芳作歌／小山作之助作曲
勅語奉答
合唱及絃樂伴奏　東京音樂學校
指揮　澤崎定之
（ポリドール（大東亞）P五二四八）十七年九月

(197)
明治蓿
高崎正風作歌／伊澤修二作曲
紀元蓿
合唱及絃樂伴奏　東京音樂學校
指揮　澤崎定之
（ポリドール（大東亞）P五二四九）十七年九月

(198)
滿洲建國十周年記念
東京音樂學校作曲／風卷景次郎作詞
滿洲大行進曲（上）（下）
東京音樂學校管絃樂部
合唱　東京音樂學校生徒
編曲竝指揮　橋本國彦
（ビクターA四三五六）十七年十月

(199)
山本五十六作歌／須藤五郎作曲
軍神を悼む（現代日本の音樂）
獨唱　內田榮一
伴奏　大東亞管絃樂團
指揮　須藤五郎
萬葉集より
火長今奉部與會布作歌／平井保喜作曲
今日よりは（現代日本の音樂）
東京音樂學校
ピアノ伴奏　永井進
指揮　平井保喜
（ポリドール（大東亞）P五三一五）十八年五月

(200)
佐々木信綱作歌／東京音樂學校作曲／橋本國彦編曲
齊唱　大詔奉戴の歌
東京音樂學校
帝國海軍軍樂隊
指揮　內藤清五
百田宗治作詞／片山穎太郎作曲
忠靈塔の歌
獨唱　千葉靜子

東聲會合唱團
ピアノ　竹村參郎
（ポリドール（大東亞）P五二八六）十八年五月

(201) 文化事業報國會・主婦之友社選定／情報局・陸軍省・海軍省推薦
信時潔作曲／橋本國彦編曲
日本の母の歌
藤井典明
千葉靜子
伴奏　日本ビクター管絃樂團
混聲合唱　東京音樂學校
指揮　澤崎定之
（ビクターA四三六九）十八年五月

(202) 大政翼贊會制定
海犬養岡麻呂歌
みたみわれ
四家文子・藤井典明
合唱　東京音樂學校
伴奏　日本ビクター管絃樂團
編曲・指揮　橋本國彦
（ビクターA四四二〇）十八年七月

(203) 大木惇夫作詞／仁木他喜雄作曲
海のたましひ
伊藤武男
日蓄男聲合唱團
日蓄管絃樂團
指揮　仁木他喜雄
海務院推薦
仁木他喜雄作曲
日の本のをの子
酒井　弘
合唱東京音樂學校
日蓄管絃樂團
指揮　城多又兵衛
（ニッチク一〇〇七六三）十九年一月

(204) 清水重道作詞／信時潔作曲
沙羅（一）丹澤の
〃（二）あづまやの・北秋の

(205) 〃（三）沙羅・鴉
〃（四）行々子・ゆめ

(206) 〃（五）占ふと
北原白秋作詞／信時潔作曲
つなで・幻滅・をみな子よ
木下　保
ピアノ伴奏　水谷達夫
（ニッチク九〇六三四～九〇六三六）十九年十月

六　東京音樂學校學友會雜誌『音樂』

『音樂』は明治四十三年一月から昭和十五年一月まで東京音楽学校学友会により刊行された雑誌である。創刊から大正十一年十二月まで月刊であったがいったん廃刊。翌年「第一號」として復刊され、今度は年に一～二度刊行されて昭和十五年一月まで続いた。

本項においては『音樂』の主旨や刊行に関わる内容の記事を掲げ、以下、各号の目次を紹介する。

發刊の辭

けふ明治四十三年一月五日、帝國の文運を助長するの使命を負ひて、わが『音樂』は生れたり。顧るに、わが東京音樂學校が、創めて音樂取調掛の名によりて文部省内に置かれたるは明治十二年十月にして、實に三十三年の昔なり。この間、卒業生を出すこと五百十六名にして、一年に十六名弱の割合なり。これを他の文學藝術、例へば同じき官立たる東京美術學校の、明治二十一年より二十年間の今日に至るまで七百二十名、即ち一年に三十一名弱を出したるに比しても、其數に於て、既に大なる軒輊あるを見ば、以て我國民が美術と音樂とに對する趣味の高下深淺を卜するに足るべし。嗚呼、優美なる國民性ありと誇る我帝國にして、ひとり音樂に於ては尚かくの如き狀態たるに安んぜんとするか。いま吾人が自ら揣らず從來の『學友會雜誌』を擴張して『音樂』となし、聊か紙筆を借りて平生の研鑽の結果を披陳し、以て我帝國音樂の發展に資せんとする所以のものは實に憂をこゝに抱けばなり。聊か蕪辭を列ねて以て發刊の辭とす。

（『音樂』第一巻第一号　明治四十三年一月　一頁）

『音樂』に望む

湯原元一

『音樂』は東京音樂學校學友會の機關にして、斯道名家の翼贊の下に發行するものなれば、言ふまでもなく其の紙面に於ても、飽くまでも右學友會の主義本領を發揮するを要す。決して彼の普通營利的に發行する諸雜誌の如く、一時讀者の觀心を買はんとするが如き所爲あるべからず、隨つて其の記する所の如きもの成るべく眞面目なる研鑽の結果を主とし彼の一時興到の作にして何等工夫を費さゞるものゝ如きは、成るべく之を避けざるべからず。況んや又彼の自から揚げて他を貶し、甚しきは無責任なる冷嘲惡罵を逞うするが如きは、『音樂』の斷じて之を爲さゞらんことを切望す。

今や社會一部の心あるものは、音樂者の人格に嫌焉たるもの少しとせず。斯くの如きは獨り其人の不幸たるのみならず、實に斯道一般の面目上、忽諸に附すべからざることなりといふべし。されば今の時に當りて、音樂者たるものの宜しく務むべきは、啻に其の學藝を研磨するのみならず、又兼ねて其の行に其の言に、一段修養の實を擧ぐるにあり。さはれ、阿諛迎合は、素より苟も道に志すものゝ爲すを屑とせざる所なれば、一旦、事の眞理の闡明に關するものあるに至つては、『音樂』は宜しく斷々乎として其の所信を公表し、彼の道に當つては師にも讓らず、天下をも敵とする底の氣慨を以つ

て、直前邁往するを要す。一言所感を記し、以つて『音樂』に望む。

（『音樂』第一巻第二号　明治四十三年三月　一頁）

會友を募る

我が學友會は先年來會友の制を設け、一般同好諸君の爲めに、音樂趣味養成の便宜を計らんとす。此目的の爲めに本會は機關雜誌「音樂」に一層の改善を加へ、技術上の手びき、樂理上の解説より、音樂の歴史、美學、哲學、教育及文學、美術等の論説に至るまで、あらゆる方面の好材料を掲載して、これを會友に頒布し春秋二回の大會の外、隔月に土曜演奏會を開き、また別に講演會を開催して、會友の随意參聽を待つ、同好の諸君希くは加入せられよ。

東京音樂學校

學　友　會

會友規約大概

一、本會の趣旨を贊するものは何人たりとも會友たるを得。
一、會友は會費として六ヶ月壹圓五拾錢（「音樂」誌代相當額）以上を前納するを要す一ヶ年ならば參圓也。
一、會友は本會所催の演奏會及講演會に随意參聽することを得。
一、會友は東京音樂學校所催の演奏會にも入場の便宜を得べし。
一、會友は本會編輯の雜誌音樂の無代頒布を受く。
一、會友は雜誌「音樂」誌上に於て音樂上の質疑をなすことを得。
但し至急解答を要するものは返信料を添ふべし。
一、會友は作曲の添刪を乞ふことを得、其中優秀なるものは誌上に掲載することあるべし。（すべて添刪を望むものは返信料を添へ姓名を明記すること）
一、會友は樂器購入の際選擇を乞ふことを得。

（『音樂』第八巻第七号　大正六年七月　巻頭）

學友會土曜演奏會開催廣告

來る十二月十六日土曜日午後一時半より東京音樂學校奏樂堂で土曜演奏會を開催致します。會員及び會友の方々は證票を御持參の上定刻迄に御來場下さい。なほ前回の演奏會で御報告致しました通り、雜誌は十二月號限りでやめますが、演奏會は從前の通り開催致し、其都度御通知申上げる事に致します。當日御入會、御入場の便宜のありますことも從前と少しも變りません。好樂の方々の御入會を希望致します。

注意　■雨天でない限り靴か草履が御便利です。御歸りの時下足が混雜致しますから。
■演奏中の御出入は御遠慮下さい。喫煙は休憩室以外では絶對にさらぬやう御願ひします。
■男子で和服の方は必ず袴を御着け下い。

大正十一年十二月

東京音樂學校學友會

（『音樂』第十三巻第十二号　大正十一年十二月　目次）

編者から

月刊の『音樂』が廢刊になつて幾らも經つてゐないので無理とは思ひましたが卒業する前是非とも創刊號を私たちの手から出したいといふ片意地からやつて見ましたどんなものが生れるだらうといふ憧憬やら好奇心やらが編者の仕事をずん〳〵はかどらせました內容の貧弱は免れませんたゞ今までのに比べてこの小さい雜誌が本當に私たちのものだというふなつかしい感じを起させるものであることは確かだと思ひます全く試みに成るまゝに作つたものですからいろ〳〵訂正すべきことや改むべきことや大いに考へなければならない餘地のあることは勿論ですが何よりも先づ小さながら(ママ)も私たちの懷から出たこの「音樂」のために祝つてやって下さい。

序ながらいろ〳〵盡力下された諸先生に御禮を申し上げます。

(編輯を終へて)

(『音樂』第一号　大正十二年三月　巻末)

編輯後記

一月中に發行致したいと存じてゐましたが何樣五十週年記念で多忙でしたので終ひにこんなに遲くなつてしまひました、やつと今日御目見得致します、惡しからず御赦し下さい。

經驗ない者がかゝる仕事を致すものですから折角お出し下さつた原稿を臺なしに致してしまつた樣な氣がします、此の點に就きましても重ねて御赦しを願ひます。

原稿を戴きました諸先生、竝に皆樣に厚く御禮申上ます。御多忙中一々檢閲御指導を賜りました乙骨先生信時先生に皆樣と共に御禮申上ます。

前々理事からの云ひ傳へですが皆樣書く力を持ち乍ら原稿を餘りお出し下さいませんが、どうぞどし〳〵「音樂」の發展の爲め御出し下さい。終りに臨みまして、皆樣の健康を祝して止みません。

(係)

(『音樂』第十号　昭和五年三月　一二八頁)

編輯後記

一月早々に出る筈でしたのに、遂今までのび〳〵になつて、さぞ皆々樣、殊に投稿下すつた方々にはお待ち遠だつたことゝ存じます。この原因は理事である私の無經驗だつたゝめ原稿が集まらなかつたことによるものと深くお詫び申し上げねばなりません。生徒の數が少いためか集る作品がほんの少しにとゞまることは理事にとつてもどんなにか淋しいことか知れません。殊に女子の方からの投稿の少ないのは實に不思議な位に思はれます。も少し折角の機關である「音樂」を御利用下さいます樣お願ひいたします。

終りにお忙しいところを色々とお世話下さいました校長先生、木內、信時、馨、太田、近藤の諸先生に厚く御禮申し上る次第で御座居ます。(小池)

(『音樂』第十二号　昭和六年三月　九四頁)

はしがき

太田太郎

發刊が非常に遲れて申し譯ない。本年度は豫算の關係から年二回

の慣例を破つて一回に減ぜざるを得なくなつた。しかし一回でも内容の充實したものを出せば、それで使命は充分果せたことになるといふ考へから、材料を吟味し、その仕上げと原稿の提出を氣永く待つたために、豫定以上に發行が遲延してしまつたのである。

元來、本誌「音樂」が過去に於て立派な歴史を有してゐたことは多くの人々の知る通りである。嘗つて本誌は本邦に於ける信憑するに足る唯一の音樂雜誌として、理論實際兩方面に亘る紹介、飜譯をはじめ內外樂界の消息を着實に傳へ、搖藍時代の我樂界を指導し、之が向上に多大の貢獻をなしてゐたのである。時代の進展に伴ひ、その後我國にも數多の音樂雜誌が生れた。そしてこれらが自然淘汰の原理に支配されてゐることは勿論であるとしても、その若干のものが方面の異るに從ひ、それぞれ特色ある記事を掲載すべく努力し、輓近加速度的に進步しつゝある我樂界に雁行して進步の跡を見せてゐるのである。我が「音樂」は如何。果してその後精進を續けて來たであらうか。之吾人の第一に反省を要する事項であらう。

本誌が東京音樂學校學友會の機關雜誌である以上音樂中心の雜誌であることには何人も異存を挿まないであらう。又純理論的に觀みても、かくあるべき筈である。又過去に於て或る意味で事實そうであつた。吾人は敢て或る意味でといひたい。何となれば、時代の推移と共に音樂中心といふ意味內容も必然的に變改される必要があるからである。然らば本誌は如何なる意味內容の變改を以て音樂中心たり得るか。

こゝに看過すべからざることは本誌が音樂の專門家を養成し、又專門家が活動してゐる學校中心の音樂團體に屬する機關雜誌であることである。こゝに本誌の本質があり使命があるのである。換言すれば、同じ音樂中心といふ範疇に入るとしても、何等かの意味で營利に關聯をもつ音樂雜誌と趣を異にするのはこの點である。嘗つて本誌は我が樂界に君臨し專門家のみならず一般大衆をも指導し啓蒙した。しかし輓近の如く大衆を指導し得る各種の音樂雜誌が生れてゐる以上、寧ろこの方面は他に委ねて然るべきである。少くとも之を第一義とすべきではない。學校中心の專門家的音樂團體に屬する我が「音樂」には、現時に於て更に重大な使命が與へられてゐるのである。それは營利、迎合の類を廢した遠大にして着實な、專門家の糧たり得る廣義に於ける教育的、研究的音樂雜誌たらしむることである、之實に本邦に於ける他の音樂雜誌に類を見出し得ない特色であり又現時に於ける我が團體の切實な要求である。第一義的にはこの道に精進するときは自ら新時代に更生し、第二義的に大衆をも啓蒙し指導する結果となる。

かゝる見解から、本年度は校長の歸朝の訓示たる「歐米音樂視察談」をはじめ、本邦に於て當然紹介又飜譯さるべくして而も營利的見地から或は研究に多大の日子を要する爲に從來實現せられざりしもの、又實現の可能性の僅少なもの、その他有益と考へられる音樂資料を選び、生徒の音樂及語學の勉學に資し併せて他をも裨益する如き外國の音樂書の譯、それも主として樂曲解剖を以て之に充當したのである。

先づ Riemann : "Analyse von Bachs Wohltemperierte Klavier" 2 Bde. (I. Aufl, 1890 II. Aufl. 1906 Hesses Illustrierte Handbücher Nr. 18, 19).

その英譯 Analysis of J. S. Bach's Wohltemperiertes Clavier trl, by J. S. Shedlock (Auguner Ltd. London) の第一卷にある Präludium und Fuge 二十四曲をピアノ專門の生徒に一乃至三曲配當し、既に大部分譯了してゐるが、編輯の關係から先づ卒業する人々の譯した十二曲を取敢えず掲載した。尙獨乙の原本になく英譯の卷頭にリーマンが自身書いてゐる彼の和聲及節奏の論旨は是非必要と考へる故に譯出して附加した。しかし名著と云はれてゐる本書は又難解を以ても知られてゐる。語學的のみならず又學說そのものにも數多の疑義を含む。生徒諸氏も譯に當つて絕大な努力を拂ひ、自分としても事情の許す限り校訂に努めたつもりであるが尙不充分であり時には誤謬があるやも計られない。又譯語も出來るだけ統一したが尙不完全たるをまぬがれない。之等に就いては識者の叱聲を賜つて將來完全なものに改訂したいと思ふ。

次に Paul Mies : Schubert der Meister des Liedes (Die Entwicklung von Form und Inhalt in Schubertschen Lied) (1928 Hesse Illustrierte Handbücher Nr. 89) は原本で四百頁程のもので、聲樂專門の生徒により今回はその最初の四十頁程が譯出されたが、之も逐次に發表する豫定である。著者ミース（一八八九年生）は樂曲の形式と內容、樣式と感情表出の關係に關する現代獨乙に於ける有力な研究家で、ベートーヴエン、ブラームスの樣式をはじめ數多くの論文が發表せられて居り、特にリード研究に卓越してゐる。このシューベルトのリード研究は近著であるが、我國の專門家にとつても好適な參考書となるであらう。

更に Algernon H. Lindo : Pedaling in Pianoforte Music. (1922 Kegan Paul.) は既に全譯完了してゐるが、今回は編輯の都合から、遺憾ながら全部を掲載することができない爲に、その要領を綴合せ譯編の形式にして發表してもらつたのである。「マーレルに就いての斷片」は Unger : Musikgeschichte in Selbstzeugnissen (1928 R. Piper & Co. München) 中から摘譯したもの、「ブゾーニの言葉」は論文集 "Von der Einheit der Musik" (1922. Hesses Illustrierte Handbücher Nr. 76) 中のものである。

尙、作曲も數多寄稿されてゐるが、之も編集の關係から、今回は割愛し、追つて一纏めにして公にしたいと思つてゐる。今回は作曲としては、プリングスハイム氏が好意的に寄せられたリード "Frauenhand" (ピアノ伴奏附及管絃樂伴奏附二種) のみを掲載した。ピアノ伴奏用のものは既に獨乙で刊行されたもの、管絃樂伴奏用のものは草稿で本誌が初版である。兩種を出したのは比較勉學の目的に基く。

いづれにせよ、今回は更生に對する一の試み、瀨踏みである。從つて不備の點が多々あるのみならず、記事も譯に偏した傾向がある。將來は管絃樂、室內樂乃至音樂教育等凡ゆる音樂の領域に於ける研究に及ぼし又生徒の學習記事以外に、職員卒業生の投稿を得て、譯に紹介に、言論に自由にして着實な研究の野たらしめたい。

繰り返へしていふが、不備な點、當事者の氣附かぬ點など多々あることゝ思ふ。幸、本誌のこの擧に御贊成あつて將來御援助御叱正を切に願ふ次第である。

終りにプリングスハイム氏の御寄稿に謝意を表すると共に、半年

以上刻苦勉勵された生徒諸氏の熱誠に心から感謝する次第である。

（『音樂』第十三号　昭和七年三月　一～四頁）

學友會發會當時

遠藤　宏

明治何年にわが學友會が出來たか、會誌は何年頃に發行されたか、學友會演奏會の最初はどうであつたか。その頃の本校と生徒の生活はどうであつたか。これ等の史料を集めたいと心掛けてゐても甚だ困難を感じる。しかし本年秋第百回學友會記念演奏會を開催し得た機會に、僅な史料によるが學友會發會當時を回顧して見ることも意味があらう。史實に誤謬があつたら何卒御教示を乞ふ次第である。

發會式は明治二十五年十一月三日天長節（明治天皇）の祝日を卜して擧行されたことを古い「音樂雜誌」（明治廿五年十一月廿五日發行）で發見した。それには次のやうに記されてある――

「學友會發會式　東京音樂學校生徒諸氏には此回智德を增進し相互の交誼を厚ふせんとの目的にて生徒自らは正員となり同校職員を客員として學友會なる者を組織し去る三日天長節の佳辰を卜して其發會式を同校奏樂堂に於て開かれたり先づ當日式の順序は會員一同著席するや北村委員の報告竝に祝辭女子部委員總代賴母木駒子麻生富久子戸城やす子三浦みほ子香取春子諸孃の祝文林甚藏氏の音樂上に於ける演說東琢氏の歐文祝辭次に村岡會長神津、上原、鳥居三客員の演說男子部の唱歌にて式を了へ晝飯後餘興としては男子部の謠舞兒島高德の事實女子部の建物男子部の手品女子部の讀物男子部の備後三郎の劍舞、曾我兄弟の謠舞其外福引等にて壯快なる發會を終り一同食堂に會し辨當茶菓の饗應ありたりき」

この年の天長節の式は午前九時から奏樂堂で行はれ、洋琴伴奏にて立禮「君が代」の曲二回合唱し、校長教員生徒一同一々兩陛下の御眞影に拜禮し奉りて、天長節の祝歌を合唱し、勅語朗讀竝に校長の謹話、本科生の「君は神」（ベートーヴエン作）を合唱して式を了つてゐる。時の校長は二代校長理學博士村岡範爲馳氏であつたことは言ふまでもない。この式の後に同じく午前中に學友會發會式が行はれたわけである。

さてその發會式の時の委員北村氏は故北村季晴（師範部）女子部委員中賴母木、三浦さんも故人になられてゐる。但し香取春子さんの名が同聲會名簿には見えない。林甚藏（重浩）氏關（戸城）やす子、麻生フクの皆樣、竝に橘いとへ先生（明治廿五年卒業）に御目に掛つて當時のことをお尋ねしたならと思つてその機會をまだ得ない。尙上原、鳥居客員とは教官上原六四郎、鳥居忱兩氏である。餘興の劍舞などはさすが明治年間のことですさまじかつたらうが、男子部の唱歌とあるのは何を歌つたのであらうか。その唱歌で式を了へたとあるからには發會式に因んだものであつたらう。私は恐らくこゝに掲げた二歌であつたらうと思ふ。卽ち

「霜月この日」（祝學友會發會式）……石原重雄作曲　飯田三三雄作歌

「野　遊」（學友會の歌）……元橋義敦作曲　飯田三三雄作歌

故石原重雄氏、元橋義敦氏は共に明治廿六年專修部卒業、故飯田三

三雄氏（同聲會名簿には二三雄とあり、いづれが眞なるか）は同年師範部卒業。これ等の歌が何年頃まで歌はれてゐたか。そして記念日に「萬歳〳〵」とか云ふオペラ「ノルマ」の燒きなほしが明治三十二年十月三日から歌はれる習慣になかつたことなどについては後の考證としたい。

一體音樂學校創立間も無いこの頃、そして學校として基礎がしつかりして來て、生徒の數も漸次增加して來たこの頃、職員生徒一同は時々園遊會などをやつたらしい。それについて次のやうな史料がある。園遊會は歡樂會と稱した——

「村岡校長の催にて去月三十日（明治廿五年十月）小石川植物園に於て音樂學校生徒の親睦會を開かれたりしが教員生徒其他來賓を合して凡百餘名園內各所に茶菓及遊戲器械を備へ置き自由に園遊せしめ且つ午後よりは餘興として荒木古童上原六四郎氏の尺八にて鹿の遠音岡康砧、次に松竹梅の箏曲川島女史の木琴合奏次は風琴伴奏にて薔薇の歌を唱歌し終りに二百餘種の福引等ありて點燈頃散會しぬ」

とある。ヂツトリヒ外人教師もその中にゐたであらう。どんな服裝で遊園したか？　その頃の生徒の服裝について面白い惡口が「音樂雜誌」（明治廿五年十一月號）に出てゐる——

「經濟の點には關係もあるなれども女生の被布と花魁草履男生の鳥擊帽子は見良いか惡いか判斷して欲〔し〕い」

とある。こんな服裝で植物園に於ける園遊會を想像してはいけないであらうが。但し校服の一定は同年十二月廿四日午前九時から閉校式があつた際の村岡校長訓話中に見える。卽ヂツトリヒ教師の洋琴伴奏にて「太平の曲」を合唱した後の校長訓話中に

「次に制服の事なり此制服に就ては來春より各制服を着する以上は猶一層官立學校の生徒たる品行等を誤らさらん事を勉むべし女生には別段制服を定めざるも先づ美服を競ふ事を廢するを以て制服に代ふる事となすべし（中略）垢の着かざる木綿服を着し以て制服たらしむる樣心懸くべし云々」

さて學友會發會後第一回學友會演奏會が開催されたのは同年十一月廿七日午後一時半本校奏樂堂に於てゞあつた。第一回學友會演奏會の曲目とその批評を次にかゝげる——

「第一席は「領巾麾嶺（ヒレフルヤマ）」、「良友を思ふ」の二唱歌、次にクラリネツト、ピアノ伴奏は或は近く或は遠く其抑揚宜しきを得特に各曲（註、曲名不明）なれば外國人を喜ばせたるのみならず耳新らしく聞かれたり、山勢、麻生、橘諸孃の箏曲「西行」は纖手絃上に揃ふて踊り云々、次に「秋の夜」の唱歌は充分悲哀の情を含み、「客舍早發」の唱歌は四重音の活劇にして喝采を得たり。次にヴアイオリン曲ガボツト等は麗且つ妙と云ふべく、喝采の拍手は暫しも止まずしてヂツトリヒ氏再じ出て禮謝せり。暫時休憩。（註、第二部に入りて）一番目はオルガンにて喪式進行曲及進行曲を奏せり、次にヴアイオリン曲「タンホイゼル歌劇の幻想」は非常に情緒を動かし滿堂蕭として聲なく外國人の如きは身を躍らしつゝ再奏を促したる程なり。次は山中幽閉、薩摩潟。次は山勢松韻、遠山甲子（きぬ）子其他數名の箏曲「松盡し」なりしが滿場大請して拍子の音に心强きを得たり、只惜むらくは改作歌詞の摺物なきを恨む者多きが如くに見へたり。次はヴアイオリン曲甲乙二曲

（註、曲名不明）。尤終曲「奉迎」の歌にて唱歌は總樂器の伴奏にて正會員殘らず唱歌せし事なれば大喝采と共に散會を告げ、特別券携帶者には茶菓を呈されたり。當會の特に注意されたる如く見受けしは風琴の蹈盤を蹈む足の見えて不體裁なるを恐れ化粧房にて穩されたると經濟的の大盆栽を飾り活花に代用せられたると又窓の開閉に注意して炭酸氣を洩らされし等は感心々々」又この演奏會の批評を横濱メール記者が報じたものを元橋義敦氏（當時最上級生）が譯されたものがある。

「（前略）曲目の數には何れもよきものゝみ撰まれしには何れをよしと云はんことはかたき業なりや、されどそが中にも特に覺へしは二の部第二の曲（註タンホルゼ幻想曲）なりき。こはピアノの役を教師ヂツトリヒ氏とられて、ヴアイオリンを二人のうら若き貴女のなされたるなりき……我等たゞおどろくといはんより他の言の葉もなし（註、二人のうら若き貴女の名は不明であるが私の考へでは幸田延子先生外遊中であつたので恐らく石岡（後の小關）得久子と賴母木駒子兩孃であつたらうと想像される）…中略…我等は此廿七日の午後をおもしろく樂しく暮したるかたじけなきを校長村岡氏教師ヂツトリヒ氏ならびに此學友會のかたがたに謝するになん云々」

越えて翌明治二十六年二月十一日記元節の祝日、式後午後一時より學友會の第三回目の會合あり、奏樂堂にて演奏があつた。これは第一回よりは規模の小なるもので演奏會と致し難いかも知れぬ。曲目は

(1)「春の夜」「太平の曲」飯田三三雄風琴獨奏、(2)東琢氏の朗讀、(3)麻生令孃の洋琴獨彈、(4)囑託教師三輪田眞佐子の至誠と云ふ演說、(5)神津、上原、田村三氏の演說、(6)西川令孃「我が大君」の獨唱、(7)石原重雄氏の風琴獨奏、(8)來賓某氏の平家琵琶「那須の與市」「木曾義仲の最後」等

尙この頃初代校長伊澤修二先生の音樂上に力を盡され、其功績も世間の認る處であつたので、同校長の燻陶を受け、音樂に從事してゐる有志が相謀つて紀恩賞を贈呈したことがある。これは兼て伊藤勝見氏に製作方を依賴してあつた金牌であつて、直徑二寸餘、表面は天の岩戸鷄鳴の圖で、裏面は樂器と花絞を彫刻したものであつたと記されてゐる。

第二回學友會演奏會

明治二十六年二月十九日午後一時　於奏樂堂

一　部

一、唱歌　我が國、愛國歌
二、ヴアイオリン曲、舞蹈曲、ワリアント
三、唱歌　戀しき母、二見が浦
四、三曲　山勢、遠山、今井、上原「櫻狩」
五、ピアノ　麻生令孃、ソナタ
六、唱歌　富士登山の歌、春の夜
七、ヴアイオリン、甲、マンス、乙、アダムエツト、丙、進行曲

二　部

一、唱歌　歌の德（註、ヂウトリヒ作、四部混聲合唱）
二、風琴曲　島崎、石原兩氏　甲、ソナタ、乙、タンブラン連奏（ツレヒキ）

三、箏、ヴアイオリン鏡なす、岸の櫻
四、唱歌　雪投、進軍曲
五、能樂　羽衣、熊野、金春、大和田、觀世の三氏
六、ピアノ　雨、ミニユエツト（モーツアルト作）橘、中村、麻生三令孃連彈（ツレヒキ）
七、ヴアイオリン曲、オルガン、ピアノ伴奏（二十數人にて演奏）
　甲、コシ・フアン・ツート（モーツアルト作）歌劇中のクインテツト
　乙、ミニヨン（トーマ作）歌劇中ボヘミア人舞曲
　丙、樂聖セチリアを稱する曲

この曲目中、第二部、二番目「鏡なす」「岸の櫻」は中々進歩せる仕組にて、芝葛鎭作、ヂツトリヒ編作、箏は數面を使用したとある。尙此第二回演奏會評が一八九三年三月二十三日發行ジヤパン・デーリー・メール新聞に記載されたものを本校教官故神津專三郎氏譯で讀んで見ると、バツハ作壯嚴なる「クルシフイクス」がヂツトリヒ教師の努力によつて立派に歌はれたとある。此曲が曲目中のどれに當るかゞ問題である。當時は原曲名を多くの場合記載せず、意味の全然異つた歌詞で歌ふ習慣である。で當日最も喝采を博した「富士登山の歌」がクルシフイクスであつたのではなからうか。本校保存の演奏歌詞集で見るとその歌詞は

富士登山の歌（黑川眞頼作詞）

富士の嶺神山、〳〵〳〵。　御影高し、〳〵〳〵。
高しや御陰、〳〵〳〵。　富士の高嶺や、〳〵〳〵。
富嶽の麓に於て道者此處に群を爲して進み富士の高嶺を仰ぎつゝ謠ふ、ピアノ伴奏は步行に擬す。

同じ歌詞を反覆（ママ）合唱する點からも私の想像は當つてゐるのではなからうかと思ひ、岡野貞一先生にうかがつたら正しくさうであつた。尙その古樂譜をも保存されてゐられた。

この第二回の演奏會の開催された同月、本校外で開催された音樂會を一瞥することも當時の音樂界を知る一助とならう。

一、軍樂學舍第二回新築紀念祭　明治廿六年二月十日―十二日
　餘興　一、紀念祭大序歐洲樂（全員）
　　四、西班牙舞曲、ヴアイオリン獨奏。山本氏
　　五、「六奇人」音樂劇（ヱツケルト教師の出し物）
　　七、カルメン歐洲樂
　　十一、南洋のバラ歐洲樂（註、ヨハン、シユトラウスのワルツなる可し）
二、樂友會（一高）、明治廿六年二月十九日午後一時
　榊保三郎氏外六名、ヴアイオリン洋琴合奏
　唱歌　浮雲（鈴木米次郎氏作）
　音樂學校學友會諸氏　ピアノ、唱歌
　榊氏ヴアイオリン獨奏　其他

尙同年五月十一日午後八時半より鹿鳴館にて開會された赤十字社慈善音樂會には式部職雅樂、洋樂と共に、本校職員生徒の出演があつた。曲目中

ミニユエツト竝土耳其行進曲　橘、中村、麻生、連彈
ヴアイオリン獨奏　コンソルト竝ポロネーズ、ヂツトリヒ教師

奉迎の歌　全校生、ヴアイオリン、セロ、オルガン、ピアノ伴奏、四部合唱、ヂツトリヒ指揮

その翌日十二日には男生徒と教師三名が箱根宮の下一泊で遠足してゐる。

六月十一日には學友會練習會（男子部）が奏樂堂で行れた。曲目は—

第一部（一）破邪曲(唱歌)、（二）維納　マーチ(ピアノ)、（三）ウヰクトル曲（ヴアイオリン）、（四）大塔宮（唱歌）、（五）西行櫻（三曲）、（六）キュージアス・アニマン及パストレール（風琴）、（七）ラスト・ローズ・オブ・サンマー（クラリネツト）、（八）皇國精神（唱歌）

第二部（一）イスラエル歌劇の曲中ブムブウラツト曲。ソナタ曲（風琴）、（二）アルヴムブラツト（ヴアイオリン）、（三）吾師の賜（獨唱）、（四）ヂーネルケー（洋琴）、（五）鹿の遠音（尺八）、（六）フーゲ。アダジオ（風琴）、（七）小敦盛三段（肥後琵琶）、（八）去卒打たな告別（唱歌）

以上

七月の卒業式竝卒業演奏の曲目等はいづれ書いて見たい。以上は學友會發會當時の回顧であつた。さて學友會誌は何年頃に第一號が出たかについて一言したい。それは明治廿六年九月十一日より東京音樂學校が高等師範學校附屬となつてから以後のことで、第一號が明治廿七年七月に發行されてゐる。その目的は（一）會員の連絡を媒介し互の精神を交換する事。（二）各縣音樂上の形勢。（三）學理論說教育史傳等專ら斯道を益する事。（四）新歌新曲及び樂器の通報等に在りと。但し殘念乍ら私はこの第一號を見てゐない。古めかしい本校の圖書庫中をあさつても遂に出て來なかつた。

（一九三七・一二・六）

（『音樂』第十八号　昭和十二年十二月　八～一七頁）

編輯後記

豫告の通り十一月上旬發行の豫定で著々と準備を進めてゐましたが中途で中國、四國方面の演奏旅行の計畫が發表になりましたのでそれに關する記事を是非載せたいと思ひ發行を遲らせる事にしました。それでも年内には皆樣に讀んで戴くつもりでゐましたが、あれやこれやの手違を生じ遂に年を越してしまつた事は、昭和十四年度の雜誌部理事として甚だ殘念に思つてゐます。

本年は本校創立六十周年を迎へ、又『音樂』も第二十號になりましたので何か記念號とでもと考へましたが紙不足、物價騰貴の折柄、限りある豫算ではむしろ例年よりも頁數を少なくしなければならない樣な狀態になりましたので折角應募された原稿も全部掲載する事が出來ず、一部原稿を涙をのんで割愛させて戴きました。執筆者に對しては誠に申し譯なく思つてゐます。

本年は不思議な事に文藝の方面に女の方の記事が一つも見えません。シューマンは音樂の勉强の餘暇に詩を讀めと申しました『ものゝあはれ』が解せぬ樣ではよき音樂は生れて來ませんよ……。

野村幸子氏と左右田五十鈴氏の研究は前號を承けてゐますので、もし前號を御持ちにならない方で前號を參照して研究なさり

たい方がありましたら雜誌部に未だ殘本が少しありますからどうか御申し出で下さい。

「部報にかへて」の欄では甚だ手前勝手な事ばかり言つてゐますが、これも學友會發展の爲、特に毎回の演奏會を圓滑に運んで行く爲にその衝に當つた演奏部の諸君がそれ〴〵意見を述べた譯で、どうか皆樣もその意ある所を斟んで戴きたいと思ひます。

「グラフ」は斷然自慢をしても可なりと思ひます。（いさゝか手前味噌ですが……）演奏旅行に行かれた方は勿論の事、又行かれなかつた方にも滿足して戴ける樣にとニュースカメラマンが腕を振ひました。

一昨年秋應召、勇躍戰地に向はれた邦樂科、鄕郭太郎君は十二月初め見出度く凱旋されました。原稿が出揃つた後でありますのでこの欄を借りて附け加へておきます。

演奏會の曲目解說發行が中止になつた今日音樂の學問的研究發表の機關は本誌に依るのみになりました。次號は編輯方針を思ひ切つて改めうんと學究的なものにと考へてゐます又作曲（例へばリード、ピアノ小曲等）の誌上發表等も面白い試みだと思つてゐます。

終りに御多忙中にも拘らず本誌の爲に種々御指導を賜はりました遠藤先生を始め關係諸先生に對し、又「演奏旅行記」中の演奏會の感想文の爲に御配慮下さいました高知師範の橋爪先生、廣島市山中高女の今井先生に對し厚く御禮申し上げます。　（赤松記）

（『音樂』第二十号　昭和十五年一月　一五二頁）

音樂　第壹號目次

口　繪　東京音樂學校新講堂

東　天　紅　吉丸一昌　作歌

發刊の辭　山田耕作[1]　作曲

ヘルマン、クレッチュマール氏の　湯原元一

『音樂上の時事問題』を紹介す　田村寛貞

唱歌の伴奏法に就て　編輯部

和聲學　中田章

唱歌教授法要義　島崎赤太郎

樂聖の遺跡　天聲子

メンデルスゾーンの作曲について　お、さ、

近讀二三件　稚松生

樂界漫言　と、て

視察したる其地方の音樂教育　南能衞

教育音樂雜誌　中山晋平

新詩論　小澤盛

余は現代音樂に何物を要求すべきか　岩崎太郎

無題錄

ヘルマン、クレッチュマール氏に對する世評

短歌　狂風

俳句　鈴木ちか

秋

伊豆小誌

次ぎの瞬間　竹村ひで
木の葉の散るを見て　富永斐草子
樂界月表、學校記事、
學友會記事、熊本通信、
稟告、
荷車　吉丸一昌 作歌　大和田愛羅 作曲
懸賞作曲 水の皺　吉丸一昌 作歌
小説 冷風　小川友吉

（第一号　明治四十三年一月）

（1）昭和五年五月十二日、「耕作」から「耕筰」へ改名。

音樂第一卷第二號目次

懸賞作曲二曲（水の皺）　湯原元一
『音樂』に望む　萬古刀庵
つぶやき（短歌）　小林愛雄
音樂と技巧　安藤正次
伊勢音頭考　相馬御風
散文詩二篇　田村寛貞譯
唱歌の伴奏法について（承前）　ゆかり
諏訪の古郷（短歌）
ヘルマン、クレツチユマール氏の
『音樂上の時事問題』を紹介す（承前）　湯原元一
近感近讀　乙骨三郎
和聲學講義（承前）　編輯部
白光（短歌）　牛山充
フランツ、リスト　櫻小雨
評論の評論　編輯同人
低唱微吟　三谷綠二
森の女
海外樂壇。彙報。學校記事。邦樂調査記事。學友會記事等

（第一巻第二号　明治四十三年三月）

音樂第一卷第三號目次

曲譜　數へ唄ヴァリエーション　本居長世
音樂と精神病　雅堂學人
つぶやき（三）　萬古刀庵
リヒヤルド、シュトラウス　田村寛貞
くり言（短歌）　橘糸重子
數へ唄ヴァリエーションに就いて　本居長世
伊勢音頭考（中）　安藤正次
悲歌哀調　ゆかり等
ヘルマンクレツチュマール氏の
『音樂上の時事問題』を紹介す（三）　湯原元一
つまらない空想　三谷綠二
近感近讀（二）　乙骨三郎
評論の評論　櫻小雨
低唱微吟

海外樂壇
彙　報
會　告

（第一巻第三号　明治四十三年四月）

音樂第一巻第四號目次

曲譜　哀怨（露國民謠曲、吉丸一昌作歌）
　亡き母を思ふ（吉丸一昌作歌、原田潤作曲）
音樂者としての孔子（附墨子の非樂論）　湯原元一
ネリー、メルバ　田村寛貞
音樂視察談　上　眞行
月下樂話　高安月郊
伊勢音頭考（三）　安藤正次
西比利亞の汽車中より　山田耕作
近感近讀（三）　乙骨三郎
ヘルマン、クレッチュマール氏の
『音樂上の時事問題』を紹介す（四）　湯原元一
評論の評論　櫻小雨
音樂の空間趣味　三谷綠二
演奏會短評　靜陵生
惡　魔　村の人
低唱微吟
樂生日記
海外樂壇

彙　報

（第一巻第四号　明治四十三年五月）

音樂第一巻第五號目次

音樂進化論　田邊尚雄
近作二篇　服部嘉香
ミツシヤ、エルマン　田村寛貞
短歌七八　萬古刀庵
オルガン自修法　島崎赤太郎
邦樂家に望む　清元延壽太夫
和聲學通解　島崎赤太郎
ヘルマンクレッチュマール氏の
音樂上の時事問題を紹介す　湯原元一
小學教育に於ける唱歌科の缺陷　三谷綠二
管絃叢話　高野斑山
短歌、俳句及び小品文
低唱微吟
海外樂壇
彙　報
會　告

（第一巻第五号　明治四十三年六月）

音樂第一巻第六號目次

作曲、四ツ葉のクロバ（ロイテル作曲）福壽草（吉丸一昌作歌、

大和田愛羅作曲）
音響的世界概念としての音樂　田村寛貞
オルガン自修法（二）　島崎赤太郎
和聲學通解（二）　同　人
ピアノ自修法（一）　橘糸重子
歌唱法につきて（一）　岡野貞一
隨感錄（音樂の長所短所）　乙骨三郎
ジエラルダイン、ファラー　田村寛貞
評論の評論　櫻小雨
管絃叢談（二）　高野斑山
短歌、俳句、小品文
海外樂壇
彙報
附錄
（ジエラルダイン、ファラー肖像）

（第一巻第六号　明治四十三年七月）

音樂第一巻第七號目次

曲譜、亡友をおもふ（國木田獨歩作歌、北村季晴作曲）　湯原元一
音樂教師のために言ふ　田村寛貞
ブラームス　田邊尚雄
四半音程の記號に就いて　櫻小雨
評論の評論
（邦樂拍子本位論）
海外樂壇
一、ロベルト、シューマン
二、學校に於ける鑑賞力及び批評眼の養成、外に五項
低唱微吟　島崎赤太郎
彙報
オルガン自修法（四）　同　人
和聲學通解（三）　橘糸重子
ピアノ自修法（二）　岡野貞一
歌唱法につきて（二）

（第一巻第七号　明治四十三年八月）

音樂第一巻第八號目次

曲譜、宵の春雨（吉丸一昌作歌、梁田貞作曲）、春の窓（吉丸一昌作歌、大和田愛羅作曲）雪月花（白露西亞民謠、吉丸一昌作歌）　田村寛貞
拍子縱線の心理學的研究　安藤正次
伊勢音頭考補遺
同時的音程の起源　ルドルフ、ロイテル
方言詩人ミストラル　小島洒風
擬聲態語類集　萬古刀庵
民謠の起原　三谷綠二
クリンガーのベートーヴェン　田村寛貞
つぶやき　萬古刀庵
和歌、俳句、新體詩

海外樂壇
彙　報
オルガン自修法（五）　島崎赤太郎
和聲學通解（四）　同　人
ピアノ自修法（三）　橘糸重子

（第一巻第八号　明治四十三年九月）

音樂第一巻第九號目次

曲譜。（秋の祭、里のあけくれ。吉丸一昌作歌）　湯原元一
唱歌教授の缺陷に就きて　内藤　濯
フォオレの歌曲　本居長世
現代の流行唄　乙骨三郎
唱歌と國語　牛山　充
ロバート　シューマン　紫　紘郎
新感觸の斷片　樂　壇　子
オット　ブリーゼ　マイスター　雙　榎　生
評論の評論
樂壇梗概。海外樂壇。彙報。詞藻
講義。質疑欄。會友募集廣告。學友會演奏曲目梗概

（第一巻第九号　明治四十三年十月）

音樂第一巻第十號目次

カントの音樂美論　文學士　田村寛貞
現實及び藝術上の眞　文學士　伊藤吉之助
文部省編纂尋常小學讀本唱歌の取扱上に付きて　助教授　南　能衛
小學唱歌に對する全國師範學校の意見、海外樂壇、低唱微吟、
彙報、學界片々、旅行記男子部、女子部、
オルガン自修法　教　授　島崎赤太郎
和聲學通解　同　人
ピアノ自修法　教　授　橘糸重子
東京音樂學校音樂演奏會演奏曲目梗概（附錄）

（第一巻第十号　明治四十三年十一月）

音樂第一巻十一號目次

曲譜〔年は暮れぬ　露國フローベンスク古民曲　古丸一昌作歌（ママ）
　　幼稚園進行曲　原田潤作曲
パデレフスキーのテムポルバート論　田村寛貞
邦人は洋樂の趣味を解し得ざるか　乙骨三郎
現代國民詩形の由來　高野斑山
感情教育としての音樂　三谷綠二
敗鼓の音　雁叫生、蛩吟生
獨逸の兒童唱歌に就て　須賀のや生
！に？集　山田耕作
人間學の一頁　小島洒風
海外樂壇、彙報
明治音樂會演奏會寸評　千林生

フィルハルモニー演奏會合評　牛宮生
東京美術學校音樂演奏會を聽く　神駿生
オルガン自修法　太郎
講義（和聲學通解　島崎赤太郎
　　ピアノ自修法　同人
質疑欄　橘糸重子

（第一巻第十一号　明治四十三年十二月）

音樂第二卷第一號目次

曲譜（露國民謠曲　二曲　文學士教授　吉丸一昌作歌
　　春の窓　梁田貞作曲
歲頭之感　編輯同人
仙臺淨瑠璃の考　文學博士　大槻文彦
音樂に伴ふ視學幻象　文學士　上野直昭
樂壇に於ける役者の不足　校長　湯原元一
シエルリングの音樂美論　文學士講師　田村寛貞
意譯詩三章　相馬御風
敗鼓の音　雁叫生、蛩吟生
Discord　白水郎
昨年の音樂界　校長　湯原元一
奥淨瑠璃合評　高野斑山、本居長世、幸堂得知
海外樂壇、彙報、邦樂調査記事　永井素岳、三宅延齢、竹内半吉

オルガン自修法　教授　島崎赤太郎
和聲學通解　同人
ピアノ奏法　教授　橘糸重子

（第二巻第一号　明治四十四年一月）

第二卷第二號要目

樂壇時評
音聲の衛生……醫學博士…岡田和一郎
琉球の歌謠及音樂……文學士…東恩納寛惇
ワグネル對ニイチエ……文學士…阿部次郎
田邊君の辨說を讀む……雙榎生
琉球歌に就いて……東儀鐵笛
琉球歌合評……高野斑山、本居長世、幸堂得知、永井素岳、三宅延齢、竹内平吉
東京女子高等師範參觀記……雙雨子
彙報（内外樂況）
カルヴエ夫人……文學士…田村寛貞
講義（オーケストラの話……文學士…乙骨三郎
　　オルガン自修法……島崎赤太郎
　　和聲學通解……島崎赤太郎
　　ピアノ奏法……橘糸重
　　手操法（手ばかりの體操）……G Edwards.
短歌……萬古刀庵選

（第二巻第二号　明治四十四年二月）

第二卷第三號要目

樂壇時評……文學士教授　乙骨三郎
音樂の心理學及美學の根本問題……文學士　小山鞆繪
如何にしてか唱歌の教育的價値を發揚すべき……湯原元一
ワグネルの音樂論……文學士教授　吉丸一昌
唱歌の作法につきて……相馬御風
音樂界と文學界との接近……三谷綠二
唱歌科の評價に對する研究……東恩納寬惇
道成寺と執心鐘入と……碧揚生
兒童の聲音に就きて……橘糸重子
みづからあざける（短歌）……
敗鼓の音、學校參觀記、樂評彙報

講義
ヴアイオリン學習に就ての注意……教授　安藤幸子
和聲學通解……教授　島崎赤太郎
ピアノ奏法……教授　橘糸重子
オーケストラの話……文學士教授　乙骨三郎

（第二卷第三号　明治四十四年三月）

第二卷第四號要目

口繪（寫眞版、東京音樂學校第二十四回卒業生）
樂譜〈逝ける友神言學友會春季演奏會合唱曲
樂壇時評……文學博士　姉埼正治
音樂と宗教……文學士　東新
音樂の心理學及び美學の根本問題（二）……文學士教授　乙骨三郎
社會政策と音樂の利用……校長　湯原元一
歌樂雜考……文學士教授　吉丸一昌
ゲーテとベートーヴエン……高安月郊
東京音樂學校寄宿生（寫眞版）……
演奏界短評……
彙報、（海内樂壇、海外樂壇）……

講義
ピアノ奏法……教授　橘糸重子
和聲學通解……教授　島崎赤太郎
音樂術語……文學士講師　田村寬貞
附錄　學友會春季演奏會曲目梗概……文學士教授　乙骨三郎

（第二卷第四号　明治四十四年四月）

第二卷第五號要目

口繪　歌劇ケーニヒスキンダーの舞臺面
樂壇時評……校長　湯原元一
音樂者の補習及び其生計問題（上）……文學士　東新
音樂と宗教（承前）……文學士教授　乙骨三郎
樂論二片（シモンズより）……文學士教授　吉丸一昌
歌樂雜考（二）……あざみ
昔がたり（一）……生田春月
面影（詩）……

豐島師範學校音樂科教授參觀雜感……△▲△▲
大江の幸若舞と星野の反哉歌舞……下川　惇
琉球歌合評に就いて……文學士　東恩納寬惇
リオンのさる友より……文學士　エヌ生
西國より……碧楊生
ECHO……
演奏會短評……同　人
彙報（海內樂壇、海外樂壇）……
講義　和聲學通解（十）……教授　島崎赤太郎
　　音樂術語（二）……文學士講師　田村寬貞

（第二巻第五号　明治四十四年五月）

第二巻第六號要目

曲譜　雞の聲／若草……文學士教授　吉丸一昌作歌
樂壇時評……
シモンズの論文二つ……文學士　安倍能成
倭舞と能樂と吉備樂（上）……第六高等學校教授文學士　志田義秀
音樂者の補習及び其の生計問題（下）……校長　湯原元一
歌樂雜考（三）……文學士教授　吉丸一昌
風流に就て……下川　惇
執（短歌）……教授　橘糸重子
甲信北越演奏旅行記……豐日別
A TRIP TO IKAHO……URAHA
ECHO……
手紙一束……
演奏會短評……同　人
彙報（海內樂壇、海外樂壇等）……
講義　和聲學通解（十一）……教授　島崎赤太郎
　　音樂術語（三）……文學士講師　田村寬貞

（第二巻第六号　明治四十四年六月）

第二巻第七號要目

曲譜　伊澤先生還曆祝賀會祝歌……伊澤先生還曆祝賀會作歌作曲
　　春の野川……文學士教授　吉丸一昌作歌／助教授　岡野貞一作曲
樂壇時評……
指揮者論（上）……校長　湯原元一
音樂の美學及心理學の根本問題（三）……文學士教授　乙骨三郎
歌樂雜考（六）……文學士教授　吉丸一昌
伯林樂會のくさぐ……在獨　山田耕作
昔がたり（二）……あざみ
名畫の筆意にもとづく新舞踊劇……文學博士　坪內逍遙
雁のたより……
演奏會短評……
彙報（海內樂壇、海外樂壇等）……

講義

ヴァイオリン學習に就て……教授　賴母木駒子
和聲學通解（十二）……教授　島崎赤太郎
音樂術語（四）……文學士講師　田村寛貞

（第二巻第七号　明治四十四年七月）

第二巻第八號要目

口繪（歌劇靈笛の舞臺面）……
樂壇時評……
音樂の起原に關するヴント教授の見解……文學士　高橋穰
指揮者論（下）……校長　湯原元一
誤解されたる謠曲の流行……山崎樂堂
歌樂雜考（七）……文學士教授　吉丸一昌
文彌節につきて……教授　高野辰之
あらぬ思……人見東明
昔がたり（三）……あざみ
酒中吟十二首……萬古刀庵
伯林通信……三樂童
雁のたより……
演奏會短評……一樂究
彙報（海内樂壇、海外樂壇等）……

講義

オーケストラの話……文學士教授　乙骨三郎
和聲學通解（十三）……教授　島崎赤太郎
音樂術語（五）……文學士講師　田村寛貞

（第二巻第八号　明治四十四年八月）

第二巻第九號要目

樂譜　四季の雨……（文學士教授　吉丸一昌作歌　助教授　南能衛作曲）
口繪　文部省音樂講習會員……
樂壇時評……
日本の歌劇……高安月郊
下座のレストレーション……山崎樂堂
沙翁時代の舞臺……文學士　島村盛助
倭舞と能樂と吉備樂（中）……第六高等學校教授　文學士　志田義秀
歌樂雜考（八）……文學士教授　吉丸一昌
ハムレット劇の歌曲に就て……東儀鐵笛
教壇より教壇へ……三谷綠二
青い瞳……小川未明
昔がたり（四）……あざみ
巴里通信……在佛國　滋野清武
雁のたより……
演奏會短評……
彙報（海内樂壇、海外樂壇等）……

講義

音樂批評の標準……文學士教授　乙骨三郎
和聲學通解（十四）……教授　島崎赤太郎
音樂術語（六）……文學士講師　田村寛貞

（第二巻第九号　明治四十四年九月）

音樂第二卷聲樂號要目

口　繪　泰西聲樂界の四明星
樂壇時評……如月生
將來の創作と聲樂……高安月郊
日本の聲樂……林竹次郎
國語改造論……文學士教授　吉丸一昌
歌學雜考(九)……助教授　岡野貞一
唱歌に於ける呼吸法について……小松玉嚴
聲學夜話……三谷綠二
唱歌に關する三つの印象……淨錠生
シューマンハインク夫人の清話……林古溪
大雅欲作篇送易水先生西遊……文學博士　佐々木信綱
月夜……萬古刀庵
蟬と蚤……碧揚生
西國より……N・T・M
武藏野の一日……
雁のたより……
彙報（海內樂壇、海外樂壇等）……
講義
聲樂に於ける曲と詞……文學士教授　乙骨三郎
和聲學通解(十五)……教授　島崎赤太郎
音樂術語(七)……文學士講師　田村寬貞
聲樂略史……牛山充
附錄
學友會秋季演奏會演奏曲目及梗概……文學士教授　乙骨三郎

音樂第二卷第拾壹號要目

（第二卷第十号　明治四十四年十月）

口　繪　フランツ　リスト
吉備舞
樂壇時評……服部嘉香
詩の音樂的思想……板倉武
音色と思想……工學士　山崎樂堂
歌曲の協和……塚山生
民謠の想化……文學士教授　吉丸一昌
歌樂雜考(十)……文學士　志田義秀
倭舞と能樂と吉備樂(下)……牛山充
リストとその音樂(上)……こすもす
フランツ　リスト……あざみ
昔がたり(五)……林古溪
觀樂十五首……小倉章藏
吉備の國ぶり……萬古刀庵
學友會女子部演奏旅行……蓼花子等
學友會男子部旅行記……楚人冠
帝劇歌劇を觀る……花法師
「胡蝶の舞」を觀る……Y、M、
學友會秋季演奏會の記……
雁の便り……
彙報（海內樂壇、海外樂壇等）……

講義　聲樂に於ける曲と詞(二)……文學士教授　乙骨三郎
和聲學通解(十六)……教　授　島崎赤太郎
音樂術語(八)……文學士講師　田村寛貞

(第二巻第十一号　明治四十四年十一月)

第二巻第十二號要目

口繪　グスターフ　マーラー
　　フリーダ　ヘムペル
樂壇時評……
浪漫的歌劇と寫實的歌劇……文學士　上野直昭
歌樂雜考(九)……文學士教授　吉丸一昌
リストとその音樂(下)……牛山　充
本年の音樂界……文學士教授　吉丸一昌
昔がたり(　)……あざみ
リンデンの木かげより……多久寅　山田耕作
思(短歌)……あこがれ人
霹靂(短歌)……牛山　充
秋怨(短歌)……尾　花
紫の煙(短歌)……露光子
和歌臆九首(短歌)……莫告藻
アイロニー(短歌)……蓼花子
アドルフヲ　サルコリ氏と語る……M、U、生
演奏會短評……
雁のたより……
彙報(海内樂壇、海外樂壇)……
講義　聲樂に於ける曲と詞(三)……文學士教授　乙骨三郎
和聲學通解(十七)……教　授　島崎赤太郎
音樂術語(九)……文學士講師　田村寛貞
附錄第二巻總目錄……

(第二巻第十二号　明治四十四年十二月)

第三巻第一號目次

樂譜　晝の夢……高安月郊作詩　梁田貞作曲
口繪　エレオノラ　ド　シスニロス
　　ルイーザ　テトラツィーニ
歳首號の所感……(一)
樂壇時評……(二)
最近の歌劇の傾向……(四)…高安月郊
首都の邦樂分布……(七)…高野斑山
歌樂雜考(上)……(二)…吉丸一昌
世界的ピアノ大家レスチエチスキーより我は如何に學びしか……(一四)…こすもす
テトラツィーニと近世歐羅巴歌劇の傾向……(二〇)…牛山　充
こんなもんだろ(詩)……(二七)…萬古刀庵
執(短歌)……(三一)…橘糸重子
涙の征矢(短歌)……(三二)…あこがれ人

屑籠より……(三三)…糸
心の色……(三四)…蓼　花　子
樂生日記(一)……(三五)…沈　丁　花
演奏會短評……(三七)……
雁のたより……(三八)……
海内樂壇……(三九)……
海外樂壇……(四六)……
講義
聲樂に於ける曲と詞(四)……(五一)…乙骨三郎
音樂美學(一)……(五三)…田村寛貞
和聲學通解(十八)……(五六)…島崎赤太郎
音樂術語(十)……(六〇)…田村寛貞
東京音樂學校秋季演奏會曲目梗概……(六五)…乙骨三郎
表紙意匠及カット……小笠原　貞

(第三巻第一号　明治四十五年一月)

第三巻第二號目次

樂譜
月に漕ぐ船……吉丸一昌作歌／ライヒヤルト作曲
春よ急げ……吉丸一昌作歌／作者未詳
口繪　ミシヤ　エルマン
樂壇時評……(一)……
長唄囃子に於ける掛聲の問題……(二)…山崎樂堂
節奏の話(一)……(四)…須藤新吉
理論家としてのヴァーツハナー(一)……(七)…田村寛貞
教授に用ふべき樂譜……(一一)…三谷綠二
日本音樂の發見(一)……(一四)…アルフレッド・ウェスタール
歌樂雜考(十一)……(二〇)…吉丸一昌
河東節の辨……(二七)…天沼蘭洲
死の森……(三一)…山田耕作
小曲四章(詩)……(三三)…服部嘉香
屑籠より……(三三)…糸
日記中より……(三四)…小　鳥
樂生日記……(三五)…さすらひ人
青怨(戲曲)……(三五)…花　法　師
カヴアルレリア・ルスティカーナを觀る……(三七)…うきぐも
雁の便り……(三八)……
海内の樂壇……(三九)……
海外の樂壇……(四六)……
講義
聲樂に於る曲と詞(五)……(五一)…乙骨三郎
音樂美學(二)……(五六)…田村寛貞
表紙意匠及びカット……小笠原　貞

(第三巻第二号　明治四十五年二月)

第三巻第三號目次

樂譜
夕顔……梁田貞作曲／吉丸一昌作歌
おぼろ夜……弘田龍太郎作曲／近藤義次作歌
樂壇時評……(一)……

節奏の話(二)……(四)…須藤新吉
日本音樂の發見(二)……(二〇)…アルフレッド・ヴェスタール
理論家としてのヴァーッハナー(二)……(二〇)…田村寛貞
家庭用の樂譜(上)……(二二)…乙骨三郎
伯林より……(二五)…湯原元一
世界的ピアノ大家レスチェチスキーより我は
如何に學びしか(二)……(二六)…こすもす
ショパン研究……(三一)…田村寛貞
話の種……(三七)…つね子
春雨(詩)……(三九)…相馬御風
おもかげ(短歌)……(四一)…高樹翠影
屑籠より……(四二)…糸
およばれ……(四三)…ある人
樂生日記(三)……(四四)…どこかの子
青怨(戯曲)……(四七)…花法師
雁のたより……(五一)……
演奏會短評……(五二)……
海内樂壇……(五二)……
海外樂壇……(六〇)……
講義 和聲學通解(十九)……(六七)…島崎赤太郎
講義 音樂美學(三)……(七〇)…田村寛貞
表紙意匠及びカット……小笠原貞

(第三巻第三号　明治四十五年三月)

音樂第三卷第四號目次

口繪 オストゼーの風光……山田耕作寄
口繪 歌遊び「うかれ達磨」(白木屋吳服店餘興場上場)……
樂譜「涙」……小林愛雄作歌 山田耕作作曲
樂壇時評……(一)……
節奏の話(三)……(三)…須藤新吉
薩摩琵琶の起原に就いて(上)……(七)…志田義秀
獨逸音樂に於ける近代思潮(一)……(一〇)…田村寛貞
歌樂雜考(十二)……(一三)…吉丸一昌
家庭用樂譜(下)……(一五)…乙骨三郎
理論家としてのヴァーッハナー(三)……(一九)…田村寛貞
話の種……(二〇)…みつる
酒に問はばや(詩)……(二一)…萬古刀庵
向日葵の歌(詩)……(二四)…内海泡沫
春聲(詩)……(二八)…林古溪
ひとつ橋より(詩)……(三一)…孤影
童謡十首(歌)……(三三)…林漠庵
吾を思へば(歌)……(三四)…高樹翠影
ある年の夏(歌)……(三五)…大熊信行
伯林より……(三七)…山田耕作
樂生日記(四)……(四〇)…なでし子
ひゞき……(四一)…花法師
雁の便り……(四四)……

海内樂壇……(四七)
海外樂壇……(六二)
講義 和聲學通解(廿)……(六六)…島崎赤太郎
講義 音樂美學(四)……(六八)…田村寛貞
表紙意匠及びカット……小笠原　貞

(第三巻第四号　明治四十五年四月)

音樂第三巻第五號目次

口繪 東京音樂學校第二十五回卒業生 東京音樂學校寄宿舎現在生及卒業生
樂壇時評……(一)
富本と常磐津の關係について……(三)…福田勘藏
薩摩琵琶の起原に就いて(中、下)……(六)…志田義秀
理論家としてのヴァーッハナー(四)……(一三)…田村寛貞
ヴァイオリンのサウンド、ポストに就いて……(一五)…野々花一香
露西亞音樂界の新人(上)……(一九)…牛山　充
いろいろのききかた(一)……(二六)…大塚仲三
歌遊び『うかれ達磨』を評す……(二八)…天籟閣主人
バナナ……(三二)…花法師
『樂しみ』の種子(詩)……(三五)…柳澤　健
淡影集(歌)……(三八)…富田碎花
ふるさと(短歌)……(四〇)…耕霞郎
話の種(三)……(四一)…百合
屑籠より(三)……(四三)…糸
或る男の手紙……(四四)…あのにます
あの頃！……(四五)…野百合
樂生日記(五)……(四六)…露子等
雁の便り……(五〇)
演奏會短評……(五三)
海内樂壇……(五四)
海外樂壇……(六〇)
編輯室だより……(六四)
講義 演奏論(一)……(六五)…乙骨三郎
講義 音樂美學(五)……(六九)…田村寛貞
表紙意匠及びカット……小笠原　貞

(第三巻第五号　明治四十五年五月)

音樂第三巻第六號目次

樂譜春雨……相馬御風作歌 澤田柳吉作曲
口繪 アルフレッド・ヴェースタール博士 コッペンハーゲンのオリンピア競技會場外五大劇場 箱根に於ける女子部會員
樂壇時評……(一)
音樂の通俗講演會を開くべし
中學校長會議の音樂科に對する決議案を見る
音符譜と羅馬綴り
五七調七五調の變遷について……(四)…吉丸一昌
日本音樂の發見(三)……(六)…アルフレッド・ヴェスタール
獨逸音樂に於ける近代思潮(二)……(一四)…田村寛貞

いろいろのきゝかた(中)……(一六)…大塚仲三
理論家としてのヴァーッハナー(四)……(一八)…田村寛貞
ショパンと其教授……(二〇)…こすもす
露西亞音樂界の新人(下)……(二二)…牛山　充
近代音樂とリヒャルド・シュトラウス(一)……(二六)…田村寛貞
話の種(四)……(二九)…みつる
莫斯科より……(三〇)…E、V、T
わすれなぐさ(詩)……(三三)…内海泡沫
Le Nocturne du Mai—他三篇—(詩)……(三八)…藤井夏人
花ちる日(歌)……(四二)…高樹翠影
ああ、たいたにつく(歌)……(四三)…林　吉溪
長き旅の後に(歌)……(四五)…大熊信行
屑籠より(四)……(四七)…糸
學友會春季修學旅行記……(四八)…蓼花子等
或る朝……(五一)…露　子
樂生日記(六)……(五二)…おもだか
夕べ(×號室の五分間)……(五四)…勿忘艸
雁の便り……(五六)……
海内樂壇……(六〇)……
海外樂壇……(六七)……
編輯室だより……(七〇)……
講義　演奏論(二)……(七二)…乙骨三郎
　　音樂美學(六)……(七五)…田村寛貞
表紙意匠及カット……小笠原　貞

（第三巻第六号　明治四十五年六月）

音樂第三卷七號目次

樂譜二人の戀……(服部嘉香作歌 船橋榮吉作曲)
口繪アントワープのフラマン劇場外二大劇場
樂壇時評……(一)……
　猛進を望む
　講習會の開催
十二段草子考(上)……(四)…高野斑山
いろいろのききかた(下)……(七)…大塚仲三
理論家としてのヴァーッハナー(五)……(一一)…田村寛貞
ヴァイオリンの駒、絲、弓及其他の事に就いて　…(一三)…野々花一香
近代音樂とリヒャルドシュトラウス(二)……(一五)…田村寛貞
天才と運命(四)……(一六)…こすもす
小曲三章(詩)……(二〇)…服部嘉香
抒情小曲(詩)……(二三)…柳澤　健
挽歌(詩)……(二五)…孤　絃　郎
牡丹咲く頃(小品)……(二七)…花　法　師
イッシー、レ、ムリノーより……(二八)…滋野清武
伯林より……(三〇)…服部駟郎次
樂生日記(七)……(三二)…なつのひと等
暮春の野……(三五)…露　子
雁の便り……(三七)……

海内樂壇……（四一）……
海外樂壇……（五〇）……
編輯室だより……（五三）……
講輯 演奏論（三）……（五四）…乙骨三郎
東京音樂學校音樂演奏會曲目梗概……（六〇）…乙骨三郎
表紙意匠及カット……小笠原　貞

（第三巻第七号　明治四十五年七月）

音樂第三巻第八號目次

樂譜 風車と水車……（武笠三作歌 中田章作曲）
樂譜 晝（春聲四章の中）……（林古溪作歌 弘田龍太郎作曲）
口繪 マスカーニ、レオンカヴァルロ、プチニー オーパー、ヘムペル
樂壇時評……（一）……
十二段草子考（下）……（三）…高野斑山
理論家としてのヴァーツハナー（三）……（三）…田村寛貞
誤られたる唱歌科の價値……（三）…三谷緑二
近代音樂とリヒャルド・シュトラウス（三）……（七）…田村寛貞
伊太利歌劇界の新星（上）……（八）…牛山　充
話の種（五）……（三五）…みつる
ダリア（詩）……（三七）…ひとよだけ
さみしき朝飯（歌）……（三九）…大熊信行
湯原會長を迎ふの記……（三一）…X、Y、Z
廣島だより……（三三）…渡邊稚聲
樂生日記（八）……（三四）…なふれそ
編輯室より……（三五）……
雁の便り……（三六）……
海内樂壇……（三八）……
海外樂壇……（五〇）……
講義 和聲學通解（二十一）……（五五）…島崎赤太郎
講義 音樂美學（七）……（六〇）…田村寛貞
講義 演奏論（四）……（六二）…乙骨三郎
表紙意匠及カット……小笠原　貞

（第三巻第八号　明治四十五年八月）

音樂第三巻歌劇號目次

口繪 歌劇『カルメン』の舞臺面 カルヴエのカルメン ヂョルヂュ　ビゼー 文部省夏期講習會音樂科講師及會員
大行天皇奉悼歌……（一）……
樂壇時評……（二）……
趣味を普及せよ、
後世を恐れよ、
音樂視學官設立の一便法
變則なる所謂日本歌劇の創造……（五）…山崎樂堂
歌劇と歌優……（八）…小松愛雄
ヴァーツハナーの歌劇……（九）…牛山　充

歌樂雜考(十三)……(二三)…吉丸一昌
伊太利歌劇界の新星(下)……(二五)…牛山　充
批評家と舞臺監督との對話……(三三)…伊庭　孝
名人名曲(一)歌劇「カルメン」……(三七)……
編輯室便り……(四一)……
歌劇『をろち』……(四三)…高安月郊
易水先生歸朝賦呈七律二首……(四七)…林　古溪
信濃にて歌へるうちより(歌)……(四八)…富田碎花
まつよひぐさ(詩)……(五〇)…内海泡沫
せれなあど(詩)……(五三)…柳澤　健
樂生日記(九)(紅絞り)……(五三)…花　法　師
フハンタージア(小品)……(五五)…ハイヤシンス
ふるさとより都の友へ……(五六)…うきくも
避暑地より(小品)……(五七)…露　　子
天泣地哭……(五八)……
雁の便り……(六四)……
海内樂壇……(六八)……
海外樂壇……(七三)……
講義 和聲學通解(二十二)……(七五)…島崎赤太郎
講義 演奏論(四)……(七九)…乙骨三郎
表紙意匠及カット……小笠原　貞
カット……島山　霞

(第三巻第九号　明治四十五年九月)

音樂第三卷第十號目次

口繪 歌劇「マダム　バターフライ」の舞臺面
口繪 ヂュール　エミール　フレデリック　マスネー
口繪 ヤッシャ　ハイフェッツ
口繪 ファーラーの扮せる　マダム　バターフライ
樂壇時評……(一)……
歌曲の二大題目
中央語宣布と發音法
儀式と音樂
獨逸音樂界事情の一斑……(三)…湯原元一
歌詞の發音……(一〇)…大塚仲三
ジュール　エミール　フレデリック　マスネー…(一三)…牛山　充
其面影……(二六)…なつの人
名人名曲『マダム　バターフライ』……(三三)…牛山　充
歌劇『マダム　バターフライ』……(四五)…柴田知常
志のぶ草……(五五)…糸　重　子
樂生日記(十)……(五六)…姫　百　合
蚊と蝨(歌)……(五七)…萬古刀庵
西國より……(五九)…碧　揚　生
ノートより……(六〇)…し　づ　か
雁の便り……(六二)……
海内樂壇……(六六)……
消息……(六九)……
海外樂壇……(七〇)……

編輯室より……(七二)
講輯 作曲法入門(一)……(七三)
表紙意匠及カット……小笠原　貞
カット……シ　バ　タ

(第三巻第十号　明治四十五年十月)

音樂第三卷第十一號目次

口繪 歌劇「フィデリオ」の舞臺面
伯林の友
樂壇時評……(一)
幸福なる國民
藝術家と商賈
ユンケル氏の歸國
近代音樂とリヒャルド・シュトラウス(四)……(三)…田村寛貞
名人名曲『フィデリオ』……(四)…牛山　充
お伽歌劇『月明り』デーメル作……(一四)…秦　豐吉
音詩人の面影……(二〇)…M・U・生
話の種(六)　マッスネーの逸話……(二四)…耕　霞郎
秋と旅(歌)……(二六)…鈴木ちか
悲傷作(歌)……(二八)…中川一政
なげきの海(歌)……(二九)…ゆ　か　り
嗚呼乃木將軍(歌)(三〇)牛山　充
落栗の針(詩)……(三一)…佐藤楚白
雨(詩)……(三三)…柳澤　健
ひともぐさ(詩)……(三五)…内海泡沫
悲しい風……(三八)…蓼　はな子
學生日記(十一)　心の梭……(四〇)…野　百　合
逝く秋……(四二)…サイネリア
雁の便り……(四三)……
海内樂壇……(四七)……
海外樂壇……(五〇)……
編輯室より……(五三)……
講義 演奏論(五)……(五六)…乙骨三郎
音樂美學(八)……(六一)…田村寛貞
作曲法入門(二)……(六二)……
校正室より……(六九)……
表紙意匠及カット……小笠原　貞
カット……シバタ　等

(第三巻第十一号　明治四十五年十一月)

音樂第三卷第十二號目次

口繪 ヴィースバーデンの王立劇場と詩聖シラーの像
ケルンの歌劇座
エドワルド　グリーヒ
マクス　ブルッフ
樂壇時評……(一)
聲樂者と國語發音法
戰慄すべき稱贊の聲

淺薄なる音樂評
歌劇のシンガーについて
中學校に於ける音樂教師論……（三）…三谷綠二
理論家としてのヴァーッハナー（七）……（七）…田村寛貞
エドヴァード　グリーヒ……（九）…野々花生
近代音樂とリヒャルド　シュトラウス（五）……（一七）…田村寛貞
名人名曲『セミラミーデ』……（一九）……
幼年唱歌を評す……（二四）…遠野紫朗
グリーヒとガーデとシュボーアとマッスネー　…（二六）…牛山　充
雜誌ムジークより……（三九）…田村寛貞
お伽歌劇『月明り』デヱメル作……（四一）…秦　豐吉
集まれ（詩）……（五三）…ひとよだけ
逝く水に和して（歌）……（五五）…富田碎花
遠き望（歌）……（五八）…しげのぶ
伯林より……（六〇）…多　久寅
ホムブルクより……（六一）…山田耕作
樂生日記（十二）柘榴……（六一）…露　子
雁の便り……（六三）……
海内樂壇……（六五）……
海外樂壇……（六七）……
講義――ピアノの奏法……（七〇）…乙骨三郎
表紙意匠及カット……小笠原　貞

（第三巻第十二号　明治四十五年十二月）

音樂第四卷第一號目次

早春賦……（吉丸一昌作歌　船橋榮吉作曲）
口繪（市伽古時代のヘル　ユンカー　最近のプロフェッソール　ユンカー　ユンカー氏送別演奏會コーラス及オーケストラ　日本皇國海軍々樂隊オーケストラ）
樂壇時評……（一）……
年頭感と吾人の態度
青年用の歌曲を作れ
ユンケル氏を送りクローン氏を迎ふ
語調と拍子（附謠曲に於ける語調法）……（三）…山崎樂堂
歐米通信教育の一斑……（一〇）…湯原元一
理論家としてのヴァーッハナー（八）……（一三）…田村寛貞
不適當なる歌劇……（一五）…牛山　光ママ
近代音樂とリヒャルド・シュトラウス（六）……（一八）…田村寛貞
プロフェッソール・アー・ユンカー……（二〇）…M、U、生
創作批評（二）……（二三）…遠野紫郎
雜誌“Die Musik”より……（二六）…田　村　生
お伽歌劇『月明り』デヱメル作（三）……（二七）…秦　豐吉
叙事長歌『花』……（三五）…内海泡沫
七つの帕の舞……（三九）…佐藤綠葉
子供の詩……（四一）…白鳥省吾
樂生日記（十三）……（四三）…蓼　雄

恐怖……（四五）…黒　百　合
雁の便り……（四七）……
海内樂壇……（五〇）……
海外樂壇……（五三）……
編輯室より……（六二）……
講義　ピアノの奏法（二）……（六三）…乙骨三郎
　　作曲法入門（三）……（六六）……
消息……
表紙……鹽見　競
カット……草川友忠
　　彭城昌平

（第四巻第一号　大正二年一月）

音樂第四巻第二號目次

口繪（歌劇『デーア　フリーゲンデ　ホレンダー』の舞臺面
　　歌劇『アリアドーネ　アウフ　ナキソス』の舞臺面）
樂壇時評……（一）……
尋常小學唱歌第四學年用出づ
音樂家と詩人
歌劇『春日の森』について
研究心を失ふな
樂劇の心理に就きて……（三）…桑田芳藏
理論家としてのヴァーッハナー（九）……（六）…田村寛貞
ガーデとその二大シムフォニー……（九）…牛山　充
近代音樂とリヒャルド・シュトラウス（七）……（一四）…田村寛貞
歌劇『アリアドーネ　アウフ　ナキソス』……（一六）…牛山　充
名人名曲『デーア　フリーゲンデ　ホレンダー』……（二四）…M・U・生
叙事長詩『花』（二）……（三四）…内海泡沫
梅は花さく（詩）……（四〇）…林　古溪
霧の國（詩）……（四二）…中川一政
靜なる日（詩）……（四五）…佐藤綠葉
ほゝゑみ……（四七）…ゆふづつ
雁の便り……（四九）……
海内樂壇……（五〇）……
海外樂壇……（六一）……
編輯室より……（六八）……
講義　ピアノの技術（三）……（六九）…乙骨三郎
　　作曲法入門（四）……（七一）……
表紙……鹽見　競
カット……草川友忠
　　彭城昌平

（第四巻第二号　大正二年二月）

音樂第四巻第三號目次

曲譜籠の小鳥……（白鳥省吾作歌　柿村德藏作曲）
口繪歌劇『パーシファル』の舞臺面
樂壇時評……（一）……

獨逸の劇場の組織竝に其保護監督に就て……(二)…湯原元一
支那の純正調及び平均率(一)……(三四)…田邊尚雄
創始時代の常盤津(ママ)……(三九)…福田勘藏
理論家としてのヴァーッハナー(十)……(三九)…田村寛貞
近代音樂とリヒャルドシュトラウス(八)……(四四)…田村寛貞
リヒャルド・シュトラウス解說……(四六)…秦　豐吉
ニーベルンゲンの指環(一)……(五〇)…田村寛貞
樂劇『パーシファル』を聽く……(五三)…多久寅
萩原英一
偶感……(六〇)…近森出來治
海のあなた(詩)……(六一)…林　古溪
林の鳥(詩)……(六四)…富田碎花
時(詩)……(六五)…柳澤　健
絹絲(詩)……(六六)…南くに子
うすあかり(歌)……(六八)…しげのぶ
海内樂壇……(七〇)……
海外樂壇……(七六)……
講義　音階の話(一)……(八〇)…田邊尚雄
音程名の新譯語……(八三)…田邊尚雄
表紙……鹽見　競
カット……草川友忠
彭城昌平

(第四巻第三号　大正二年三月)

音樂第四巻第四號目次

口繪　ライプツィックのゲワンドハウスの内部
メラニー、クルトのフィデリオ
エミー、デスティンのエルザ
樂壇時評……(一)……
帝國音樂會演奏を聽いて感あり
卒業せる新進樂家
支那の純正調及び平均率(二)……(四)…田邊尚雄
歌劇『グラトラム』研究……(一〇)…秦　豐吉
佛陀のみこゑ……(一二)…林　古溪
『飛行する和蘭人』の愛……(一六)…T、H、生
『ニーベルンゲンの指環』(二)……(一八)…田村寛貞
『フィデリオ』のレオノーレと『ローヘングリン』のエルザ(一)……(二三)…黑田　誠
示諸生三首(漢詩)……(二三)…林　古溪
春の花秋の花(詩)……(二四)…内海泡沫
春の子供(詩)……(二六)…白鳥省吾
牧の牛と蝙蝠の歌(詩)……(二八)…中川一政
西國より金城下迄……(二九)…碧楊生
海内樂壇……(四三)……
海外樂壇……(四七)……
學校記事……(五一)……
編輯室より……(五二)……

講義　作曲法入門(四)……(五三)……秦　豐吉
音階の話(二)……(五八)…田邊尚雄
表紙意匠……鹽見　競
カット……草川友忠
彭城昌平

（第四巻第四号　大正二年四月）

音樂第四巻第五號ワーグナー紀念號目次

口繪
リヒャルド・ワーグナーの肖像四葉
さ迷へる和蘭人（ヘルマン　ヘンドリッヒ筆）
バイロイト祭演劇場とワーグナー
ペンチングとトリープシェンに於けるワーグナーの住家
ワーグナーの墓
エリックに扮するシュール　フォン　カロルスフェルド
リストがワイマールを去る時の紀念寫眞
ワーグナー劇の舞臺面（八葉）
リヒャルド・ワーグナーの自筆四葉
樂壇時評……(一)…同　人
バイロイトを訪ふ……(二)…湯原元一
リヒャルド・ワーグナーの作品……(六)…上野直昭
ワーグナーの音樂劇……(一三)…和辻哲郎
トリスタン物語……(一四)…小林愛雄
ワーグナー音樂の第一印象……(一六)…内藤　濯
ワーグナーとニイッチェ……(一八)…高安月郊
シュミッツ博士の「ニーベルンゲン」論……(二三)…田村寛貞
ワーグナー小話……(三〇)…秦　豐吉
『フィデリオ』のレオノーレと『ローエングリーン』のエルザ……(三八)…黒田　誠
『トゥリスタンとイゾールデ』……(五〇)…草川友忠
『タンホイザー』及『ローエングリン』論……(五九)…二條厚基
『リエンツィ』と『ホレンダー』……(七〇)…藤田愛子
『ローエングリーン』……(七五)…犬井英夫
ワーグナーの『ファウスト　オーバーティュア』に關するワーグナーとリストとの文通……(八一)…野々花一香
ワーグナーの埋葬の日を憶うて……(八四)…弘田龍太郎
ワーグナーの生ひ立ち……(八六)…乙骨三郎
ワーグナー小傳……(九二)…牛山　充
戯曲『トゥリスタンとイゾールデ』……(九九)…花　法　師
ワーグナー研究參考文書……(一〇五)…田村寛貞
編輯室より……(一〇七)……
樂界消息……(一〇八)……
表紙ワイマールに於ける『ローエングリーン』初興行のビラ

（第四巻第五号　大正二年五月）

音樂第四巻第六號目次

樂譜「春の行衛」……高安月郊作歌
弘田龍太郎作曲

口繪（ケルビーニ シーラ プレーチンガーの扮せるイゾールデ アントン フォン ローイの扮せるヲータン ヨハンネス ビショップの扮せるフリーゲルデル ホルレンダー マダーム ノルディカの扮せるブリュンヒルデ）
樂壇時評……（一）
苦言一束……（二）榊保三郎
教壇上の女子を論ず……（七）三谷綠二
音樂教授法沿革史（一）……（一三）草川宜雄
ヨハンネス・ブラームス……（一五）弘田龍太郎
ロッシーニ……（一九）佐久間孝夫
ケルビーニ……（二三）牛山充
歌劇に仕組まれたる文豪の作物……（三〇）柴田知常
親愛なる諸兄姉に告ぐ……（三四）花法師
UNSERE DEUTSCHEN STUDIEN……（三六）
鳥の拔毛（詩）……（三七）尾山篤三郎
うら若き漂浪びと（詩）……（三九）内海泡沫
むかしべ（詩）……（四二）林古溪
二部合唱（詩）……（四三）柳澤健
春季修學旅行記……（四五）T、S、生
新橋より伊豆山まで……（四七）鉢伏庵
白光……（四八）百合子
海内樂壇……（五一）
海外樂壇……（六一）
講義 音階の話（三）……（六三）田邊尚雄
作曲法入門（四）……（六五）
表紙……鹽見競
カット……草川友忠
彭城昌平

（第四巻第六号　大正二年六月）

音樂第四卷第七號目次

樂譜明治天皇奉悼歌……久保豬之吉謹作歌 榊保三郎謹作曲
口繪（歌劇『靈笛』の作曲されし家とモツァートの胸像 ワーグナーの生れたる家）
聖靈奉弔……（一）
雅樂及び神樂、催馬樂と聲明……（二）志田義秀
音樂教授法沿革史（二）……（六）草川宜雄
學友會演奏雜感……（一一）高折周一
ディ　マイスタージンガー（一）……（一三）小田島次郎
ロッシーニ（二）……（一六）佐久間孝夫
歌劇『靈笛』……（二〇）牛山充
ヨハンネス　ブラームス（二）……（二三）高安百合
バッハのニ短調司伴樂……（二七）牛山充
榊博士の師範科全廢論について……（五〇）關根益三
創作短評……（五三）紫朗
紅の欝金香（詩）……（五五）富田碎花
小曲三章（詩）……（五九）尾山篤三朗

即興(詩)……(六〇)…中川一政
歌ふ時は(詩)……(六一)…西宮藤朝
靜心なき夕……(六三)…歌　路
崑山花園より……(六四)…鐵　火　生
海内樂壇……(六六)……
講義音階の話(四)……(七五)…田邊尚雄
編輯室より……(七九)……

(第四巻第七号　大正二年七月)

音樂第四巻第八號目次

明治大帝奉頌唱歌……東京音樂學校謹作曲
樂譜ヴイオリン曲スーヴニーア……杉山長谷夫作曲
口繪、樂劇『ローエングリーン』の型……
樂壇寸評……(一)……
苦言一束のたしがき……(二)…榊保三郎
隋書律暦志中の三百六十律に就いて……(六)…田邊尚雄
邦樂と洋樂……(一一)…乙骨三郎
Stumpf の新著 "Die Anfänge der Musik"
梗概略述……(一四)…田村寛貞
獨逸の尋常小學唱歌……(一六)…吉丸一昌
ゲーテの『ファウスト』とグノーの『マルガレーテ』……(一九)…黒田　誠
唱歌教授の悲むべき實例……(三〇)…三谷綠二
音樂教授法沿革史(三)……(三四)…草川宣雄
ロッシーニ(三)……(四〇)…佐久間孝夫
ディ　マイスターシンガー(二)……(四五)…小田島次郎
英京より……(四七)…太田黒元雄
創作短評(二)……(五一)…紫　朗　生
金城下より……(五三)…碧　楊　生
青き花(詩)……(五五)…内海泡沫
はまべ(詩)……(五九)…林　古溪
鳳仙花(詩)……(六〇)…高辻秀宣
月夜小曲(詩)……(六三)…柳澤　健
海内樂壇……(六五)……
海外樂壇……(六七)……
作曲法入門(六)(講義)……(七一)……
表紙意匠……鹽見　競
カット……草川友忠

(第四巻第八号　大正二年八月)

音樂第四巻第九號目次

樂譜『さすらひ』……(山田耕作作歌 三木露風作詩)
口繪(竹内うめ子嬢とその絶筆 樂劇『ローエングリーン』の型)
樂壇寸評……(一)…同　人
安永天明時世相と富本節……(二)…福田勘藏
歌樂雜筆……(九)…吉丸一昌
音樂教授法沿革史(四)……(一〇)…草川宣雄

ゲーテの「ファウスト」とグノーの「マルガレーテ」(二)……(一八)…黒田　誠
近代女流歌うたひ(一)……(二五)…秦　豐吉
ア・ルービンシュタインの逸話……(三三)…愛　子
ピアノを初むるに最も適した年齢……(三六)…同　人
倫敦より……(三六)…太田黒元雄
太陽を思ひましょう……(三九)…齋藤佳三
創作獨唱曲演奏に就て……(四八)…遠野紫朗
創作短評(三)……(五〇)……
幻想の鑰外一篇(詩)……(五三)…尾山篤二郎
此のごろのポエムズ(詩)……(五四)…高辻秀宣
我が母人(詩)……(五六)…中川一政
晝美人(詩)……(五七)…内海泡沫
及ばぬ思(歌)……(六〇)…萬古刀庵
苦笑(歌)……(六一)…井上猛一
そののちに(歌)……(六三)…大熊信行
輓歌十章(歌)……(六四)…富田碎花
竹内うめ子女史を悼む(歌)……(六五)…牛山　充
悲しい思ひ出……(六六)…高安百合
竹内うめ子女史逝く……(六七)…牛山　充
鼠尾草……(七〇)…花　法　師
海内樂壇……(七三)……
音階の話(七)(講義)……(七六)…田邊尚雄

(第四巻第九号　大正二年九月)

音樂第四巻第十號目次

口繪
ゼールディの肖像　二
ミランなるゼールディ夫妻の休靈堂
ミランに於けるゼールディの胸像
トウラキアータのフリーダ　ヘムベル
樂壇時評……(一)…同　人
聲詩の三句法を論ず……(三)…吉丸一昌
象徴詩と音樂的情趣……(七)…柳澤　健
箏の調子を容易に正しく合す法……(八)…田邊尚雄
音樂教授法(二)……(一三)…草川宣雄
ゼールディの小傳と彼の作品概評……(一三)…小田島次郎
ヂュウゼッペ　ゼールディ……(一九)…犬井英夫
ゼールディの作品概評……(二三)…高安百合子
歌劇『エルナーニ』……(二六)…藤田愛子
歌劇『リゴレット』……(三八)…田内彌生
歌劇『イル　トゥルヴトーレ』……(四一)…長坂好子
歌劇『ラ　トゥラヰアータ』……(四四)…A、N、生
ゼールディに就いて……(五一)…阿部次郎
ゼールディのレクィエム……(五三)…黒田　誠
ゼールディがエフ　フィリップに送れる書翰……(五四)…弘田龍太郎
ゼールディの參考書……(五八)……
歌劇『マルタ』の音樂的略解……(五九)…黒田　誠
歌劇『マルタ』中の小唄一つ……(六三)…小林愛雄
樂界消息……(六三)……

悔悟なき生(詩)……(六四)…高辻秀宜
哀竹内梅子歌……(六六)…林　古溪
青瓔珞(歌)……(六七)…永田龍雄
海内樂壇……(六八)……
編輯室より……(七三)……

(第四巻第十号　大正二年十月)

音樂第四巻第十一號目次

口繪(ネリー　メルバとヤン　クーベリック　逝けるチェルロ大家ダギット　ポッパー)
樂壇時評……(一)…同　人
音響學及び音響心理學上の學説研究(一)……(二)…田村寛貞
樂律の構成法を容易に示す新案器械……(一三)…田邊尚雄
邦樂と洋樂(二)……(一九)…乙骨三郎
唱歌教授の形式段階……(二二)…三谷綠二
音樂教授法(三)……(二七)…草川宣雄
ローエングリーンの「エルザ」とグノーの「マルガレーテ」(三)……(三四)…黒田　誠
ロッシーニ(四)……(四一)…佐久間孝夫
通俗演奏會に關し敬愛する音樂學校生徒諸氏に望む……(四五)…黒田　誠
ロンドンより……(四七)…太田黒元雄(ママ)
近讀中より……(四九)…こすもす
ピアノの練習に就て……(五一)…M、K、生
『太陽を思ひませう』を讀みて齋藤佳三氏に答ふ……(五三)…高折周一
靜な搖籃(詩)(フェードル・ソログープ作)……(五六)…前田林外
赤い夢(詩)……(五九)…坂本潮郎
夜の居留地(詩)三木露風氏へ……(六一)…杉本貞一
われらが愛(詩)……(六三)…高辻秀宜
くれがた(詩)……(六五)…杉本貞一
さみしき鳥(詩)……(六六)…内海泡沫
秋(詩)……(六九)…富田碎花
短き詩三篇(詩)……(七一)…中川一政
相聞(歌)……(七三)…尾山篤二郎
こすもす(歌)……(七四)…こけい
寂鮎(歌)……(七五)…永田龍雄
ワンナの嘘(歌)……(七六)…大熊信行
林檎の赤く光る國へ……(七八)…蓼　花
秋の調……(七九)…幽　梨
海内樂壇……(八一)……
海外樂壇……(八九)……
編輯室より……(九一)……
音階の話(七)(講義)……(九三)…田邊尚雄

(第四巻第十一号　大正二年十一月)

音樂第四卷第十二號目次

樂譜『月の御船』……（露西亞旋律 吉丸一昌作歌）
口繪（ゑールディ紀念像、ゑールディの生家 二葉、ゑールディの手と顔の石膏型、ゑールディの臨終室、ギルラゑールディの庭にある四阿家、ロンコーン村寺ノ風琴、プセットのサンバルトローメオ寺、プセットのバラッツォ、オルレアンティ、プセットの市會堂とテアトゥロ、ゑールディ、プセット行きの列車）
本年の樂界……（一）……
唱歌教授の形式的段階（二）……（二）…三谷綠二
聲の養生法に就いて（一）……（九）…大田乙六
音樂教授法（四）……（一三）…草川宣雄
ゲーテのファウストとグノーのマルガレーテ（四）（一九）…黑田　誠
ゑールディとワーハナー……（三〇）…牛山　充
エドワルド　グリーヒの幼時……（三八）…藤田愛子
新秋の英京より……（四〇）…太田黑元雄（ママ）
百年祭の遠景中に現はれたるゑールディ……（四五）…牛山　充
プセットにゑールディの遺蹟を訪ふ……（四八）…九一生
ヂューゼッペ　ゑールディの事ども……（五一）…桑原四賀
卷頭の樂譜に就きて……（五三）…遠野紫朗
白夜（詩）……（五四）…坂本潮郎
ヤシャ　ハイフェッツ（詩）……（五五）…齋藤佳三
蜘蛛（詩）……（五六）…杉本貞一
正調歌……（五七）…早資篤宣
ゆうかり樹（詩）……（五八）…中川一政
曉（詩）……（五九）…林　古溪
林檎の赤く光る國へ（二）……（六〇）…蓼　花子
海内樂壇……（六三）……
海外樂壇……（七〇）……
編輯室より……（七三）……
作曲法入門（七）（講義）……（七五）……
附錄『音樂』第四卷總目錄……（七九）……

（第四卷第十二号　大正二年十二月）

音樂第五卷第一號目次

樂譜『春を待つ』……（メンデルスゾーン曲 吉丸一昌歌）
口繪（ルイーゼ　ホメール、マーガレーテ　オーパー　フリーダ　ヘムペル、ドゥ　パディルラ）
樂壇時評……（一）……
不協和原理としての唸學說の沒落（一）……（二）…田村寬貞
表現の手段としての詩と音樂と……（八）…柳澤　健
邦樂と洋樂（三）……（一三）…乙骨三郎
讀書餘筆（一）……（一九）…吉丸一昌
日本人と日本語……（二三）…太田乙六
唄ふ人の爲めに……（二七）…近藤義次
夢さめし世に（歌）……（三三）…永田龍雄
音樂教授法（五）……（三四）…草川宣雄
獨逸音樂界のくさぐさ……（四一）…武者小路公共

倫敦樂信……（四五）…太田黒元雄
歌劇『ミニョン』……（四九）…青山浪子
黄なる心（歌）……（五八）…しげのぶ
薄ら日（歌）……（五九）…筑波子
友を送るの詩（詩）……（六〇）…中川一政
落葉とわれ（詩）……（六一）…杉本貞一
夜（詩）……（六二）…青き魚を釣る人
蠱惑の曲（詩）……（六三）…高辻秀宣
幻の少女（詩）……（六四）…坂本潮郎
花のおもひで（其一）（詩）……（六五）…内海泡沫
瑞山濁水……（六七）…小倉末子
白き窓より……（六九）…ひなげし
伯林より……（七〇）…小倉末子
海内樂壇……（七二）……
海外樂壇……（八二）……
作曲法入門……（八六）……
編輯室より……（八八）……

（第五巻第一号　大正三年一月）

音樂第五卷第二號目次

夢の幸……バッハ曲
音に誘はれて……高野辰之歌
口繪　歸朝したる山田耕作氏……弘田龍太郎曲
吉丸一昌歌
樂壇寸評……（一）……
不協和原理としての唸學說の沒落（二）……（二）…田村寛貞
邦樂と洋樂（四）……（一〇）…乙骨三郎
詩と音樂……（一六）…林古溪
唱歌教室に於ける兒童の心理……（二一）…小川友吉
ワーハナーの觀たるベートーヴェン（一）……（三一）…小田島次郎
獨逸國大學に於ける音樂講義竝に演習……（三六）…田村生
簡易なる音階構成器を紹介す……（三九）…細谷陸郎
一年を顧みて……（四三）…太田黒元雄
音樂教授法（六）……（四九）…草川宣雄
津輕地方の俗謠（一）……（六一）…金健二
雨夜吟（歌）……（六七）…萬古刀庵
生のあるま（歌）……（六八）…永田龍雄
青き物語（詩）……（六九）…高辻秀宣
みなみかぜ（詩）……（七〇）…望月れい
月光と雪（詩）……（七二）…杉木貞一
金と灰の舞踏（詩）……（七四）…坂本潮郎
褪紅と銀綠（詩）……（七六）…内田月城
四方に伸ぶる手（詩）……（七七）…青き魚を釣る人
詩集果樹園の序詩（詩）……（七八）…柳澤健
孤獨（詩）……（七九）…長瀨虎朗
花のおもひ出（詩）……（八〇）…内海泡沫
海外樂壇……（八四）……
編輯室より……（九四）……

海内樂壇……（九五）
樂人動靜……（一〇三）
新刊紹介……（一〇六）

（第五巻第二号　大正三年二月）

音樂第五巻第三號目次

口繪（森林中に靈感を求むるベートーヱン／ワンニ　マルコーの扮せるギード　コロンナ／ボストン歌劇座の上演せる「モンナ　ヴンナ」の舞臺面三葉）
樂譜（別れ路……（ブロッス曲　吉丸一昌歌）／心の花……（ブラームス曲　吉丸一昌歌））
樂壇寸評……（一）
聲樂の根本形式について……（二）…吉丸一昌
邦樂と洋樂（五）……（七）…乙骨三郎
ベートーヱン論（一）……（一三）…牛山　充
音樂教授法（七）……（二九）…草川宣雄
津輕地方俗謠（二）……（三七）…金　健二
ボストン歌劇座の『モンナ　ヴンナ』……（四〇）…桑ケ原四賀
中京より……（四七）…碧　楊　生
細谷君の音階構成器を評す……（五一）…田邊尚雄
シカゴより……（五三）……
ほほゑみて（歌）……（五六）…筑　波　子
あづま歌（歌）……（五七）…永田龍雄
泡雪（詩）……（五九）…萬古刀庵
朝（詩）……（六〇）…長瀨虎朗
まぼろし（歌）……（六一）…杉本貞一
生の斷片（歌）……（六二）…夢　見　草
流涕（詩）……（六三）…望月れい
幻の船（詩）……（六五）…坂本潮郎
地上炎々（詩）……（六七）…室生犀星
雪の日の哀感（詩）……（六九）…内田月城
花のおもひで（其三）（詩）……（七一）…内海泡沫
若き日のために（戲曲）……（七五）…花　法　師
海内樂壇、海外樂壇……（八一）……
作曲法入門（九）……（一〇六）……
編輯室より……（一一三）……
歌劇物語（一）『アイーダ』……（一）…牛山　充

（第五巻第三号　大正三年三月）

音樂第五巻第四號目次

樂譜、東京音樂學校寄宿舍團欒の歌……（吉丸一昌作歌　本居長世作曲）
口繪（キルリー　ベルレーロ／ミンネシンガーズ／逝ける畏友）
樂壇寸評……（一）……
人生の開放を語つた淨瑠璃……（二）…福田勘藏
聲詩に於ける語句の三形式……（一七）…吉丸一昌
樂律構成器の改良……（二一）…田邊尚雄

ワーハナーの見たるベートーヱン(二)……(二八)…小田島次郎
詩人畫家戯曲家としてのオーケストゥラ……(三五)…A、N、生
音樂教授法(八)……(四三)…草川宣雄
田邊氏に音階構成器の疑問を質す……(五一)…細谷陸郎
ショパンの數曲……(五五)…大田黒元雄
津輕地方俗謠(三)……(六三)…金　健二
思ひ出す人と曲……(六五)…大田黒元雄
スフィンクスの洞(詩)……(七四)…坂本潮郎
黎明の鐘(詩)……(七五)…津端　修
ためいき(詩)……(七六)…内田月城
美しき泡(詩)……(七七)…高辻秀宣
港(詩)……(七八)…村山至大
夏の海と滿足(歌)……(八〇)…早資篤宣
赤い襟(歌)……(八一)…嵯峨秋子
黄ざくら(歌)……(八二)…永田龍雄
海のセレナーデ(歌)……(八三)…美　輪　子
淋しき夕の埋葬……(八四)…蓼　花　子
涙の頰……(八七)…われもかう
海内樂壇、海外樂壇……(八九)……
作曲法入門……(一一四)……
音樂通論……(一―二)…乙骨三郎

(第五巻第四号　大正三年四月)

音樂第五巻第五號目次

樂譜　祈願の歌……(シューバート作曲 吉丸一昌作歌)
口繪(アレキサンダー　スクリアビン / ギースバーデンの市ノイエス　クルハウスの大音樂堂)
皇太后陛下の御崩去御奉悼の辭
音程値の定め方……(一)…田邊尚雄
新らしい音樂教育……(六)…牛山　充
細谷君に答ふ……(二一)…田邊尚雄
ベートーヱン論(二)……(二七)…牛山　充
音樂教授法(九)……(三九)…草川宣雄
近代樂と其の作家……(四八)…大田黒元雄
音樂に關する雜感……(五三)…柳澤　健
良い女流歌手となるには……(五六)…遠山　霞
聽くまま　思ふまま……(六三)…大田黒元雄
祕密の花(詩)……(七六)…坂本潮郎
限りなき寂しさに(詩)……(七七)…津端　修
春興二章……(七八)…葛原　滋
葉のうた(詩)……(七九)…望月　麗
眞面目な顔(詩)……(八〇)…早資篤宣
まんどりん(詩)……(八一)…内田月城
春窓哀話(戯曲)……(八二)…春木俊夫
海内樂壇……(九七)……
海外樂壇……(一〇三)……

樂人動靜……（二四）……
作曲法入門（十一）……（二六）……
歌劇物語『ラクメ』……（一九）…牛山　充

（第五巻第五号　大正三年五月）

音樂第五卷第六號目次

樂譜、皇太后陛下奉悼歌……（男爵千家尊福謹作歌／東京音樂學校謹作曲）
口繪（東京音樂學校卒業生／エム、バラーキレフ）
樂壇時評……（一）……
新内節の品位……（二）…井上猛一
音樂好きの教育……（四）…牛山　充
音樂教授法（十）……（二三）…草川宣雄
感化事業の音樂……（二四）…松井壯水
近代樂の作家（二）……（二九）…大田黑元雄
チヤイコフスキー（一）……（三三）…女子研究科生
歌劇『カッサンドゥラ』の上演……（三五）…桑原四賀
聽くまゝ思ふまゝ（二）……（四〇）…大田黑元雄
第三の邦（詩）……（四八）…富田碎花
マルチア　フネープレ（詩）……（五一）…こけい
ゆく春（詩）……（五三）…中川一政
夜の旅裝（詩）……（五四）…長瀨虎朗
日本の人間（歌）……（五五）…早資篤宣
銀の小徑（詩）……（五六）…坂本潮郎
夜がらす（詩）……（五七）…津端　修
半日（詩）……（五八）…高辻秀宣
卓上の花（歌）……（五九）…藤井綠郎
英國行使館前（歌）……（六〇）…星川清雄
君待つ間（歌）……（六一）…平田稻穗
みづうみの歌其他（歌）……（六二）…内田月城
大阪より……（六四）…高安百合
海内樂壇……（六五）……
海外樂壇……（七〇）……
作曲法入門……（八三）……
音樂通論……（一三―三）…乙骨三郎
歌劇物語（三）『セミラミーデ』……（三九―五四）…牛山　充

（第五巻第六号　大正三年六月）

音樂第五卷第七號目次

樂譜、涙の幣……（吉丸一昌作歌／本居長世作曲）
口繪（歌劇「オルフエオ」の舞臺面／リツター　クリストフ　ヰリバルト　フオン　グルツク／コムモタウの寺のグルツクの風琴／ワイデンワンクなるグルツクの生家）
樂壇時評……（一）……
グルックの改革……（二）…牛山　充
クリストフ　ヰルリバルト　グルック……（三）…牛山　充
音樂教授法（十一）……（七四）…草川宣雄

メルバとカルーゾーとクーベリックとキリー
フェレロ……（八〇）…大田黒元雄
チヤイコフスキー（二）……（八三）…女子研究科生
ローエングリーンとパーシファル……（八六）…大田黒元雄
グルックの参考書……（八九）…田村寛貞
曼陀羅の華……（九〇）…齋藤佳三
木の芽草の花……（九二）…望月れい
高嶺の花（詩）……（九三）…内海泡沫
花卷より……（九五）…鈴木竹松
海内樂壇……（九七）……
編輯室より……（一〇三）……
歌劇物語『オルフェーオとユーリディーチェ』……（五五―六八）…牛山　充

（第五巻第七号　大正三年七月）

音樂第五巻第八號目次

樂譜、子守謠……（キユツケン作曲／吉丸一昌作歌）
口繪（リリアン　ノルディーカ夫人／ウラディミール　レーピコフ）
樂壇時評……（一）……
逝けるリリアン　ノルディーカ……（二）…牛山　充
リリアン　ノルディーカの思ひ出……（八）…牛山　充
音樂教授法（十二）……（三〇）…草川宣雄
チヤイコフスキー（四）……（四二）…長坂好子等
本譜教授と樂典……（四六）…古澤春雄
ノルディーカ夫人の最後の旅……（五四）…無一庵
露西亞舞踏の墮落……（五八）…滋野清武
新進露西亞二作家……（六二）…桑ケ原四賀
きよきひゞき（詩）……（六六）…林　古溪
有馬みち（詩）……（六七）…中川一政
綠（詩）……（六七）…長瀨虎朗
太鼓（詩）……（六八）…高辻秀宣
ひあふぎ（詩）……（六八）…望月れい
月の初旅（詩）……（六九）…坂本潮郎
草（詩）……（六九）…中山　直
古井の花（詩）……（七〇）…内海泡沫
途次雜咏（歌）……（七一）…内田月城
九十九里の波に和して歌へる（歌）……（七三）…柳澤　健
一心にあやせば（歌）……（七四）…大熊信行
興奮の中に（歌）……（七六）…早資篤宣
ふるさとへ……（七八）…高安百合
海内樂壇……（八一）……
海外樂壇……（九七）……
樂人動靜……（一〇六）……
編輯室より……（一〇七）……
音樂通論（三）……（三三―三六）…乙骨三郎
歌劇物語『田舍騎士』……（六九―八四）…牛山　充

（第五巻第八号　大正三年八月）

音樂第五卷第九號目次

樂譜、雪國の歌……（吉丸一昌作歌／島崎赤太郎作曲）……（一）
樂壇時評……（二）…小川友吉
滑稽唱歌の研究……（三）…弘田龍太郎
ピアーノに於けるオクターヴ奏法……（四）…牛山　充
音樂好きの教育の必要……（五）…大田黑元雄
ショパン六十曲（一）……（六）…草川宣雄
音樂教授法（十三）……（七）…大田黑元雄
ムーソルグスキーの『ポリス（ママ）ゴドゥノフ』……（八）…高辻秀重
梨の果（歌）……（八）…永田龍雄
あきくさ（歌）……（八）…谷元知安
青空（歌）……（八）…竝樹秋人
南風（歌）……（八）…望月れい
秋思（詩）……（八）…内海泡沫
墓上の花（詩）……（八）…船山　豐
愚なる人々よ（詩）……（八）…アントニーニ
八月七日！……（九）…
海内樂壇……（九）…
編輯室より……（一〇）…
歌劇物語（九）『ラマームーアのルチーア』……（八五―一一三）…牛山　充

（第五卷第九号　大正三年九月）

音樂第五卷第十號目次

口繪（クレムリン王宮、聖バシル寺、イヴン　エリキー寺、昇天堂、ラハマニノフ、ニコライ　ルービンシテイン、ヴーサ　ズーク、クッセヴツツキー、カクレツオーフア、バラコーフア、アウレリードブロフオルスカ、アレキサンダー　ローマン）
樂壇時評……（一）…
詩と音樂の關係……（二）…萩原朔太郎
正確な聽き方（一）……（七）…牛山　充
ショパン六十曲（二）……（二八）…大田黑元雄
莫斯科の印象……（三八）…牛山　充
デビュシー研究（一）……（四七）…大田黑元雄
短歌評正……（五二）…豐日　別
聖きヱメラルド（詩）……（五三）…すみや
大なる一輪の花（詩）……（五四）…内海泡沫
つるくさの花（詩）……（五六）…望月れい
あさごと（歌）……（五七）…林　古溪
月光流下（歌）……（五八）…星川清雄
玉と碎けて（歌）……（五九）…嵯峨秋子
島のみなと（歌）……（六〇）…田邊信太郎
わが祖母（歌）……（六一）…永田龍雄
初秋羈歌（歌）……（六二）…船山　豐
周圍と孤獨（歌）……（六四）…高辻秀宣
平靜な呼吸（歌）……（六六）…早資篤宣
歸りゆく日……（六七）…花　法　師

海内樂壇……(六九)……
海外樂壇……(七三)……
作曲法入門(十二)……(八二)……
消息……(八七)……
編輯室より……(八八)……
音通通論(四)……(三七―四〇)…乙骨三郎
歌劇物語(七)『プロフェット』……(一二三―一三〇)…牛山　充

(第五巻第十号　大正三年十月)

音樂第五巻第十一號目次

樂譜『夜』……(シューバート曲 吉丸一昌歌)
奈良の聲明と田樂……(一)…高野辰之
樂界に對する希望……(一四)…細谷六郎
ニジンスキーの藝術……(二五)…柳澤　健
確定的な聽き方(二)……(三一)…牛山　充
音樂教授法(十四)……(五一)…草川宣雄
ショパン六十曲(三)……(五六)…大田黑元雄
チャイコフスキー(四)……(六一)…田中久子等
頭に浮ぶこと……(六三)…倉開二六
オペラとドラマ……(六六)…歌川花子
衰へし老樹の花(詩)……(七一)…内海泡沫
落陽(詩)……(七三)…望月れい
文鳥(歌)……(七四)…永田龍雄
黑髪(歌)……(七五)…嵯峨秋子
病まざれど(歌)……(七六)…中村秋津
ぎんのばった(歌)……(七七)…星川清雄
圓日(歌)……(七八)…竝樹秋人
合歡花咲く窓(歌)……(八〇)…美輪　子
代々木野(歌)……(八一)…田邊信太郎
ゆふべになれば……(八二)…ふるやとひと
何故に音樂が嫌ひか……(八三)…半　潤
新らしき箏曲……(八五)…藤田北斗
海外樂壇……(八六)……
海内樂壇……(九一)……
作曲法入門(十三)……(九九)……
編輯室より……(一〇三)……
解剖的聲樂法(一)……(一―四)…松尾孝輔

(第五巻第十一号　大正三年十一月)

音樂第五巻第十二號目次

樂譜『寂寥』……(薄田泣菫作歌 梁田　貞作曲)
口繪(パレストリーナ、幼兒時代、少年時代及び現今のリヒャルド　シュトラウスと其別莊)
樂壇時評……(一)……
文學史料としての三寶繪詞……(二)…山田孝雄
風流と呼ばれる歌舞の流れ……(三)…志田義秀

音響學上の二三の說……（三四）…田邊尙雄
シュトラウス論……（三三）…倉開二六
歌劇『サロメ』略解……（三六）…秦　豐吉
樂劇『サロメ』……（四三）…倉開二六
リヒャルド　シュトラウスの室樂……（四八）…弘田龍太郎
合唱曲作家としてのシュトラウス……（六六）…犬井英夫
『ツァラトゥーストラは斯く語りぬ』……（七五）…井上はる／花島秀
『英雄の生涯』……（七七）…廣田ちづゑ／小野みつ／鈴木采
パレストリーナ……（八〇）…松岡登志／井川富子
ピエルルイーヂと其作品全集（一）……（八四）…田中久子／石原和子
パレストリーナ及シュトラウス參考書……（一〇三）……
金春禪竹の「禪竹集」に就いて……（一〇五）…吉田東伍
K君に與ふ……（一一〇）…細谷六郎
强い味方（詩）……（一一五）…高辻秀宣
危機（詩）……（一一五）…山本渚の貝
秋の心（詩）……（一一六）…坂本潮郎
病める弟に（詩）……（一一六）…大谷德太郎
沈落光耀（歌）……（一一七）…永田龍雄
深秋痛心（歌）……（一一八）…星川清雄
海外樂壇……（一一九）……
海內樂壇……（一二四）……
編輯室より……（一三七）……
附錄第五卷總目錄……

（第五卷第十二號　大正三年十二月）

音樂第六卷第一號目次

表紙文字嵯峨天皇御震筆、畫『音樂』フォン　カウルバッハ筆
口繪『聖樂』エム・リーギー筆
樂壇時評……（一）……
サルテリーに合せて語ること……（二）…山宮　允
音樂の鑑賞と音樂のテクニック……（一〇）…柳澤　健
樂音と噪音……（一八）…田邊尙雄
玉淵集の研究（一）……（二四）…吉丸一昌
田村虎藏氏の最近作物を論じて氏の音樂的技能とその知識とを疑ふ……（二九）…福井直秋
露西亞樂壇の十新星……（三三）…倉開二六
樂譜に現はれたる文字の話……（四一）…乙骨三郎
人格淘冶と唱歌教授……（五五）…山本　壽
チャイコフスキー（五）……（六一）…長坂好子等
初春（詩）……（六五）…永田龍雄
長耳短脚を笑ふ歌（お伽歌）……（六六）…葛原　滋
非時花（詩）……（六七）…內海泡沫
反逆（詩）……（六八）…大谷德太郎
黃昏愁唱（詩）……（六九）…眞　三郎
狹霧降る夜（詩）……（七一）…坂本潮郎

夜明けの旅館(歌)……(七)…内田月城
母(歌)……(七三)…とれにや
おもひの泉(歌)……(七三)…筑波子
悲しき旅路(歌)……(七五)…武藤白咲
逝冬斷章(歌)……(七六)…井野隆弘
手箱の中より……(七七)…美輪子
英國戰時の流行歌……(七九)…薔庭
ボストンより……(八〇)…福島琢郎
海外樂壇……(八一)……
海内樂壇……九二……
作曲法入門(完)……(九六)……
編輯室より……(一〇一)……
花信月書……(一〇三)……
ミル氏解剖的聲樂法(二)……(五―一〇)…松尾孝輔

(第六巻第一号　大正四年一月)

音樂第六卷第二號目次

樂譜
冬の野のたそがれに……プレトリウス曲 吉丸一昌歌
聖夜……獨逸民曲 高野辰之歌
口繪
奈良春日若宮の田樂
田樂古老伊藤作馬翁
樂壇時評……(一)……
鑑賞的教授に就て……(三)…小川友吉
露西亞の音樂……(一四)…上野生
奈良春日若宮の田樂……(四五)…高野辰之
音樂教授上より見たる謠曲の教授法……(四九)…吉丸一昌
歌劇『プスコフの娘』……(五三)…倉開二六
玉淵集の研究(二)……(五六)…吉丸一昌
延年の能と猿樂の能……(六〇)…高野辰之
チャイコフスキー(六)……(七三)…泉幾子等
白木屋に於ける本居氏の『夢』……(七四)…佐田琴二
ピアーノ談片……(七九)…福島琢郎
元日の詩(詩)……(八一)…倉開二六
春夜曲(詩)……(八一)…永田靜雄
冬(詩)……(八四)…高辻秀宣
わが船(詩)……(八五)…坂本潮郎
あだ花(詩)……(八六)…内海泡沫
喜悅の畏怖(詩)……(八七)…小林英
冬の谷間(詩)……(八八)…藤卓郎
屠殺所(詩)……(八九)…井上猛一
秋の清楚(歌)……(九〇)…内田月城
冬日海光(歌)……(九一)…竝樹秋人
終りの記錄(詩)……(九二)…船山豐
雪の國より(歌)……(九三)…中村紅葵
銀光(歌)……(九四)…星川清雄
牢獄の歌(歌)……(九五)…辻村直
N子に與へて所思を陳ぶるの書……(九六)…近藤義次

上海より……（九七）…K　K　生
海内樂壇……（九九）……
海外樂壇……（一〇五）……
編輯室より……（一〇九）……
花信月書……（一一〇）……
ミル氏解剖的聲樂法（三）……（一一―一八）…松尾孝輔
音樂通論（五）……（四一―四四）…乙骨三郎

（第六巻第二号　大正四年二月）

音樂第六巻第三號目次

口繪　逝ける平家音樂家館山漸之進翁
樂壇時評……（一）……
グリヤソンの見たるショパンとリスト……（二）…大田黑元雄
チャイコフスキー（七）……（五）…長坂好子等
カルーゾーの言つたこと……（六）…井上猛一
音樂の鑑賞と音樂のテクニックを讀みて柳澤
健氏に……（八）…原田敬一
福井直秋氏に答ふ……（一一）…田村虎藏
田村虎藏氏に一書を呈す……（三〇）…外狩仲七
伊太利樂況……（三六）…牛山　充
夕かぜ（詩）……（三六）…中川一政
Vampire―吸血蝙蝠―（詩）……（三七）…眞　三郎
眞珠色の萠（詩）……（三九）…齋藤佳三
石蕚の花（詩）……（四〇）…内海泡沫
北慕南戀（詩）……（四一）…永田龍雄
沈默（詩）……（四二）…大谷德太郎
海のほとりにて（詩）……（四三）…小村　英
野にて唄へる（詩）……（四四）…藤　草郎
青き草芽生へぬ（詩）……（四五）…船山　豐
曇天（詩）……（四五）…倉開二六
寂しみ（歌）……（四六）…和歌氣維磨
雪のあけぼの（歌）……（四八）…井野隆山
象の鼻（歌）……（四九）…藤井榮次郎
悲しき秋の故郷に（歌）……（五〇）…市川　彩
破絃哀調（輓歌）……（五二）…筑波子等
海外樂壇……（五四）……
海内樂壇……（五八）……
編輯室より……（六四）……
花信月書……（六六）……
二月三日の夜（歌）……（六八）…牛山　充
歌劇物語（八）『陽氣な女房達』……（一三―五〇）…牛山　充
ミル氏解剖的聲樂法（四）……（一九―二四）…松尾孝輔

（第六巻第三号　大正四年三月）

音樂第六巻第四號目次

口繪　故佐野その子夫人
樂壇時評……（一）……
音の振動と音の感覺との關係……（二）…田邊尚雄

音樂に於ける人格の養成……(一〇)…大田黒元雄
ピアーノ談片……(一三)…福島琢郎
チャイコフスキー(八)……(一六)…長坂好子等
桑港に於て聽きたる世界的樂家……(一八)…文倉平三郎
田村虎藏氏の答辨を讀みて益々氏の音樂的技能と知識とを疑ふ……(二三)…福井直秋
逝けるカール　ゴールドマークを想ふ……(三六)…牛山　充
秋日哀唱と薄明の舞臺(詩)……(四一)…加納　操
響の冬(詩)……(四二)…長瀨先司
畑は枯れたり(詩)……(四三)…坂本潮郎
戸山ケ原にて(詩)……(四三)…中山　直
鷄頭の花(詩)……(四三)…内海泡沫
二人の姪に與ふ(詩)……(四四)…大熊信行
陽光の薄明(詩)……(四五)…大田黒元雄
水の上(歌)……(四六)…内田月城
旅慕哀歌(歌)……(四六)…武藤白咲
久造に(歌)……(四七)…辻村　直
丸太棒の心(歌)……(四八)…小村　英
處女涙集(歌)……(四九)…市川　彩
飯車の母(歌)……(四九)…中村紅葵
試驗(歌)……(五〇)…牛山　充
IN MEMORIAM……(五一)…S. SANO
椿咲くころ……(五五)…美　輪　子
海外樂壇……(五七)……
海内樂壇……(六五)……
編輯室より……(七七)……
花信月書……(七七)……
英國だより……(七九)…徳川頼貞
春(歌)……(八〇)…しげのぶ
ミル氏解剖的聲樂法(五)……(二五)…松尾孝輔

(第六巻第四号　大正四年四月)

音樂第六卷第五號目次

樂譜『宵の春雨』……(吉丸一昌歌 山田耕作曲)
口繪(フィレンチェのダンテ　アリギエーリの立生地遺跡 大正四年度東京音樂學校卒業生並びに職員)
樂壇時評……(一)……
理論教授法に關する論戰……(二)…草川宣雄
偶感二題……(九)…大田黒元雄
原田敬一氏に答ふ……(一一)…柳澤　健
チャイコフスキー(九)……(一三)…田中ひさ子等
樂歷……(一四)…猪瀨久三
桑港より……(三四)…文倉平三郎
フィレンチェより……(五一)…牛山　充
蜘蛛(詩)……(六六)…鯖瀨春彦
滅びゆく庭に(詩)……(六七)…章　子
無より無へ(詩)……(六八)…大田黒元雄
五月の朝(詩)……(六八)…永田龍雄

殘んの花(詩)……(六九)…内海泡沫
艮心(詩)……(七〇)…大谷德太郎
土(詩)……(七〇)…林　信一
薄暮の心(詩)……(七一)…船山　豐
展望臺(歌)……(七一)…井野隆弘
澄心私抄(歌)……(七二)…竝樹秋人
飛行機を見て(歌)……(七三)…辻村　直
紐育より……(七四)…文倉平三郎
海外樂壇……(七五)……
海内樂壇……(八一)……
音樂通論(六)……(四五―四八)…乙骨三郎
ミル氏解剖的聲樂法(五)……(三九―四四)…松尾孝輔
花信月書……(八五)……
編輯局より……(八七)……

（第六巻第五号　大正四年五月）

音樂第六巻第六號目次

樂譜『ヴリエーシュンズ』……山田耕作
口繪　パテレフスキーとその夫人
樂壇時評……(一)……
ソナータ形式と對照して觀たるショパンの
形式……(二)…牛山　充
デビュシイと我々……(六)…大田黑元雄
音樂上の誤謬及び論爭點……(八)…猪瀬久三
原田敬一氏に答ふ……(一三)…柳澤　健
チャイコフスキー(十)……(一六)…研究科女生
田村虎藏氏の遁避を許さず……(一九)…福井直秋
再び田村虎藏氏に一書を呈す……(二七)…外狩仲一
赫よふ雲(詩)……(二九)…三木露風
アナベルリー(詩)……(二九)…鯖江春彦
尊き影(詩)……(三〇)…加納　操
上野の森(詩)……(三一)…中山忠直
夕光(詩)……(三二)…田邊信太郎
はつかぱいぷ(詩)……(三二)…矢部　孝
野路より(詩)……(三三)…市川　彩
あを蓋(歌)……(三三)…永田龍雄
凌宵花(歌)……(三四)…井野隆弘
泪(歌)……(三五)…北口君惠
空明り(歌)……(三五)…高梨直郎
大地の愛(歌)……(三五)…中村紅葵
紀の國より……(三七)…ゆふづつ
海外樂壇……(三九)……
消息……(四三)……
海内樂壇……(四四)……
タッソー（悲哀と勝利）……(五七)…弘田龍太郎
柳澤健氏に……(五九)…原田敬一
邦樂會會則……(六一)……
樂人動靜……(六二)……

編輯室より……（六三）……
學友會春季音樂大演奏會曲目……（六四）……
ミル氏解剖的聲樂法（六）……（四五―五三）…松尾孝輔

（第六巻第六号　大正四年六月）

音樂第六卷第七號目次

樂譜『ヴリエーシュンズ』……山田耕作
口繪（悠紀齋田御田植踊りと御田植／小倉末子孃／鍋島侯爵古稀祝賀音樂會）
樂壇時評……（一）……
悠紀齋田御田植謠……（二）…青柳善吾
パテレフスキー……（九）…半田良平
新案音階音程教授器を紹介し諸賢の批評と御指導とを乞ふ……（二〇）…赤池　榮
ピアーノの傍より……（二四）…大田黒元雄
音樂研究の方法……（二七）…牛山　充
希望二問題……（三一）…小部卯八
パテレフスキーの戰爭觀……（三三）…牛山　充
チャイコフスキー（十一）……（三九）…谷村ナツ子等
老名歌手の窮狀……（四一）…牛山　充
バッハよりシェーンベルヒを讀む……（四六）…柳澤　健
歸朝途上の小倉末子孃……（四八）…M、U、生
小唄集（小唄）……（五二）…加納　曉
花を地に下し植ゑて（詩）……（五三）…内海泡沫
綠夜頌曲（詩）……（五四）…越坂平太郎
麗日麗光（詩）……（五五）…大田黒元雄
垂穗麥（歌）……（五五）…高梨直郎
春來抄（歌）……（五六）…竝樹秋人
豆の花（歌）……（五七）…永田龍雄
梅雨の森林（歌）……（五八）…中村紅葵
市街と郊外（歌）……（五八）…前田夏村
悲しき夕（歌）……（五九）…武藤白咲
春の町（歌）……（六〇）…辻村　直
さ青なる野面（歌）……（六〇）…船山　豐
哀しき誓（歌）……（六一）…井野隆弘
英國だより……（六二）…德川賴貞
市伽古より……（六二）…小倉末子
藤の實……（六三）…ゆふづゝ
海内樂壇……（六六）……
海外樂壇……（七二）……
樂人消息……（七九）……
編輯室より……（八〇）……
讀者通信……（八一）……
ミル氏解剖的聲樂法（七）……（五三―六六）…松尾孝輔

（第六巻第七号　大正四年七月）

音樂第六卷第八號目次

口繪
エドワード　マクダヱル
ピターボローのマクダヱルの閉居
同丘上の閉居内の音樂堂
有名なロッグ　キャビン（丸太庵）

樂壇時評……（一）……

現代教育の趨勢を述べて音樂教育の究竟を論ず……（三）…小川友吉

マグダヱルの音樂の旋律性……（一一）…牛山　充

パデレフスキーの成功の秘訣……（一三）…猪瀬久三

尋常小學唱歌に就いて……（二三）…保科寅治

エドワード　マクダヱル……（二七）…牛山　充

チャイコフスキー（十二）……（三五）…研究科女生

ピアノの傍より（二）……（三七）…大田黒元雄

インキのしづく（一）……（三八）…半　言　子

ピアーノ學生の『勿れ』十則……（四〇）…夏　雲　居

山本正夫氏に呈して雑誌『音樂界』の主義綱領を糾す……（四一）…外狩仲七

歸る鳥（詩）……（四四）…前田春聲

黄金の鉢（詩）……（四六）…竹村俊郎

ねむれる王宮（詩）……（四六）…林　信一

歡喜頌（詩）……（四七）…大谷德太郎

廣重ゑがく（詩）……（四七）…永田龍雄

地震（詩）……（四八）…望月冷果

心のために（詩）……（四八）…藤　草郎

箱根山の詩（歌）……（四九）…鈴木賢太郎

月下の海（歌）……（五〇）…船山　豐

猿廻しと芝居（歌）……（五〇）…辻村　直

人間哀歌（歌）……（五一）…野垣内白草

夏の小鳥（歌）……（五二）…前田夏村

兄より……（五三）…井野隆弘

栗の花（歌）……（五三）…中村紅葵

銀の小櫛（歌）……（五三）…美　輪　子

ちひさき手のひと（歌）……（五四）…市川　彩

山岳集（歌）……（五四）…北口君惠

英國たより……（五五）…德川頼貞

京城より……（五五）…竹村鹿野

湘南より……（五五）…露　子

海外樂壇……（五六）……

海内樂壇……（六三）……

質疑應答……（八〇）……

編輯室より……（八三）……

樂人消息……（八五）……

讀者通信投稿欄……（八六）……

新刊紹介……（八七）……

ミル氏解剖的聲樂法（八）……（六七―八〇）…松尾孝輔

（第六卷第八号　大正四年八月）

音樂第六卷第九號目次

樂譜『夏の野』……（ヱーバー原作 弘田龍太郎編作 吉丸一昌作歌）
樂壇時評……（一）
兒童と唱歌……（二）…三田谷　啓
尋常小學唱歌に就いて（二）……（五）…保科寅治
特長ある唱歌教授……（一三）…松尾孝輔
唱歌原理器の立脚地……（一七）…赤池　榮
『わしも知らない』の音樂……（二〇）…大田黑元雄
チャイコフスキー（十三）……（二三）…研究科女生
頓智と滑稽のベートーヴン（ママ）……（二四）…牛山　充
ボストンより……（三一）…福島琢郎
獨逸人の目に映ぜしスクリアビン……（三七）…牛山　充
フリッツ　クライスラー……（四二）…猪瀨久三
入日の前（詩）……（四七）…前田春聲
沼（詩）……（四八）…林　信一
燕（詩）……（四八）…望月冷果
因幡のうみ（歌）……（四九）…尾崎みどり
雲雀砂（歌）……（五〇）…竝樹秋人
高湯溫泉行（歌）……（五一）…鈴木賢太郎
金剛杖を突きつゝ……（五二）…碧　楊　生
宵闇の中より……（五六）…ゆふづつ
英國だより……（五七）…德川賴貞
市伽古より……（五八）…小倉　末
ボストン便り……（五九）…福島琢郎
香椎の杜より……（五九）…鈴木千賀
海外樂壇……（六〇）
海内樂壇……（六四）
歌劇物語（九）『シギーリアの床屋』……（一五一―一八二）…牛山　充
ミル氏解剖的聲樂法（九）……（八一―九四）…松尾孝輔
編輯室より……（七二）
樂人動靜……（七三）
文藝界消息……（七五）
新刊紹介……（表紙三）

（第六卷第九号　大正四年九月）

音樂第六卷第十號目次

樂譜（御大典奉祝唱歌……松本德藏 日和下駄……藤井清水 祝南葵文庫開庫歌……德川賴貞）
樂壇時評……（一）
現代教育の趨勢を述べて音樂教育の究竟を論ず（下）……（二）…小川友吉
現代の歌劇と其將來（一）……（一四）…大田黑元雄
尋常小學唱歌に就いて（三）……（一七）…保科寅治
チャイコフスキー（十四）……（二三）…谷村ナツ子等
インキのしづく（二）……（二四）…半　言　子
特長ある唱歌教授を讀みて……（二六）…草　史　郎

尋常小學唱歌科教授細目を讀む……(三〇)…教樂子
外狩仲七氏に答ふ……(三三)…山本正夫
菫さく野(歌)……(三三)…林古溪
流れゆく水の心(歌)……(三三)…平山鐵海
新秋雨霽(歌)……(三四)…永田龍雄
夏ゆく市街(歌)……(三四)…前田夏村
秋風ながる(歌)……(三五)…高梨直郎
南葛飾郡小景(歌)……(三六)…内田月城
青き無花果(歌)……(三六)…辻村直
冷たき瞳(歌)……(三七)…中村紅葵
秋風の曲(詩)……(三八)…林信一
野の眞實(詩)……(三八)…藤草郎
孤獨と沈默(詩)……(三九)…望月冷果
金剛杖を突きつゝ……(四〇)…碧楊生
信越の旅(一)……(四四)…K、F、生
海内樂壇……(四七)……
編輯室より……(四九)……
樂人動靜……(五〇)……
歌劇物語(十)『フィーガロの婚禮』……(一八三)…牛山充
ミル氏解剖的聲樂法(十)……(九五)…松尾孝輔
樂海譚叢(一)……(一)…牛山充
ショパン研究(二)……(三)…田村寛貞

(第六巻第十号　大正四年十月)

音樂第六巻第十一號目次

樂壇時評……(一)……
音程値の計算法に就いて……(二)…田村寛貞
主基地方風俗歌に就いて……(二六)…村尾景經
教育的唱歌……(二九)…外狩仲七
テクニックと藝術家と(シマンズ)……(三八)…S、R、H、生
小學校に於ける唱歌教授に用ゐる音程カード……(四〇)…安達一作
ショパン　アーベントの後に……(四六)…大田黒元雄
遁避せし田村虎藏氏に對する最後の一擊……(四九)…福井直秋
再び山本正夫氏に糺す……(五八)…外狩仲七
御大典奉祝の歌(歌)……(六三)…中村弘毅
最上野の秋(歌)……(六三)…最上河人
みちのくの秋(歌)……(六四)…鈴木賢太郎
秋日光景(歌)……(六五)…竝樹秋人
秋日抄(歌)……(六五)…森田白楊
雲母雲(歌)……(六六)…野垣内白草
秋思(歌)……(六七)…平山鐵海
しぐれ念佛(歌)……(六七)…永田龍雄
こすもすのかげ(歌)……(六八)…美輪子
街頭秋風(歌)……(六八)…前田夏村
暴風雨來る前(詩)……(六九)…望月冷果
信越の旅……(七〇)…K、F、生
大谷河畔を遡りて……(七四)…T、A、子
海外樂壇……(七五)……

海内樂壇……（七九）……
樂人動靜……（九〇）……
樂海譚叢（二）……（九―二六）…牛山　充
音樂通論（七）……（四九―五四）…乙骨三郎
ミル氏解剖的聲樂法（十一）……（一〇七―一二〇）…松尾孝輔
ショパン研究（三）……（九―一八）…田村寛貞
編輯室より……

（第六巻第十一号　大正四年十一月）

音樂第六巻第十二號目次

樂壇時評……（一）……
中學校唱歌科の將來……（二）…草川宣雄
タッチ其他……（九）…大田黒元雄
唱歌教授法に就いて……（一〇）…外狩仲七
唱歌の衞生及び生理的要件……（一三）…山本　壽
尋常小學唱歌に就いて（四）……（三五）…保科寅治
チャイコフスキー（十五）……（四四）…井川富子
歐洲戰亂の米國樂器業に及ぼせる影響……（四六）…福島琢郎
ピアーノの夕べ……（四九）…野村　生
夜の落葉（詩）……（五一）…前田春聲
亡き母（詩）……（五三）…霜田史光
空虛なる御堂（詩）……（五三）…濱　夕
めでたき日に（詩）……（五四）…藤草郎
信條（詩）……（五五）…大谷德太郎
收穫（詩）……（五六）…望月葭緒
冬に入る頃（歌）……（五六）…最上河人
晩秋小詠（歌）……（五七）…鈴木賢太郎
磯草の花（歌）……（五八）…林　信一
手のほそり（歌）……（五八）…平山鐵海
青き影（歌）……（五九）…美輪子
金剛杖を突きつゝ……（六〇）…碧楊生
フレスノより……（六四）…辻　すなを
海内樂壇……（六八）……
樂海譚叢（三）……（七七）…牛山　充
演奏……（七九）……
學友會記事……（八四）……
樂人動靜……（八七）……
消息……（八七）……
編輯室より……（八八）……

（第六巻第十二号　大正四年十二月）

音樂第七巻第一號目次

口繪（同）（獻上品　御大禮奉祝歌（一）上（二））
大正四年回顧……（一）……
中學校に於ける英語教授と英語唱歌……（二）…長橋熊次郎
唱歌科全廢の聲を聞いて唱歌教師の蹶起を喚ぶ……（六）…安達一作

尋常小學唱歌に就て(五)……(一五)…保科寅治
大森より……(二一)…大田黒元雄
洋琴問答（ヨーセフホフマン）……(二四)…牛山　充譯
チャイコフスキー(十六)……(二三)…研究科女生
燃へてゐる人……(二七)…永　圓　生
堰(歌)……(二六)…前田春聲
秋のをはり(歌)……(二七)…霜田史光
多磨の河原(歌)……(二八)…林　古　溪
金剛杖を突きつゝ(詩)……(四一)…碧　楊　生
迎第一回新年……(四七)…伊藤稜雪
海外樂壇……(五一)……
演奏……(五六)……
質疑欄……(五九)……
編輯室より……(六〇)……
樂人動靜……(六一)……
音樂通論(八)……(五五―六五)…乙骨三郎
ミルツ氏解剖的聲樂法(十二)……(一三一―一三四)…松尾孝輔

（第七巻第一号　大正五年一月）

音樂第七卷第二號目次

樂譜始業式の歌……〔吉丸一昌歌 成田爲三曲〕
故郷を顧みて（作曲題）……吉丸一昌歌
樂壇時評……(一)……
從來の音樂會を難ず……(二)…喜多方六
唱歌といふ名稱について……(一四)…吉丸一昌
近代文藝を背景とする音樂……(一六)…大田黒元雄
中學校の唱歌に就て……(二〇)…長橋熊次郎
余が最近の中心教授の所感……(二五)…安達一作
尋常小學唱歌に就て(六)……(三一)…保科寅治
チャイコフスキー(十七)……(四一)…柴崎ヤス子等
民曲蒐集に就て地方音樂教育者に謀る……(四四)…古澤春雄
洋琴問答(二)……(四八)……
春のおとづれ(歌)……(五〇)…永田龍雄
雪ふる夜(歌)……(五〇)…森田白揚
安眠の前後(歌)……(五〇)…前田夏村
冬の旅(歌)……(五一)…野垣内白草
灰色の館(歌)……(五一)…平山鐵海
伊勢より……(五五)…野垣内白草
海外樂壇……(五六)……
海内樂壇……(五八)……
編輯會餘談錄……(六二)……
樂人動靜……(六四)……
編輯室より……(六五)……
ミル氏解剖的聲樂法(十三)……(一三五―一三八)…松尾孝輔

（第七巻第二号　大正五年二月）

音樂第七卷第三號目次

母よさらば……（吉丸一昌歌 成田爲三曲）
靜岡英和女學校々歌……（吉丸一昌歌 島崎赤太郎曲）
口繪　ヨーゼフ　ヨアヒム
樂壇時評……（一）…同　人
音樂の理論的教育を翹望す……（二）…小川友吉
『兩面』と『〈惹〉賣』の淨瑠璃……（一〇）…町田博三
わかり切つた事……（二三）…大田黑元雄
山田アーベントの曲目の後に……（二四）…三木露風
唱歌教授の個別的取扱ひ及び成蹟考査……（二六）…山本　壽
中學校の唱歌に就て……（三〇）…長橋熊次郎
再び音樂教育家の反省を促す……（三七）…安達一作
尋常小學唱歌に就て（七）……（四七）…保科寅治
チャイコフスキー（十八）……（五七）…研究科女生
莫斯科樂信……（五九）……
洋琴問答（三）（ホフマン）……（六五）……
岸邊（詩）……（六八）…横山辨人
冬日哀傷篇（斷章）……（六九）…富本一枝
小唄……（七〇）…永田龍雄
第二冬日行（歌）……（七一）…野垣內白草
華盛頓近信……（七一）…三浦政太郎
紐育より……（八〇）…福島琢郎
海內樂壇……（八一）……
樂人消息……（八四）…同　人
編輯會餘談錄……（八五）……
編輯室より……（八八）…牛山　充
ミル氏解剖的聲樂法（十四）……（一三九―一三八）…松尾孝輔

（第七卷第三号　大正五年三月）

音樂第七卷第四號目次

樂譜御大典奉祝行進曲……中田　章作曲
口繪　故東京音樂學校教授文學士吉丸一昌氏肖像
樂壇時評……（一）…同　人
日本音樂に於ける模倣音と音畫法の種類……（二）…町田博三
鄕土唱歌の研究（一）……（三三）…喜多方六
小學校の唱歌教室……（三五）…安達一作
雪（遺稿）……（四一）…吉丸一昌
マスコットを觀て……（四七）…大田黑元雄
匈牙利のマグヤール民族と音樂……（四八）…葛原　滋
維納樂信……（五一）……
尋常小學唱歌に就て（八）……（五七）…保科寅治
チャイコフスキー（十九）……（六八）…田中久子
洋琴問答（四）……（七〇）……
市俄古より……（七三）…小倉　末
黃昏（詩）……（七六）…横山辨人
玉淵集（詩）……（七六）…永田武之
我が愛するスクリヤビンへ（詩）……（七七）…齋藤佳三

冬の風(歌)……(七八)…前田夏村
水馬と虹(歌)……(七九)…森田白楊
シアトルより……(八〇)…T　生
故吉丸先生の御葬儀……(八二)…安藤たか
吉丸一昌先生逝く……(八三)…牛山　充
海内樂壇……(八七)……
海外樂壇……(九六)……
編輯室より……(九八)……
樂人動靜……(一〇〇)……
樂海譚叢(四)……(三五―三八)…牛山　充
ミル氏解剖的聲樂法(十五)……(一三九―一四八)…松尾孝輔

(第七巻第四号　大正五年四月)

音樂第七巻第五號目次

樂譜『習作』……守田貞記作曲
廣島縣民曲……藤井清水採譜
大正五年度東京音樂學校職員及び卒業生
學友會記事……(一)……
所作事に用ゐられた掛合音樂に就て……(二)…町田博三
音樂の神秘主義の内より……(三三)…橋本清之助
郷土唱歌の研究(二)……(三一)…喜多方六
シベリウスの歌……(三六)…大田黒元雄
雲雀(遺稿)……(三七)…吉丸一昌
廣島縣民曲……(四二)…藤井清水
英伊對照術語表……(四九)…猪瀬久三
チャイコフスキー(二十)……(五八)…研究科女生
尋常小學唱歌に就て(九)……(六〇)…保科寅治
ショパンのト長調ノクターンに就て……(六九)…田　村　生
洋琴問答(五)……(七一)……
月下の賦(詩)……(七五)…長瀬先司
夜雨其他の詩……(七五)…霜田史光
夕映(詩)……(七六)…横山辨人
沈む太陽(詩)……(七七)…齋藤正雄
母へ(詩)……(七八)…鹽田春灯
吉丸氏を悼む歌十首……(七九)…小松玉嚴
花ちれば(歌)……(八〇)…林　古溪
春の人(歌)……(八〇)…前田夏村
筑波神山(歌)……(八一)…最上河人
水底の魚(歌)……(八一)…永田鐵海
晝深し(歌)……(八二)…武藤白咲
海内樂壇……(八三)……
編輯室より……(八六)……
樂人動靜……(八七)……
樂界消息……(八八)……

(第七巻第五号　大正五年五月)

音樂第七巻第六號目次

口繪　グルック

樂壇時評……（一）…同　人
時局に鑑みて國家的觀念を基礎としたる唱歌
教授の緊要なる事を主張す……（二）…岡本新一
リヅム其他……（七）…大田黑元雄
ブラームス……（九）…弘田龍太郎
音樂名家表……（一〇）…猪瀨久三
雨（遺稿）……（二八）…吉丸一昌
露西亞音樂史……（三六）…Pougin
洋琴問答（六）……（四五）……
蘆の中（詩）……（四九）…霜田史光
雪の夜（詩）……（五〇）…村中祐舜
夕（詩）……（五一）…横山辨人
故郷小曲（詩）……（五二）…鹽田春汀
春の野（歌）……（五三）…前田夏村
木瓜と家鴨（歌）……（五三）…森田白楊
春怨（歌）……（五四）…中村紅葵
自警歌……（五四）…みちしば
紐育より……（五五）…黑田　誠
海内樂壇……（五六）……
東京音樂學校入學試驗問題……（五九）……
海外樂壇……（六一）……
樂人動靜……（六五）……
編輯室より……（六六）……
樂界消息……（六七）……
出版界消息……（六八）……
東京音樂學校音樂演奏曲目梗概……（七〇）……

（第七巻第六号　大正五年六月）

音樂第七卷第七號目次

歌劇「オルフォイス」演奏員及び役員（寫眞版）（一）……
ダン博士兒童發聲法……（二）…草川宣雄
時局に鑑みて國家的觀念を基礎としたる唱歌
…（一五）…岡本新一
教授の緊要なる事を主張す
唱歌に於ける姿勢及態度……（二〇）…安達一作
ムーソルグスキーの歌……（二七）…大田黑文雄（ママ）
巡業先きより……（二八）…永田なか子
樂聖ベートーヴェンの一日（一）……（三五）…近衛秀麿
ブラームス（二）……（三八）…弘田龍太郎
チヤイコフスキー（二十一）……（四三）…鈴木采子
夏（遺稿）……（四五）…吉丸一昌
露西亞音樂略史（二）……（五三）…Pougin
音樂に於ける粹……（六五）…加藤成三
音樂界年表……（六九）…近衛秀麿
朴の花（歌）……（七三）…林　古溪
ゆふづつ（詩）……（七三）…こ　け　い
夢見る月（詩）……（七三）…齋藤正雄
ショパンの『雨の曲』を聞きて（詩）……（七五）…霜田史光
地平の上（詩）……（七五）…横山辨人

森にて(詩)……(七六)…山口麻太郎
雨後の丘(詩)……(七七)…林　信一
麻の畠(歌)……(七八)…森田白楊
腸斷(歌)……(七八)…通　樂之
『オルフォイス』の午後……(七九)…花　法師
煤煙の巷より新綠の山へ……(八二)……
海内樂壇……(八八)……
編輯室より……(九一)……
消息……(九二)……
第十七回土曜演奏會曲目……(九三)……

(第七巻第七号　大正五年七月)

音樂第七巻第八號要目

『神と音樂』より……(エドワーヅ)……(一)…牛山　充譯
呼吸法教授要論……(二)…安達一作
倫敦より(一)……(三)…黒田　誠
ヨハンネス　ブラームス(二)……(三七)…弘田龍太郎
此の頃の英京……(三三)…大田黒元雄
太陽(遺稿)……(三四)…吉丸一昌
夢二問答……(四一)…小林生　兼常生
露西亞音樂略史(三)……(五三)…Pougin
時鳥他小曲(詩)……(七三)…鹽田春汀
曙の星(詩)……(七四)…齋藤正雄
あららぎ集(詩)……(七五)…村中祐舜
春の進行曲(詩)……(七六)…小泉　澄
麓城下より……(七七)…外狩仲七
海内樂壇、海外樂壇……(七九)……

(第七巻第八号　大正五年八月)

音樂第七巻第九號要目

行進曲……守田貞記
口繪（戰線に於けるフリッツ　クライスラー夫妻、エフラム　ツイムバリスト夫妻（アルマ　グラック）愛兒マリー　ヴーヂニア　ツイムバリスト）
音樂とは何ぞや（エドワーヅ『神と音樂』より）……(一)…牛山　充譯
呼吸法教授要論(二)……(一七)…安達一作
ヨハンネス　ブラームス(四)……(二七)…弘田龍太郎
洋琴問答(七)……(三三)…保生　滿
マックス　レーガー（モーティマー　ウヰルソン）……(三九)…夏　雲居
露西亞音樂略史(四)（ブーヂャン）……(四五)…牛山　充譯
月と砂(詩)……(八六)…霜田史光
月ふる中に(詩)……(八七)…横山辨人
月ぞけぶれる(小曲)……(八八)…永田龍雄
野百合は赤し(歌)……(八九)…竝樹秋人
歌劇『消えて失せにしキテシュの町と乙女テ

ウロニア』……(九〇)…E、I、
シャトルより……(九五)…M　生
上海より……(九六)…梶原國生
消息……(九七)……

(第七巻第九号　大正五年九月)

音樂第七卷第十號要目

口繪、マックス　レーガー……
戰爭と音樂(一)……(一)…長橋熊次郎
唱歌科目的論(上)……(一一)…安達一作
ヨハンネス　ブラームス(五)……(一三)…弘田龍太郎
樂聖ベートーヱンの一日(二)……(二八)…近衛秀麿
音樂に對する生徒の所感……(三四)…稜　夏生
クロード　デビュシー……(三八)…狩野眞一
消息……(四七)……
樂界年表(二)……(四八)…近衛秀麿
排日の詩……(五一)……
夜會草(歌)……(五三)…林　古溪
多摩の秋なみ(小曲)……(五三)…永田龍雄
寧樂雜詩……(五四)…竹内勝太郎
あくがれの空(詩)……(五五)…齋藤正雄
月夜の樋(詩)……(五七)…霜田史光
炷香集(詩)……(五八)…喜志麥雨
曉け近く……(五九)…花　法　師
海外樂壇……(六一)……
編輯室より……(六五)……

(第七巻第十号　大正五年十月)

音樂第七卷第十一號要目

樂譜　消えてあとなき……永田龍雄歌
音樂の本質について……(一)…鈴木賢之進　藤井清水曲
近代人としてのバッハ(フィリップ　クラップ)……(一七)…二見孝平
歐洲戰爭と音樂(二)……(二四)…長橋熊次郎
唱歌科目的論(中)……(三五)…安達一作
現代洋琴曲……(四三)…大田黑元雄
ヨハンネス　ブラームス(六)……(四五)…弘田龍太郎
樂聖ベートーヱンの一日(四)……(四九)…近衛秀麿
獨逸音樂と佛蘭西音樂……(五三)…狩野眞一
洋琴問答(八)……(六二)…保生　滿
音樂界年表(三)……(七〇)…近衛秀麿
古都雜詩(詩)……(七三)…竹内勝太郎
赤城にて(詩)……(七四)…北村初雄
森の夕(詩)……(七五)…永田武三
秋の窓……(七六)…露　子
しぐれの雨(小曲)……(七八)…永田龍雄
霜ふる國に(歌)……(七九)…竝樹秋人
誘惑の木の實(歌)……(八〇)…中村弘毅

海内樂壇……(八一)
編輯室より……(八三)
久野女史恢復祝賀音樂會曲目梗概……(八五)…乙骨三郎
新刊紹介……(八七)

(第七巻第十一号　大正五年十一月)

音樂第七卷第十二號要目

樂譜　望郷の歌……吉丸一昌歌　成田爲三曲
大正五年十一月三日記事……(二)…林　古溪
スクリアビンのピアノ曲研究……(二)…野村　光
再び音樂の本質について……(三五)…鈴木賢之進
近代人としてのヨハン　セバスティアン
バッハ(二)……(四三)…二見孝平
唱歌科目的論(下)……(四九)…安達一作
ヨハンネス　ブラームス(七)……(五三)…弘田龍太郎
露西亞音樂略史(五)……(五九)…牛山　充
樂聖ベートーヱンの一日(四)……(九五)…近衛秀麿
洋琴問答(九)……(九七)…保生　滿
樂界年表(四)……(一〇七)…近衛秀麿
秋と冬との歌(詩)……(一一〇)…竹内勝太郎
塔の澤(歌)……(一一一)…永田龍雄
山かげ(歌)……(一一三)…横川涼二
山上湖上(歌)……(一一三)…森岡長次郎
藤鹿子の襟(歌)……(一一四)…小草露子
失題(詩)……(一一五)…二見孝平
音樂(詩)……(一一五)…齋木仙醉
海内樂壇……(一一六)
學校記事……(一一三)
編輯室より……(一一三)
樂人動靜……(一一五)

(第七巻第十二号　大正五年十二月)

音樂第八卷第一號目次

嵯峨天皇　御震筆　表紙題字『音樂』
表紙繪、『前奏曲(プレルディウム)』……ユリウス　クロンベルヒ筆
皇后陛下玉座(東京音樂學校奏樂堂に於ける)
口繪、千八百六十年頃のヨハンネス　ブラームス
樂譜『迎春』……山田耕作
天后觀樂章……(一)…古溪林竹次郎
倫理學より見たる音樂上の諸問題……(二)…岡本新市
ブラームスとクララ　シューマン(フェルディナンド　シューマン)……(一五)…二見孝平
樂聖ベートーヱンの一日(五)(メイ　バイロン)……(一九)…近衛秀麿
近代人としてのヨハン　セバスティアン
バッハ(三)……(二二)…二見孝平
ヨハンネス　ブラームス(八)……(二五)…弘田龍太郎
洋琴問答(十)(ヨーゼフ　ホフマン)……(二九)…牛山　充

我愛する反對者へ……(三五)…鈴木賢之進
『スクリアビンとデビュッスィーの夕』を聽く……(五六)…山田耕作
唱歌科成蹟不良の原因(上)……(六四)…安達一作
佐藤謙三君を聽く……(七〇)…山田耕作
元旦兒に告ぐる歌……(七四)…林　古溪
樂界年表(五)……(七五)…近衞秀麿
樂譜『お正月』……(七八)〔林　古溪歌　梁田　貞曲〕
土へ(詩)……(七九)…山口麻太郎
梢の風(詩)……(八〇)…霜田史光
塔(詩)……(八一)…喜志麥雨
御輦を迎え奉りて……(八三)…牛山　充
梁田、弘田兩樂星に(詩)……(九二)…林　古溪
勅題　遠山の雪(小曲)……(九二)…永田龍雄
久野久子女史に捧ぐる歌(歌)……(九三)…竝樹秋人
海光愛慕(歌)……(九三)…横川涼二
涙のいろ……(九五)…小草露子
海内樂壇……(九六)……
學友會記事……(一〇〇)……
編輯室より……(一〇一)……
第七卷總目錄……(一—五)……

(第八卷第一号　大正六年一月)

音樂第八卷第二號目次

メヌエット……成田爲三作曲
口繪アンナ　パヴロワの扮せるアウバーの歌劇
『ポルティーチの啞娘』の舞臺面六葉
樂譜問題に就て……(二)…小川友吉
近代人としてのヨハン、セバスティアン
バッハ(四)……(一三)…二見孝平譯
太陽の頌歌……(一九)…鈴木賢之進
ヨハンネス　ブラームス(九)……(二三)…弘田龍太郎
英國音樂界便り……(二九)…K　N　生
洋琴問答(十一)……(三八)…ホフマン
華盛頓より……(四五)…H　T　生
新春所感……(四八)…大田黑元雄
歌の旅……(五〇)…林　古溪
海外樂壇……(五六)……
海内樂壇……(六〇)……
編輯室より……(六一)……
音樂に於ける音程の起源……(六七—七二)…乙骨三郎
Menuetto の後に……成田爲三

(第八卷第二号　大正六年二月)

音樂第八卷第三號目次

樂譜若草……三浦圭三歌　草川　信曲

大戰後の音樂(上)……(一)…牛山　充
近代人としてのヨハン　セバスティアン
バッハ(五)……(五)…二見孝平
太陽の頌歌……(一〇)…鈴木賢之進
ブラームスとクララ　シューマン……(二六)…二見孝平
ヨハンネス　ブラームス(十)……(三四)…弘田龍太郎
洋琴問答(十二)……(四一)…ホフマン
米京樂信……(五六)…田中生
音樂界年表(六)……(六四)…近衛秀麿
雪の幻像(詩)……(六七)…竹内勝太郎
冬と春との間(詩)……(六八)…沖田周干
雪解の水(詩)……(六八)…津田　利
丙辰歳抄念六夜(漢詩)……(六九)…林　古溪
市伽古より……(七〇)…森山生
わたりどり(詩)……(七一)…林　古溪
小唄ななつ……(七一)…永田龍雄
僧房低唱(歌)……(七二)…横川　凉
海外樂壇……(七三)……
海内樂壇……(七九)……
和聲の起源……(八三)…乙骨三郎
編輯室より……(八五)……

(第八巻第三号　大正六年三月)

音樂第八巻第四號目次

示範の原理と其二面に就て……(一)…岡本新市
ヂュゼッペ　ゼールディ(一)……(八)…二見孝平
異端者の昇天……(二七)…鈴木賢之進
ヨハンネス　ブラームス(十一)……(三四)…弘田龍太郎
ベートーヴェンの一日(六)……(四〇)…近衛秀麿
洋琴問答(十三)……(四三)…ホフマン
宵外一篇(詩)……(五九)…林　古溪
フリジア(歌)……(五九)…林　古溪
武州金澤文庫址にて(歌)……(五九)…永田龍雄
ふるさとの海(歌)……(六〇)…市川　彩
海内樂壇……(六一)……
海外樂壇……(七一)……
編輯室より……(七五)……

(第八巻第四号　大正六年四月)

音樂第八巻第五號目次

口繪(サー　エドワード　エルガー博士
大正六年度東京音樂學校職員及卒業生)
請ふ先づ隗をして始めしめよ(一)……(一)…岡本新市
デービッド　ビスファムの唱歌法……(九)…草川宣雄
ヂュゼッペ　ゼールディ(中)……(一四)…二見孝平
異端者の昇天……(三三)…鈴木賢之進
日記の中から……(三七)…小川友吉

英吉利の一大音樂家（メースン）……（四〇）…牛山　充
ヨハンネス　ブラームス（十二）……（五一）…弘田龍太郎
海の音（歌）……（六六）…林　古溪
洋琴問答（十四）……（六九）…ホフマン
渚の上（詩）……（八二）…竹内勝太郎
苦惱（詩）……（八三）…横山辨人
なみだのふりぢあ（詩）……（八三）…永田龍雄
偲ばする子よ（歌）……（八四）…林　古溪
海内樂壇……（八五）……
海外樂壇……（九一）……
編輯室より……（九四）……

（第八巻第五号　大正六年五月）

音樂第八巻第六號目次

口繪　南葵樂堂設計圖二葉
異端者の昇天……（一）…鈴木賢之進
ヂュゼッペ　ヱルディ（下ノ一）……（三三）…二見孝平
洋琴問答（十五）……（四〇）…ホフマン
漾ふは何の光ぞ（詩）……（五三）…二宮典美
村の乙女（詩）……（五四）…臣永直道
布留左止（歌）……（五四）…林　古溪
ふりかへりふりかへり歌ふ歌……（五六）…哀　花
葦笛（歌）……（五七）…林　古溪
海内樂壇……（六〇）……
海外樂壇……（六九）……
編輯室より……（七三）……
東京音樂學校春季演奏會曲目梗概……（七五）…乙骨三郎

（第八巻第六号　大正六年六月）

音樂第八巻第七號目次

樂譜『アンダンテ』……近衛秀麿
ソナータ形式を述べて『ムーンライトソナータ』の内容研究に及ぶ（一）……（一）…中田　章
倫敦に於ける唱歌教授意見（一）……（七）…草川宣雄
請ふ先づ隗より始めしめよ（二）……（一三）…岡本新市
ヂュゼッペ　ヱルディ（下）……（一八）…二見孝平
大戰後の音樂（下）……（二九）…牛山　充
洋琴問答（十六）……（四五）…保生　滿
日毎來て（歌）……（五六）…林　古溪
二荒山春雪（歌）……（五七）…永田龍雄
どくだみの花（歌）……（五八）…栗原まだき
海内樂壇……（五九）……
樂人動靜……（六三）……
編輯室より……（六六）……

（第八巻第七号　大正六年七月）

音樂第八卷第八號目次

口繪（ヨーゼフ　ホフマン／ベートーヱンの第六スイムフォニーの印象）
聲明の音律に就て……（一）…田邊尙雄
ソナータ形式を述べてムーンライト　ソナータの內容研究に及ぶ（二）……（九）…中田　章
倫敦に於ける唱歌教授意見（二）……（二三）…草川宣雄
聲樂家に與ふ……（二五）…二見孝平
日記の中から……（二八）…小川友吉
洋琴問答の序……（三三）…ホフマン
名歌曲譯詩三章（詩）……（四三）…二見孝平
月見草（歌）……（四五）…林　古溪
憂ひ行く子（歌）……（四六）…林　古溪
彼方の砂濱に立たせ給ふアルベール王陛下……（四七）…メーテルリンク
シンシナティ交響管絃樂の回顧……（五一）……
海內樂壇……（五四）……
樂人動靜……（五八）……
海外樂壇……（六〇）……
新刊紹介……（六九）……

（第八卷第八号　大正六年八月）

音樂第八卷第九號目次

樂譜（草の實の飛ぶ日は悲し……川路柳虹歌／野薔薇……藤井清水曲）
口繪（逝ける女流洋琴大家テレーザ　カレーニヨ夫人／軍樂手たるパーシー　グレンヂャー／パーシー　グレンヂャーの印象）
マーテルリンクに據れる音樂……（一）…中根　弘
『藝術教育』の研究……（八）…岡本新市
音程判別法の話……（一四）…如　蝸　子
日記の中から……（二八）…小川友吉
洋琴演奏法（一）……（三三）…ホフマン
銃架のほとりにて……（四四）…K・F・生
パーシー・グレンヂャーの印象……（六四）…牛　山　生
登獄紀游（歌）……（六四）…林　古溪
加茂川月夜（歌）……（七六）…永田龍雄
たかやまなみ……（七七）…横川毅一郎
海內樂壇……（七九）……
海外樂壇……（八四）……
藝術とは何か（音樂通論の一節）（上）……（六六―七五）…乙骨三郎
編輯室より……（八七）……
樂人動靜……（八九）……

（第八卷第九号　大正六年九月）

音樂第八卷第十號目次

口繪　ヨーゼフ　ホフマン(二)
樂譜
未來の春……（ホルレンダー曲　大須賀　績歌）
海と言葉……（バッハ曲　大須賀　績歌）
風の音……（バッハ曲　大須賀　績歌）
本邦樂律名と支那樂律名との關係に就て　……(一)…田邊尙雄
唱歌科教授に於ける教材選擇上の二つの問題　…(五)…岡本新市
音樂に關する文學上の誤謬(エルスン)……(一四)…二見孝平譯
音樂と海(ローレンス　ギルマン)……(二三)…中根　弘譯
ピアノの調律、調音、及調整　……(三五)…福島琢郎
洋琴演奏法(二)　……(三九)…ヨーゼフ　ホフマン
たのしみここにやすけし(詩)　……(五〇)…二宮典美
小曲數章……(五一)…吉屋信子
こゝろ(詩)……(五二)…永田龍雄
習作(詩)……(五三)…歌村富士見
海內樂壇……(五四)……
樂人動靜……(五五)……
十月の演奏會……(五六)……
編輯室より……(五六)……
新刊紹介……(五七)……

(第八卷第十号　大正六年十月)

音樂第八卷第十一號目次

口繪（茨木新任東京音樂學校長　ヨーゼフ　ホフマン／露西亞チェルロ名手ボグミル　スィコーラ）
音樂と早教育に就て　……(一)…相澤　晃
文學に現はれたる音樂上の誤謬(下)……(一一)…二見孝平(アーサー　エルスン)譯
チァールス　マーティン　レーフラー　……(二〇)…中根　弘(ローレンス　ギルマン)譯
『和音を構成する各音の色々な排置』に與へたる名(一)……(二六)…如蝸子
洋琴演奏法(四)　……(三九)…ホフマン
ボグミル　スィコーラ氏の來朝　……(四四)…牛山　充
こはるびに（小曲）　……(四七)…永田龍雄
詩……(四八)…吉屋信子
高原の歌……(四九)…歌村ふじみ
海內樂壇……(五一)……
樂界消息……(五四)……
學友會記事……(五六)……
樂人動靜……(五六)……
出版界消息……(五八)……
富尾木教授の靈柩を送る　……(五九)……
編輯室より……(六〇)……
新刊紹介……(六一)……

(第八卷第十一号　大正六年十一月)

音樂第八卷第十二號目次

樂譜『信』作品百二十一……（ウヰルヘルム　ハイザー曲　藤村作歌）

口繪（故勅撰貴族院議員從四位勳二等伊澤修二先生／故前東京音樂學校教授從五位勳五等復軒鳥居忱先生／故東京音樂學校教授從四位勳五等富尾木知佳先生／ヨーゼフ　ホフマン先生（二葉））

音樂的なる樹木（アール・デイクスン　エフ・フイッチ　共著）……（一）…高橋正熊

ショパンの思ひ出……（五）…二見孝平

唱歌科と他教科との聯絡に就て……（九）…岡本新市

女性と近代音樂（ローレンス　ギルマン）……（一四）…中根　弘

『和音を構成する各音の色々な排置（ママ）』に附する名稱（二）……（一九）…如　蝸　子

洋琴演奏法（四）（ホフマン）……（三三）…牛山　充

柊（歌）……（三八）…林　古溪

廣野の雨（詩）……（三九）…二宮典美

眠の船（詩）……（四〇）…霜田史光

習作（詩）……（四二）…村暮　鵠

小鳥らむれて（詩）……（四三）…のむらせうじ

故伊澤修二先生を憶ふ……（四三）…牛山　充

故鳥居忱先生を憶ふ……（四七）…田澤　一

故復軒鳥居忱先生のことども……（四八）…牛山　充

海内樂壇……（五二）……

樂人動靜……（五七）……

東京音樂學校秋季演奏會曲目梗概……（五八）…乙骨三郎

（第八卷第十二号　大正六年十二月）

音樂第九卷第一號目次

嵯峨天皇御震筆表紙題字『音樂』

表紙畫『九柱の美神』……アルツール　フィットガー筆

口繪　洋琴に對せるリスト……ヨーゼフ　ダーンハウザー筆

韻文教授の音樂的取扱に就て……（一）…小川友吉

シューバートの短歌……（一〇）…乙骨三郎

音樂に於けるボードレエル主義の精神……（一八）…中根　弘

音樂藝術に現はれたる民謠……（二五）…森村　豐

積極的好樂家養成に就て（上）……（三三）…相澤　晃

和音を構成する各音の色々の排置（ママ）に附ける詞（三）……（三九）…如　蝸　子

和音の系列に就て（プラウト）……（四七）…辻　莊一

洋琴演奏法（五）（ホフマン）……（五三）…牛山　充

音樂雜信……（五九）…兼常清佐

尼寺を訪れて（詩）……（六六）…村暮　鵠

隨感隨想……（六七）…岡本新市

碧海洪濤曲、贈瀨戸口海軍々樂長（ママ）……（七二）…林　古溪

京橋大根海岸（歌）……（七三）…永田龍雄

言靈（詩）……（七三）…二宮典美

夜の惱み（詩）……（七四）…前田正嗣

溪流（詩）……（七五）…草間　省

黄昏(詩)……(七七)…上里春生
糸の如く震へる月(詩)……(七八)…久松　勝
海内樂壇……(八〇)……
樂人動靜……(八二)……
編輯室より……(八三)……
新刊紹介……

(第九巻第一号　大正七年一月)

音樂第九巻第二號目次

樂譜　變奏曲……信時　潔
音樂に於ける現實主義……(一)…中根　弘
歌曲作家としてのリスト(上)……(七)…二見孝平
郷土唱歌論……(二二)…岡本新市
ミルス氏換聲區域論(一)……(三一)…草川宣雄
ある三和音が表示する調に就て(一)……(三五)…如蝸子
お伽歌劇「善の女神」を見て……(五二)…相澤晃
人柱(戯曲)……(五六)…松川喬
ペツォールド夫人の横顔(歌)……(六四)…永田龍雄
幻の唱歌者(詩)……(六四)…横川辨人
祈り(詩)……(六六)…上里春生
金雀花の池(詩)……(六七)…岡本痩羊
血膿を流す夕日(詩)……(六八)…久松　勝
雪の夕暮(詩)……(六九)…黄秋曙
霧の中より外三篇(詩)……(六九)…西田眞三郎
習作(詩)……(七一)…歌村ふじみ
海内樂壇……(七三)……
樂人動靜……(七四)……
編輯室より……(七五)……
新刊紹介……(七五)……

(第九巻第二号　大正七年二月)

音樂第九巻第三號目次

信時氏作『越天樂變奏曲』正誤表……(一)…福島琢郎
ピアノの調整證音及調律……(九)…二見孝平
歌曲作家としてのリスト(下)……(二二)…相澤晃
藝術の爲めの藝術か人生の爲めの藝術か……(二六)…草川宣雄
ミルス氏換聲區域論(二)……(三一)…村橋靖彦
調子と溫度(ディーガン)……(三七)…岡本新市
國民音樂の眞締……(四〇)…林古溪
冬草(歌)……(四〇)…永田龍雄
にほひのあめ(小曲)……(四一)…村暮鶴
死の歌(詩)……(四三)……
海内樂壇……(四九)……
學友會記事……(五〇)……
樂人動靜……(三九)……
編輯室より……(五一)……
新刊紹介……

(第九巻第三号　大正七年三月)

音樂第九卷第四號目次

口繪（アントン　ルービンシタイン／ホフマンに授業中のルービンシタイン）
雅樂の沙陀調と印度樂律との關係……（一）…田邊尚雄
明日の音樂（ローレンス　ギルマン）……（五）…中根　弘
露國に於ける教會音樂に於て（一）……（一三）…相澤　晃
ピアノの調律、調音、及調整……（一八）…福島琢郎
或る三和音が表示する調に就て（二）……（二三）…如　蝸　子
音樂を語る人……（四一）…兼常清佐
洋琴演奏法（六）（ホフムン）……（四九）…牛山　充
蘭の花漬（歌）……（六〇）…林　古溪
花りんご（詩）……（六一）…永田龍雄
みたまのまへに（詩）……（六二）…のむらせうじ
東洋のショパンたる山田氏（ハリントン）……（六三）…牛　山　生
海内樂壇……（六五）……
樂人動靜……（七二）……
編輯室より……（七五）……
新刊紹介……

（第九卷第四号　大正七年四月）

音樂第九卷第五號目次

草川氏の『ミルス氏換聲區域論』を讀みて……（一）…鷲尾　猛
露國に於ける教會音樂に就て（二）……（七）…相澤　晃
頭音の練習に就て（リリー　レーマン）……（一一）…岡本新市
音樂を文字で說く人（乙骨三郎氏へ）……（一九）…小松玉巖
ある三和音が表示する調に就て……（二三）…如　蝸　子
泰西名曲五百番詳解（一）……（三九）…小泉　洽
花ざくら（歌）……（四四）…永田龍雄
習作（詩）……（四五）…歌村富士見
海内樂壇……（四七）……
學友會記事……（四九）……
樂人動靜……（五一）……
編輯室より……（五三）……

（第九卷第五号　大正七年五月）

音樂第九卷第六號目次

口繪（世界的チェルロ名手ボグミル　シコラ氏／筑波山頂に於ける學友會男子部旅行隊）
ミルス氏換聲區域論（三）……（一）…草川宣雄
音樂家乎音樂職工乎……（九）…鷲尾　猛
露國に於ける教會音樂に就て（三）……（一四）…相澤　晃
自働作曲機を使用する作家の出現に就て……（二〇）…岡本新市
ある三和音が表示する調に就て（四）……（二五）…如　蝸　子
ボグミル　シコラ氏の紐育演奏……（三五）…M、U、生
泰西名曲五百番詳解（二）……（三六）…小泉　洽
暮春（歌）……（四一）…永田龍雄
習作（詩）……（四三）…歌村富士見

英京樂信……(四三)…黑田　誠
筑波から大洗へ(記行)……(四五)…K　生
樂界消息……(四八)……
海内樂壇……(四九)……
學校記事……(五二)……
編輯室より……(五三)……
樂人動靜……(五四)……
東京音樂學校春季演奏會曲目梗概……(五五)…乙骨三郎

(第九巻第六号　大正七年六月)

音樂第九卷第七號目次

口繪
ユリウス　クレンゲルッ教授がボグミル　シコーラ氏に與へたる證明狀
露國サラトフ音樂學校長洋琴名家アレキサンダー　スクラレフスキー教授
露西亞民謠名歌手マリヤ　カリンスカヤ夫人
露國洋琴家レオ　ポドルスキー氏
ミルス氏換聲區域論……(一)…草川宣雄
英國學校音樂の教授論……(六)…岡本新市
短音階唱歌の教育的價値……(一三)…岡本新市
泰西名曲五百番詳解(三)……(一八)…小泉　洽
或る三和音が表示する調に就て(五)……(二五)…如　蝸　子
日記の中より(歌)……(五三)…歌村富士見
ボグミル　シコーラ氏略傳……(五四)…牛山　充
アレキサンダー　テオドル　スクラレフスキー教授小傳……(五九)…牛山　充
マリヤ　カリンスカヤ夫人……(六一)…瀬沼格二郎
海内樂壇……(六三)……
學友會記事……(六八)……
編輯室より……(六九)……

(第九巻第七号　大正七年七月)

音樂第九卷第八號目次

口繪　ボクミル　シコラ氏とキャスルン　キャムブル孃
原位三和音に於ける重音規則(一)……(一)…如　蝸　子
泰西名曲五百番詳解(四)……(一〇)…小泉　洽
チャイコフスキーの手簡(一)……(一六)…牛山　充
庭の小草(歌)……(三七)…林　古溪
習作(詩)……(三九)…歌村富士見
ロングサイン(歌)……(四〇)…小草露子
海内樂壇……(四一)……
樂人動靜……(一五)……
編輯室より……(四六)……

(第九巻第八号　大正七年九月)

音樂第九卷第九號目次

モーツァルトのソナタ(一)……(一)…弘田龍太郎
原位三和音に於ける重音規則(二)……(七)…如　蝸　子

泰西名曲五百番詳解(五)……(二〇)…小泉　洽
現今小學校唱歌教授の通弊を論じて其救濟法に及ぶ……(三一)…眞篠俊雄
チャイコフスキーの手簡(二)……(三七)…牛山　充
黄化石斛(歌)……(四九)…永田龍雄
習作(詩)……(五〇)…歌村富士見
ボグミル　シコラと旅商人……(五一)…牛山　充
編輯室より……(五三)……
樂人動靜……(五三)……

(第九巻第九号　大正七年九月)

音樂第九巻第十號目次

口繪ヘンリー　シュラディーク……
モーツァルトのソナータ(二)……(一)…弘田龍太郎
洋琴演奏法の序(ホフマン)……(五)…牛山　充
泰西名曲五百番詳解(五)……(一一)…小泉　洽
原位三和音に於ける重音規則(三)……(一九)…如　蝸　子
チャイコフスキーの手簡(三)……(三三)…牛山　充
習作(詩)……(四六)…歌村ふじみ
樂人動靜……(四七)……
編輯室より……(四八)……
新刊紹介……

(第九巻第十号　大正七年十月)

音樂第九巻第十一號目次

樂譜　秋さめに……永田龍雄歌
藤井清水曲
洋琴曲解説(一)(ペーリ)……(一)…牛山　充
ミルス氏換聲區域論(五)……(二五)…草川宜雄
新星(歌)……(三〇)…林　古溪
泰西名曲五百番詳解(七)……(三一)…小泉　洽
チャイコフスキーの手簡(四)……(三七)…牛山　充
星夜の空(歌)……(五三)…永田龍雄
紐育より……(五四)…山田耕作
アヱ　マリア(詩)……(五五)…松川喬一
海内樂壇……(五七)……
樂人動靜……(六一)……
編輯室より……(六三)……

(第九巻第十一号　大正九年十一月)

音樂第九巻第十二號目次

口繪　南葵大禮記念館奏樂堂……
音樂者優遇問題……(一)…小川友吉
原位三和音の連合に關する要則(一)……(一一)…如　蝸　子
泰西名曲五百番詳解(八)……(三一)…小泉　洽
『ベートーヴェンの午後』梗概……(四〇)…牛山　充
南葵文庫の音樂堂に就て……(六四)…關　重廣
學友會秋季修學旅行記……(六五)…坂口　生

太平洋にむかひ(歌)……(七〇)…永田龍雄
編輯室より……(七一)……
樂人動靜……(七一)……
新刊紹介……

(第九巻第十二号　大正七年十二月)

音樂第十卷第一號目次

嵯峨天皇御震筆　表紙題字『音樂』……
表紙畫『九柱の美神』……アルツール…フィットガー筆
純正樂劇論(一)(ローレンス　ギルマン)……(一)…中根　弘
原位三和音の連合に關する要則(二)……(九)…如　蝸　子
抒情小曲六篇(詩)……(三〇)…霜田史光
名曲五百番詳解(九)……(三三)…小泉　洽
俗惡音樂の取締に就て(一)……(四四)…小川友吉
チャイコフスキーの手簡(五)……(四九)…牛山　充
一九一八年の初冬(詩)……(五九)…永田龍雄
スクラレフスキー教授……(六一)…牛山生
海内樂壇……(六三)……
歳頭雜感……(六九)…牛山　充
新刊紹介……

(第十巻第一号　大正八年一月)

音樂第十卷第二號目次

口繪復活せる波蘭土の大統領パデレフスキー……
原位三和音の連合に關する要則(三)……(一)…如　蝸　子
泰西名曲五百番詳解(十)……(九)…小泉　洽
チャイコフスキーの手簡(六)……(一九)…牛山　充
おもひを述ぶる五曲(短詩)……(三六)…永田龍雄
近詠三十四首(歌)……(三七)…竝樹秋人
桃色の空(歌)……(三九)…下總覺三
山田耕作氏の紐育演奏と世評……(四〇)…牛山　充
シコラ氏とキャムブル孃の近況……(四三)…M・U・生
スクラレフスキー教授の近信……(四三)……
編輯室より……(四五)……
樂人動靜……(四六)……

(第十巻第二号　大正八年二月)

音樂第十卷第三號目次

ミルス氏換聲區域論(六)……(一)…草川宜雄
音樂者の家庭訓及び處世訓(シューマン)……(五)…K　生　譯
泰西名曲五百番詳解(十一)……(一七)…小泉　洽
ショパンの誕生記念に……(二五)…兼常清佐
洋琴曲解說(二)……(二八)…牛山　充
ちぇっく兵とふりぢあの花(歌)……(三四)…永田龍雄
悲しき花(歌)……(三五)…落合孔雀草
かりそめの旅(歌)……(三六)…老川　潮
粉雪(歌)……(三七)…下總覺三
海内樂壇……(三九)……

編輯室より……（三八）……

（第十巻第三号　大正八年三月）

音樂第十卷第四號目次

ベートーヱンのソナタの研究（一）
（エルンスト　エルターライン）……（一）…柿沼太郎
今日の洋琴家及洋琴演奏……（一四）…牛山　充
泰西名曲五百番詳解（十二）……（一八）…小泉　洽
パブロ　カザルスの藝術（ゴドフスキー）……（二八）…牛山　充
誕生會頌（詩）……（二九）…林　竹次郎
梅柳そのをりをり（歌）……（三〇）…林　古溪
郊外より（歌）……（三二）…歌村富士見
ポーキープシーより……（三四）…阿部舜吾
海内樂壇……（三五）……
樂人動靜……（三七）……

（第十巻第四号　大正八年四月）

音樂第十卷第五號目次

樂譜、小學唱歌『雲』に據る變奏曲……田中敬一
口繪、ゲラルド　ザルスマン教授とマリー夫人
ベートーヱンの生涯（一）（ノール）……（一）…柿沼太郎
俗惡音樂の取締に就て（二）……（一三）…小川友吉
ベートーヱンのソナタの研究（二）
（エルターライン）……（三〇）…柿沼太郎
泰西名曲五百番詳解（十三）……（三〇）…小泉　洽
今日の洋琴及洋琴演奏（二）……（三六）…牛山　充
籠居（歌）……（四二）…むらさき
ゲラルド　ザルスマン教授小傳……（四四）…牛山　充
海内樂壇……（四八）……
樂人動靜……（五一）……
編輯室より……（五一）……
新刊紹介……

（第十巻第五号　大正八年五月）

音樂第十卷第六號目次

ベートーヱンのソナタの研究（三）……（一）…柿沼太郎
聲帶不振動說……（一〇）…鷲尾　猛
ベートーヱンの生涯（二）……（一六）…柿沼太郎
泰世名曲五百番（十四）……（二八）…小泉　洽
花は牡丹（詩）……（三六）…林　古溪
しもつけの春（歌）……（三七）…老川　潮
雲の影（歌）……（三七）…下總白桃
ポーキープシーより……（三九）…阿部舜吾
ザルスマン教授を聽く……（四〇）…白　芙蓉
海内樂壇……（四四）……
樂人動靜……（四五）……
編輯室より……（四六）……
新刊紹介……

（第十巻第六号　大正八年六月）

音樂第十巻第七號目次

樂譜　かもめ……室生犀星詩　弘田龍太郎曲
リンデの唱歌教授意見に對する實際的考察　……（一）…北村久雄
ベートーヱンの生涯（三）　……（一〇）…柿村太郎
原位三和音の連合に關する要則（四）……（三三）…如　蝸　子
泰西名曲五百番詳解（十五）　……（三四）…小泉　洽
白き花（歌）　……（四〇）…竝樹秋人
口笛（歌）　……（四三）…歌村富士見
吉田より　……（四四）…深瀨周一
海内樂壇　……（四六）……
編輯室より　……（五三）……
樂人動靜　……（五三）……

（第十巻第七号　大正八年七月）

音樂第十巻第八號目次

口繪　ディッペル歌劇座監督アンドリアス　ディッペル
ベートーヱンの生涯（四）　……（一）…柿沼太郎
鷲尾兄の聲帶不振動說を讀みて　……（一四）…草川宜雄
リンデの唱歌教授意見に對する實際的考案（下）…（一七）…北村久雄
原位三和音の連合に關する要則（四）……（三五）…如　蝸　子
泰西名曲五百番詳解（十六）　……（三七）…小泉　洽
おりんぴあかふえ（歌）　……（四五）…永田龍雄
我が門（歌）　……（四六）…林　古溪
米國に於ける山田耕作氏の活動　……（四八）…牛山　充
新刊紹介　……（五〇）……
海内樂壇　……（五一）……
樂人動靜　……（五一）……
編輯室より　……（五三）……

（第十巻第八号　大正八年八月）

音樂第十巻第九號目次

口繪　シャリアピンの扮せるボリス　ゴドゥノフ
ベートーヱンの生涯（五）　……（一）…柿沼太郎
泰西名曲五百番詳解（十七）　……（二）…小泉　洽
ムーソルグスキーと『ボリス　ゴドゥノフ』　…（二四）…牛山　充
英國音樂界の青壯派　……（三一）…牛山　充
東西南北（歌）　……（三七）…林　古溪
暮るゝ小路（歌）　……（三九）…歌村富士見
山田耕作氏の既刊著作目錄　……（四〇）…牛山　充
歌劇『ボリス　ゴドゥノフ』の梗概　……（四四）…牛山　充
編輯室より　……（四六）……
樂人動靜　……（四七）……
新刊紹介　……（四八）……

（第十巻第九号　大正八年九月）

音樂第十卷第十號目次

樂譜『蟬の小川』……高安月郊作歌 弘田龍太郎作曲
ベートーヱンのソナタの研究(四)……(一)…柿沼太郎
ベートーヱンの生涯(六)……(一三)…柿沼太郎
草川氏に答へて……(二三)…鷲尾猛
泰西名曲五百番詳解(十八)……(二六)…小泉洽
長息(歌)……(三三)…竝樹秋人
しぐれの風(小曲八章)……(三四)…永田靜雄
月を見て(歌)……(三六)…林古溪
高澄める空は紺青(歌)……(三七)…歌村富士見
海内樂壇……(四〇)……
樂人動靜……(四三)……
編輯室より……(四三)……

(第十卷第十号　大正八年十月)

音樂第十卷第十一號目次

口繪、東京音樂學校正門と校舍……
音樂と道德(フィンクのショパン論其他より)…(一)…乙骨三郎
原位三和音の連合に關する要則(五)……(一三)…如蝸子
泰西名曲五百番詳解(十九)……(二〇)…小泉洽
十三夜(歌)……(二七)…永田龍雄
秋の生活(歌)……(二八)…落合孔雀草
夜と彩りと(歌)……(二九)…下總白桃
儚き彼人を憶ふ……(三〇)…ミカエラ
東京音樂學校規則改正について……(三三)……
新刊紹介……(三三)……
海内樂壇……(三五)……
學友會記事……(三七)……
樂人動靜……(三八)……
編輯室より……(三九)……

(第十卷第十一号　大正八年十一月)

音樂第十卷第十二號目次

口繪、東京音樂學校管絃樂隊竝に合唱隊……
ワーグナーの樂劇に於ける人生問題(ペーターソン・ベルゲル)……(一)…二見孝平
こはるのそら(小曲)……(一六)…永田龍雄
さきくや(詩)……(一七)…林古溪
海内樂壇……(一八)……
學校記事……(二四)……
學友會記事……(二四)……
樂人動靜……(二五)……
編輯室より……(二六)……
新刊紹介……

(第十卷第十二号　大正八年十二月)

音樂第十一卷第一號目次

今日の舞踊と音樂……(一)…二見孝平
唱歌帳に對する二つの願ひのために……(一四)…北村久雄
ベートーヱンの生涯(ノール)(七)……(二四)…柿沼太郎
藝術の心理學的根元複合感化
(エルラ　ホワイト　カスター)……(三五)…鈴木賢之進
ベートーヱンのソナタの研究(エルターライン)
(五)……(四一)…柿沼太郎
ゆらぐ思ひ、水の流(詩)……(五二)…林　古溪
君はいふ(歌)……(五三)…北の子
くりすます(歌)……(五四)…永田龍雄
海内樂壇……(五五)……
樂人動靜……(五六)……
編輯室より……

(第十一卷第一号　大正九年一月)

音樂第十一卷第二號目次

通俗教育と音樂……(一)…小川友吉
指揮者の任務(ヘンダースン)……(五)…鈴木賢之進
樂事片々……(一六)…二見孝平
ベートーヱンの生涯(ノール)(八)……(三三)…柿沼太郎
雪降る荒野を背景として……(三六)…相澤　晃
泰西名曲詳解(二〇)……(四二)…小泉　洽
きさらぎ(小曲)……(四九)…永田龍雄
木枯(歌)……(五〇)…林　古溪
いとしき甥(歌)……(五二)…歌村富士見
或る日の音樂會……(五三)…L　X
東京音樂學校入學案内……(五五)……
海内樂壇……(五九)……
樂人動靜……(五九)……
編輯室より……(六一)……
新刊紹介……

(第十一卷第二号　大正九年二月)

音樂第十一卷第三號目次

調和―仁慈的結合(カスター)……(一)…鈴木賢之進
ベートーヱンのソナタの研究(六)……(一三)…柿沼太郎
泰西名曲五百番詳解……(二四)…小泉　洽
編輯室より……(三四)……
寒紅篇(歌)……(三五)…竝樹秋人
春の星(小曲)……(三七)…永田龍雄
譯詩三篇(ブレイク)……(三八)…鈴木賢之進
斷腸歌……(四〇)…歌村富士見
金城下より……(四一)…碧　揚　子
海内樂壇……(四五)……
樂人動靜……(三四)……
新刊紹介……

(第十一卷第三号　大正九年三月)

音樂第十一卷第四號目次

通俗教育と音樂(二)……(一)…小川友吉
指揮者の發達……(五)…鈴木賢之進
泰西名曲五百番詳解(二十二)……(三三)…小泉　洽
ブレイク詩鈔……(三四)…鈴木賢之進
天津鳥(歌)……(三六)…北の子
答人(歌)……(三七)…林　古溪
初外出(歌)……(三八)…歌村富士見
こゝろは君に(小曲三章)……(三九)…永田龍雄
大シコラと大ストラディヴァリウス……(四〇)…牛山　充
海内樂壇……(四三)……
學校記事……(四四)……
樂人動靜……(四五)……
編輯室より……(四六)……

(第十一卷第四号　大正九年四月)

音樂第十一卷第五號目次

口繪、再び來朝の報あるチェルロの名手ホグミル　スィコラ
樣式上に於ける國民的感化(パーリー)……(一)…鈴木賢之進
音樂を學ばんとする人々に……(一四)…青柳善吾
藝術家の生涯(上)(クック)……(三三)…牛山　充
泰西名曲五百番詳解(二十三)……(三三)…小泉　洽
白木蓮煙雨(歌)……(四三)…永田龍雄
野花の歌(ブレイク)……(四四)…鈴木賢之進
野をゆくもの(詩)……(四六)…石野　隆
モード　パウェル逝く……(四七)…牕山原生
ガブリエーレ　ダンヌンチオに贈る長歌竝反歌…(四八)…林　古溪
父の夢(歌)……(五一)…歌村富士見
大スィコラと大ストラディヴァリウス(下)……(五二)…牛山　充
海内樂壇……(五六)……
學校記事……(五七)……
樂人動靜……(六〇)……
編輯室より……(六一)……

(第十一卷第五号　大正九年五月)

音樂第十一卷第六號目次

カントの音樂觀……(一)…小泉　洽
ベートーヴェンの生涯(九)……(三三)…柿沼太郎
戯曲歌ひ女(一幕物)(チェホフ)……(三四)…相澤　晃
病院の夜(歌)……(四三)…林　古溪
徂春懶心(歌)……(四五)…永田龍雄
金魚の死(歌)……(四六)…北の子
折々の歌……(四七)…歌村富士見
海内樂壇……(四八)……
樂人動靜……(五〇)……
編輯室より……(五二)……
新刊紹介……

音樂第十一卷第七號目次

（第十一卷第六号　大正九年六月）

琵琶の音律と笙の音律との關係……（一）…田邊尚雄
聽者より觀たる音樂……（五）…霜田史光
藝術家の生涯（中）（クック）……（九）…牛山　充
粟田三吾氏の伊太利亞に行くを送る歌……（一一）…林　古溪
花と音樂（詩）……（一四）…永田龍雄
昔往の詩人の聲（ブレイク）……（一六）…鈴木賢之進
美しき藻沼（歌）……（一八）…竝樹秋人
何となく（歌）……（二〇）…北の子
調律學校及調律家組合の創立……（二一）…牛山　充
海内樂壇……（二四）……
學校記事……（二七）……
編輯室より……（二七）……
樂人動靜……（二八）……
東京音樂學校春季大演奏會曲目梗概……（二九）…乙骨三郎
新刊紹介……

音樂第十一卷第八號目次

（第十一卷第七号　大正九年七月）

慶應義塾大學大講堂に於けるボクミル　スィコラとキャスルン
キャムブル、ボクミル　スィコラとチェコスロヴキア國公使
ヴイオリン熟達法（一）……（一）…牛山　充
泰西名曲四百番詳解（詩）……（一）…小泉　洽
藝術家の生涯（下）……（一九）…牛山　充
結婚（戲曲）（チェホフ）……（二六）…相澤　晃
花ごよみ（小曲）……（四一）…永田龍雄
あつければ（歌）……（四三）…林　古溪
淋しさ（歌）……（四四）…歌村富士見
バッツ氏（詩）（ウヰリヤム　ブレイク）……（四五）…鈴木賢之進
大スィコラと大ストラディヴリウスを聽く……（四八）…牛山　充
海内樂壇……（五三）……
樂人動靜……（五五）……
編輯室より……（五七）……
新刊紹介……（五八）……

音樂第十一卷第九號目次

（第十一卷第八号　大正九年八月）

口繪セルヂュ　プロコフィエフ
露西亞の民謠に就て……（一）…相澤　晃
洋琴家は生れ乍らの者か造られる者乎（フランシス　クック）……（一三）…牛山　充
校歌について人に答ふ……（二四）…林　古溪
La Femme（詩）……（二七）…石野　隆
亞米利加に於けるプロコフィエフ……（二八）…牛山　充
戲曲　綠の囁き（ロスラウレフ）……（三四）…相澤　晃
心解けて（歌）……（五一）…永田龍雄

水車(詩)……(五三)…歌村富士見
迎伊國航空隊相懽飲旋頭歌……(五三)…林　古溪
今日のこころ(歌)……(五四)…北の子
黄金の船(民謡)……(五五)…高橋元一郎
海内樂壇……(五五)……
樂人動靜……(五六)……
新刊紹介……

(第十一巻第九号　大正九年九月)

音樂第十一巻第十號目次

通俗教育と音樂(三)……(一)…小川友吉
今日の亞米利加の演奏家(下)(クツク)……(九)…牛山　充
結婚の申込(一幕物戯曲)(チェホフ)……(一五)…相澤　晃
まつむしぐさ(詩)……(三九)…永田龍雄
新月(詩)……(四一)…林　古溪
白き蚊帳(歌)……(四三)…笹野　綠
影(歌)……(四四)…歌村富士見
支倉常長に(詩)……(四六)…林　古溪
海内樂壇……(四九)……
樂人動靜……(四九)……
編輯室より……(五三)……
新刊紹介……

(第十一巻第十号　大正九年十月)

音樂第十一巻第十一號目次

口繪女子聖學院に於けるスィコラとキャムブル孃……
雅樂の音階に就て……(一)…田邊尚雄
ヴイオリン熟達の要具……(五)…牛山　充
アスター(戯曲)(ア・ルキャーノフ)……(一一)…相澤　晃
秋日小情(歌)……(三一)…竝樹秋人
仔羊(詩)(ウイリアム　ブレーク)……(三三)…鈴木賢之進
いちじく(歌)……(三六)…北の子
なつめの黄葉(歌)……(三七)…永田龍雄
續病院の夜(歌)……(三八)…林　古溪
三度び大スィコラを迎ふ……(三〇)…牛山　充
Nさんへ……(三三)…黒澤隆朝
海内樂壇……(三七)……
樂人動靜……(四一)……
編輯室より……(四三)……
新刊紹介……

(第十一巻第十一号　大正九年十一月)

音樂第十一巻第十二號目次

口繪歸れる兒の舞臺面……
ベートーヴェンの生涯(十)(ノール)……(一)…柿沼太郎
ベートーヴェンの聽耳とその他……(一〇)…小泉　洽
テイラー氏の記譜法……(一九)…乙骨三郎
變易(戯曲)(チェホフ)……(二三)…相澤　晃

シコラを聽きて（歌）……（二八）…牛山　充
女なれば（歌）……（二九）…北の子
葉となみだ（小曲）……（三一）…永田龍雄
續々病院の夜（歌）……（三三）…林　古溪
二老兵に對する弔歌（ホイットマン）……（三四）…鈴木賢之進
Nさんへ（その二）……（三八）…黒澤隆朝
歌劇『ランファン　プロディーグ』の
上演に就いて……（四五）……
海内樂壇……（四六）……
學友會記事……（五一）……
學校記事……（五二）……
編輯室より……（五二）……
樂人動靜……（五三）……
新刊紹介……

（第十一巻第十二号　大正九年十二月）

音樂第十二巻第一號目次

口繪（フランツ　シュレーケル／アレクサンドル　スクラレフスキー／愛絃會同人）
チェコスロヴック音樂（上）（エリアショワ）……（一）…牛山　充
露西亞音樂の新時代（上）……（一〇）…相澤　晃
惡心者（戲曲）（チェホフ）……（一四）…相澤　晃
心のただよひ（詩）……（二三）…内海信之
黑のマントル（歌）……（二四）…太　子
第二の夢（歌）……（二五）…笹野　綠
松島から飯坂へ（紀行）……（二六）…K、K、生
西那須野から新鹽原まで（紀行）……（三一）…健脛部娘子
愛絃會の出生に就ての感想……（三三）…相澤　晃
スィコラのチェルロとヒルベルク夫人のピアノ…（三五）…小泉　洽
スィコラを聽く……（三八）…牛山　充
音樂學校秋季大演奏會曲目梗概……（四四）…乙骨三郎
海内樂壇……（五七）……
樂人動靜……（六二）……
編輯室より……（六三）……
新刊紹介……
ピアノの名家スクラレフスキー來る……（九、一三）……

（第十二巻第一号　大正十年一月）

音樂第十二巻第二號目次

口繪　ミシャ　エルマン
チェコスロヴキア音樂（中）……（一）…エリアショワ
露西亞音樂の新時代（下）……（五）…相澤　晃
U氏に寄する私信……（八）…二見孝平
音樂者の手記……（一三）…細谷六郎
不運……（一六）…相澤　晃
胸なる花（詩）……（三〇）…内海信之
かもめならねど外數篇（小曲）……（三三）…永田龍雄

日記の中に(歌)……(三三)…笹野　緑
我影抱く(歌)……(三四)…林　古溪
シコラを聽く……(三六)…加藤　勇
音樂奬勵會のシコラを聽く……(三八)…牛山　克(ママ)
海内樂壇……(四〇)……
消息……(四二)……
樂人動靜……(四二)……
新刊紹介……

(第十二巻第二号　大正十年二月)

音樂第十二巻第三號目次

口繪　東京に於けるミシャ　エルマン
グリークの歌曲……(一)…前田春聲
不運(ポターペンコ)……(一三)…相澤　晃
ミシャ　エルマンを聽く……(二〇)…牛山　尤(ママ)
ベートーヴェン頌歌(詩)……(二一)…前田春聲
夢の魔人(詩)……(二四)…多田不二
陽炎(詩)……(二五)…内海信之
新刊紹介……

(第十二巻第三号　大正十年三月)

音樂第十二巻第四號目次

兒童の自由作曲(上)……(一)…小川友吉
記譜法の改良について……(八)…濱　德太郎
アルマ　グルック夫人の聲樂談……(一六)…成瀨勝忠
雅各莫迦……(二〇)…納　尚克
チェコスロヴキア音樂(三)(エリアショーヴ)……(二五)…牛山　充
光耀(詩)……(二八)…永田龍雄
春光(詩)……(三〇)…内海信之
さびしき(歌)……(三二)…林　古溪
輝く夜(歌)……(三三)…北の男
ボフミル　スィコラの送別演奏會……(三四)…牛山　充
ミシャ　エルマンの東京演奏……(三七)…牛山　充
海内樂壇……(四〇)……
樂人動靜……(四一)……
學校記事……(四二)……
新刊紹介……

(第十二巻第四号　大正十年四月)

音樂第十二巻第五號目次

口繪ヴイオリンの神童ミシャヴイスブロート……
兒童の自由作曲(二)……(一)…小川友吉
不運(戲曲)(ポターペンコ)……(七)…相澤　晃
ミシャ　ヴイスブロートに就て……(一五)…梶原國生
エルマンについて……(一八)…K、K、生
花が咲く(小曲)……(二一)…林　古溪
種だもの(小曲)……(二二)…笹野　緑
野蒜集(歌)……(二三)…竝樹秋人

海内樂壇……（二四）
樂人動靜……（二五）
樂人消息……（二六）
新刊紹介……（二六）
學校記事……（二七）
編輯室より……（二八）

（第十二巻第五号　大正十年五月）

音樂第十二巻第六號目次

祕密も何もない教授法（マーテインス）……（一）…牛山　充
ショパンの手紙（一）……（八）…牕山原生
戯曲『不連』（續）（ポタペンコ）……（一二）…相澤　晃
阿片（詩）……（一六）…内海泡沫
春懐（歌）……（一八）…林　古溪
穏れたる奉仕……（一九）…牛山　充
海内樂壇……（二一）……
樂界消息……（二三）……
學校記事……（二四）……
樂人動靜……（二五）……
編輯室より……（二六）……

（第十二巻第六号　大正十年六月）

音樂第十二巻第七號目次

詞と曲の問題……（一）…小川友吉
藝術史上より見るパレストリナよりベートー
ゼンに及ぶ……（八）…小泉　洽
五月の海（歌）……（一七）…永田龍政
初夏雜詩……（一八）…林　古溪
傷春日記（歌）……（一九）…笹野　綠
篝火……（二〇）…内海信之
夏の黄昏（短篇）ザイツエフ……（二二）…相澤　晃
シューマン・ハインク夫人を聽く……（二三）…牛山　充
伯林より……（二六）…眞篠俊雄
海内樂壇……（二七）……
學校記事……（二九）……
學友會記事……（二九）……
樂人動靜……（三〇）……
新刊紹介……

（第十二巻第七号　大正十年七月）

音樂第十二巻第八號目次

モダニヅムの哲學（シリル　スコット）……（一）…高橋　均
露西亞音樂の父グリンカ……（八）…相澤　晃
ショパンの日記……（一三）…T　S　生
アーサー　シマンズの詩より……（三〇）…永田龍雄
小草小曲……（三三）…林　古溪
ながあめ（歌）……（三三）…歌村富士見
人なみ（歌）……（三四）…と　し　子

京阪くだり……(三五)…S S 生
樂人動靜……(四一)……
新刊紹介……

(第十二巻第八号　大正十年八月)

音樂第十二巻第九號目次

藝術史上より觀たるパレストリナよりベートーヱンに及ぶ(二)……(一)…小泉　洽
チェコスロヴキア文學(エリアショーヴ)……(一三)…牛山　充
雀(小品)(ツルゲーネフ)……(二三)…相澤　晃
童謠三態……(二四)…永田龍雄
砂煙(詩)……(二五)…内海信之
横須賀(歌)……(二七)…林　古溪
いたりあ童謠二篇……(二八)…牛山　充
アンナ　エル・トゥール略傳……(二九)…牛山　充
海内樂壇……(三三)……
樂人動靜……(三五)……
新刊紹介……

(第十二巻第九号　大正十年九月)

音樂第十二巻第十號目次

童謠の教育的価値……(一)…細谷六郎
藝術史上より見たるパレストリナよりベートーヱン(ママ)に及ぶ(三)……(一〇)…小泉　洽
露西亞音樂研究の理由……(二)…相澤　晃
モダーニズムの哲學(續)……(一四)…高橋　均
房州佐貫町より……(二〇)…倉辻富士見
利毛私抄……(二一)…竝樹秋人
八月……(二二)…林　古溪
「新らしき巣を造る者」の一節……(二三)…相澤　晃
夢に見し……(四二)…笹野　綠
靜かな宵……(四三)…永田龍雄
麗光……(四四)…内海信之
胸の神殿……(四六)…荻野　綾
海内樂壇……(四九)……
樂人動靜……(四九)……
消息……(五〇)……

(第十二巻第十号　大正十年十月)

音樂第十二巻第十一月號目次

樂譜洋琴獨奏曲、情調詩……田中規矩士
樂譜、獨唱曲、はつしぐれ……永田龍雄歌　宮原禎次曲
セダーニズムの哲學(スコット)(三)……(一)…高橋　均
キャピトル丘上のギーナスの由來(一)……(六)…音川仙三
殘照(詩)……(一〇)…内海信之
言葉の音(詩)……(一三)…荻野　綾
常に見る(歌)……(一四)…林　古溪

火取り蟲(歌)……(一五)…倉辻富士見
一枚の端書と其返事……(一六)…北村久雄
海内樂壇……(二〇)……
學友會記事……(二一)……
樂人動靜……(二二)……
編輯室より……(二三)……

(第十二巻第十一号　大正十年十一月)

音樂第十二巻第十二月號目次

自由作曲問題に就て草川氏に質す(一)小川友吉
音樂の作曲と解釋に於ける見へざる感化力
(シリル　スコット)……(八)…高橋　均
カピトール丘上のギーナスの由來(二)……(一六)…音川仙三
モーツアルトとサリエーリ(プーシューキン)……(二二)…森本覺舟
思ひ出(詩)……(二二)…荻野　綾
深夜こほろぎ(歌)……(二三)…伊藤裕介
寂光叙情(詩)……(二四)…永田龍雄
海内樂壇……(二六)……
學校記事……(四〇)……
樂人動靜……(四一)……
新刊紹介……

(第十二巻第十二号　大正十年十二月)

音樂第十三巻第一月號目次

樂譜月のメランコリア……柳澤　健詩
音樂教育の目的(一)……(一)…小川友吉
シリル　スコット評傳の序……(八)…高橋　均
ワーグナーの藝術觀に就て……(一二)…音川仙三
大空(歌)……(一六)…林　古溪
雪の音(歌)……(一七)…笹野　綠
童謠雪(詩)……(一八)…葛原　菡
木曾路(紀行)……(二〇)…S　S　生
ゆき(詩)……(二五)…永田龍雄
人に贈れる(詩)……(二七)…内海泡沫
初めての挨拶……(二九)…荻野　綾
氷雨ふる日の黄昏……(三二)…堀江　朔
海内樂壇……(三四)……
樂人動靜……(三四)……
新刊紹介……

(第十三巻第一号　大正十一年一月)

音樂第十三巻第二月號目次

口繪、シリル　スコット……(一)…小川友吉
音樂教育の目的……(九)…河村信義、大久保明
シリル　スコット評傳……宮原禎次、高橋　均

古調三章(詩)……(三〇)…内海信之
隕石(詩)……(三三)…高橋元一郎
小草(詩)……(三四)…林　古溪
若き娘(詩)……(三五)…高橋　均
冬されば(詩)……(三六)…林　古溪
パパ様……(三七)…笹野　綠
海内樂壇……(三八)……
學校記事……(三一)……
學友會記事……(三三)……
樂人動靜……(三三)……
編集室より……(三四)……
音樂第十二卷總目錄……(一―三)……
新刊紹介……

(第十三卷第二号　大正十一年二月)

音樂第十三卷第三月號目次

樂譜、月と樹……(柳澤　健詩／宮原禎次曲)
樂譜、ながれぼし……(永田龍雄詩／宮原禎次曲)
セーヤーと其のベートウヱン傳及び其の英文の版本に就て……(一)…二見孝平
自由作曲の方法……(一〇)…小川友吉
ダンテ祭の後(長詩)……(一六)…林　古溪
文化運動の爲め中京に初めて管絃樂演奏會を開くに際して……(二三)…相澤　晃
小曲三章……(二七)…永田龍雄
銀の十字(歌)……(二八)…笹野　綠
海内樂壇……(二九)……
樂人動靜……(三〇)……
新刊紹介……

(第十三卷第三号　大正十一年三月)

音樂第十三卷第四月號目次

口繪(アレクサンドル　スクラレフスキー教授／リディア　リプコフスカ夫人)
シリル　スコット評傳(三)……(一)…(宮原、川村／大久保、高橋)
ア・ク・グラズノフの近況に就て……(九)…相澤　晃
ペテログラードに於ける劇場近況……(一三)…相澤　晃
小曲四篇(詩)……(一四)…内海信之
卯月(歌)……(一六)…林　古溪
山寺に(詩)……(一六)…林　古溪
春雁(詩)……(一七)…永田龍雄
海邊に立ちて(詩)……(一八)…小草露子
或る小說の談片(小說)……(三〇)…相澤　晃
アレクサンドル　スクラレフスキー教授を聽く…(三一)…牛山　充
リディア　リプコフスカ夫人を聽いて……(三四)…牛山　充

海内樂壇……（三九）……
樂人動靜……（四〇）……

（第十三卷第四号　大正十一年四月）

音樂第十三卷第五月號目次

樂譜、奏鳴曲第一、第二章……田中敬一
自由作曲の非難點……（一）…小川友吉
カミーユ　サンーサアンス（メルツアー）……（七）…牛山　充
或る夕暮れの感想（詩）……（一四）…卜木愛園
即景（歌）……（一五）…林　古溪
白き香（歌）……（一六）…笹野　綠
海内樂壇……（一七）……
樂人動靜……（一九）……
學校記事……（一九）……
編輯室より……
新刊紹介……

（第十三卷第五号　大正十一年五月）

音樂第十三卷第六月號目次

口繪（エフレム　ヅィムバリスト／巽　清次郎氏／ミルトン　シーマア氏）
エフレム　ヅィムバリストを聽く……（一）…牛山　充
ふたつの童謠……（八）…永田龍雄
戀のうた（その一）……（九）…内海信之
鶴迎鴻送（詩）……（一三）…林　古溪
旅より歸りて（歌）……（一三）…笹野　綠
ある夜（歌）……（一四）…林　古溪
ヂムバリスト氏の思ひ出……（一五）…永田龍雄
東京音樂學校春季演奏會曲目梗概……（一八）…乙骨三郎
海内樂壇……（二一）……
學校記事……（二三）……
學友會記事……（二三）……
樂人動靜……（二四）……
新刊紹介……

（第十三卷第六号　大正十一年六月）

音樂第十三卷第七月號目次

露西亞音樂の發達（ニューマン）……（一）…乙骨三郎
春怨曲（詩）……（一九）…卜木愛園
戀のうた（詩）……（二一）…内海信之
一束の花（歌）……（二四）…荻野綾子
海外樂壇……（二五）……
樂人動靜……（二七）……
學友會記事……（二九）……
新刊紹介……

（第十三卷第七号　大正十一年七月）

音樂第十三卷第八月號目次

音樂の教育的意義……(一)…小泉　洽
『方法中の方法』に就て(ショパン)……(一〇)…牛山　充
ショパンの大作(クレツインスキー)……(一三)…牛山　充
東京を去る時(詩)……(一五)…卜木愛園
清き香(歌)……(一六)…林　古溪
虹のゑ(歌)……(一七)…林　古溪
森の人の心(歌)……(一八)…S　子
故郷の暗い夜(詩)……(一九)…卜木愛園
海内樂壇……(二一)……
樂人動靜……(二三)……
新刊紹介……

(第十三卷第八号　大正十一年八月)

音樂第十三卷第九月號目次

口繪アンナ　パヴロワの舞姿……
樂譜流星……川路柳虹詩　宮原禎次曲
童謠作家に與ふ……(一)…小川友吉
靜かなる暴風の後(K夫人への手紙)……(五)…相澤　晃
音樂と畫家……(二六)…牛山　充
露西亞舞踊研究者のために……(二九)…牛山　充
妹にさかりて(歌)……(三一)…林　古溪
莢竹挑の花(歌)……(三三)…永田龍雄
海内樂壇……(三四)……
樂人動靜……(三四)……
編輯室より……(三四)……
新刊紹介……

(第十三卷第九号　大正十一年九月)

音樂第十三卷第十月號目次

音樂教育と藝術的陶冶……(一)…北村久雄
浴泉記……(一九)…相澤　晃
哀傷曲(歌)……(二八)…普門士寸
戀のうた(三)(詩)……(二九)…内海信之
一熟(歌)……(三一)…林　古溪
鈴蘭の花(詩)……(三三)…白　樺生
妹の墓(詩)……(三五)…卜木愛園
ある對話……(三九)…吉祥寺均
森の人がいふ(二)(歌)……(四三)……
カスリーン　パーロウ女史……(四四)…牛山　充
海内樂壇……(四六)……
樂人動靜……(四六)……
新刊紹介……

(第十三卷第十号　大正十一年十月)

音樂第十三卷第十一號目次

口繪（キャスリーン　パーロウ女史／レオポールド　ゴッドフスキー）
ワーグナーの理想たりしリルリ　レーマン（フィンク）……（一）…牛山　充
レオポルド　ゴッドフスキー……（一五）…牛山　充
アンナ　パヴロワを觀る……（一九）…牛山　充
ドン　ファンの失敗……（二一）…音川仙三
温泉宿の眞晝時（小品）……相澤　晃
十和田泛游（歌）……（三六）…林　古溪
十月白蝶（歌）……（四一）…永田龍雄
戀のうた（詩）……（四三）…内海信之
或る夜半に（詩）……（四四）…卜木愛園
キャスリーン　パーロウを聽く……（四六）…牛山　充
海外樂壇……（四九）……
海内樂壇……（五〇）……
樂人動靜……（五〇）……
新刊紹介……

（第十三卷第十一号　大正十一年十一月）

音樂第十三卷第十二號目次

口繪　ヤロスラフ　コツィアン
世界的ヴイオリンの名手ヤロスラフ　コツィアン……（一）…牛山　充
レオポルド　ゴッドフスキーを聽く……（六）…牛山　充
或日の打ち明け話……（一一）…相澤　晃
再びキャスリーン　パーロウを聽く……（四〇）…牛山　充
火中（歌）……（四三）…林　古溪
朝の電車にて（詩）……（四三）…笹原若子
永遠の愛まで（詩）……（四四）…愛園生
シェリー詩章（歌詩）……（四五）…牛山　充
ツルゲーニェフの散文詩『乞食』を讀みて……（四六）…愛園生
消えゆく焔（歌）……（四九）…牛山　充
温泉ゆき（小品）……（五〇）…相澤　晃
海内樂壇……（五五）……
學友會記事……（五七）……
樂會消息（ママ）……（五七）……
樂人動靜……（五八）……

（第十三卷第十二号　大正十一年十二月）

音樂　第一號　目次

口繪・新潟高等學校にて……
感想錄……乙骨三郎……（一）
生れ出づる力……三好かづを……（四）
ボオドレイルと音樂……音川仙三……（六）
T先生よりの手紙……J　H　生……（一四）
渡歐するにつきまして……久野久子……（一八）
偶　感……桂　平太……（一九）

本校一昨年ベートウヴェン記念演奏の批評　…乙骨三郎……(二四)
日記の節々……會津娘……(二六)
末人の科白……三好かづを……(二七)
フローベルの言葉……富樫篤三……(二九)
生路……文星……(三一)
芝笛……F子……(三五)
或る土曜日……濱の人……(三七)
M君に呈す……武藏野住人……(三九)
地を離れ得ざるもの……文星……(四四)
おたよりの一節……X Y……(四九)
灯のもとにて……狩野眞平……(五三)
小雲雀……狩野眞平……(五四)
スケッチの一つ……T T子……(五四)
雨あがり……樂天童……(五六)
入梅……樂天童……(五六)
春……樂天童……(五七)
弱き我……樂天童……(五八)
小鳥の歌へる……會津娘……(五九)
春を求めて……瑠美子……(六〇)
花の散る宵……(六二)
さらば君よ……T子……(六三)
救はれんとする思ひ……ゆきみつ……(六四)
控室のストーブ……ゆきみつ……(六九)
感じたまゝに……やよひ……(七一)
雪の今宵……生田蝶介……(七三)
折につけて……S子……(七三)
若き日……リンリン草……(七五)
惱み……讀人知らず……(七七)
悅び……(七八)
新春……三好かづを……(七九)
迷ひ……(八〇)
吹雪……(八〇)
感じのまゝ……山本きん……(八一)
雪……ひさ……(八四)
編者から……(八六)

(第一号　大正十二年三月)

音樂 第二號 目次

一、アウエル教授の提琴教授に關する著書より……乙骨三郎……(一)
一、昨日及び今日の提琴生演奏曲目
一、ボオドレイルと言葉(二)……音川仙三……(一〇)
一、ことばについての對話　春田彦……(二一)
一、町への追慕　濱の人……(二五)
一、久野先生よりの御便り　(二八)
一、I君に送る　ゆきみつ……(三〇)
一、一考察　稲穂翁……(三三)
一、苦笑　愚人……(三五)

一、學校一口話と雑感二つ三つ　ゆきみつ……(三七)
一、壽　司　擢子木生……(四〇)
一、我樂多言　三存かづを……(四四)
一、ぐうたら日記　鬼怒里兒……(五三)
一、焚　刑　k　生……(六九)
詩及短歌
一、夜『ウエリアム、ブレイク』　牛山　充……(八一)
一、おさな日　みさを……(八四)
一、わがこゝろ　ゆきみつ……(八六)
一、落ち椿　忘れな草……(九三)
一、愛の花　醉詩美……(九五)
一、春から秋へ　久　子…(一〇〇)
雑　録
一、本學年演奏部活動の總括　演奏部…(一二)
一、庭球部　庭球部…(一二六)
一、黄金時代の再現を期して　卓球部…(一二七)
一、卓球部創立　(一三一)
一、卓球部規則　(一三二)
一、編纂餘言　(一三三)
一、高折先生御消息　(一三三)
(第二号　大正十三年三月)

音樂　第三號　目次
一、口繪　歸國せられるクローン先生　吉田　生……(一)
一、詩歌漫筆　田村範一……(一一)
一、音樂についての一考察　高橋丘木……(一五)
一、小泉先生と地藏尊　高橋丘木……(二〇)
一、子供のうた　野　菊……(二九)
一、或心の斷片　北出生……(三五)
一、死の羈絆　笹　舟……(五七)
一、旅　YK譯……(六四)
一、波蘭土大統領としてのパデレスキー　葉山那美子……(七三)
畫家イヴノススキー　TK生……(七七)
詩及短歌　丘　木……(八三)
一、詩(二篇)　ちゑ子……(八七)
一、折にふれて　あき子……(八八)
一、ふるさとの山　島津ちゑ子……(九〇)
一、思ひ出五首　富樫あつみ……(九四)
一、日記の中より　SH……(九七)
一、紅サラフアン　C・S……(九八)
一、おそろしい眼　C・S……(九九)
一、やぎひげの七五三　ゆき子…(一〇一)
一、十　月　M・F…(一〇一)
一、斷　想　杜甫縷…(一〇三)
一、さとにて三首　初　音…(一〇八)
一、帳面のはしくれ
一、黒薔薇
一、雑　詠

雜　錄

一、本學年演奏部活動の總括　演奏部…（一三）
一、餘　言　（一三）

（第三号　大正十四年三月）

音樂　第四號　目次

一、支那及滿鮮旅行雜感　中田　章……一
一、理論上と作曲上とに於ける竝行五度其の他の問題に就いての考察　Quniniko. w H.……九
一、徹ちゃんの遺稿を纏めて　不二田……二三
一、曾我徹君の遺稿（其の一）　二四
一、母のおもひで（其の二）　二六
一、彼女と夫（其の三）　杜甫縷……三〇
一、佛國官立音樂學校改善案　Y　子……三四
一、あゝ無慘　大木多可子……三八
一、家　K　子……四二
一、東京乘物記　高橋丘木……四四
一、奇蹟の人　岸　阿佐志……五〇
一、願　ひ　倭　文子……五八
一、奇　蹟　富　美　子……六〇
一、月光を浴びつゝ　M　M……六五
一、長城を攀ぢる　智　子……六九

短　歌

一、ある人うたひしうた　我君遺稿……七五
一、晩秋と我　M　……八一
一、七夕祭　晴　秋……八五
一、そゞろ言（十五音）　倭　文子……八六
一、歌のたより　八九

詩

一、小さな聲　T　……九一
一、私のニヒリズム　或る愚人…一〇五
一、ためいき　千葉みはる…一一一
一、旅　唯　美…一一五
一、夜の庭で　名無草…一一八
一、六月の歌　千葉みはる…一二〇

雜　錄

一、學校だより　一二三
一、理事室だより　一二七
一、演奏部報　一二九
一、テニス・ピンポン部から　一三一
一、雜誌部　一三五
一、本校職員名簿　一三六
一、本校生徒名簿　一三八
一、第四臨時教員養成所生徒名簿　一四三

（第四号　大正十四年十一月）

音樂　第五號　目次

一、有名な演奏家　乙骨三郎……一

一、パイプオルガン概說　福島琢郎……一三
一、浪漫的光に於ける音樂的思想の斷片　田村範一……一七
一、八雲琴雜話　高橋丘木……二八
一、まあ隨分駄話　大木多可子……三七
一、我が國の既成及未成音樂藝術家及教育者へ　絃　三……四一
一、絶對音樂及其の音樂家　絃　三……四五
一、雜　感　佐藤吉五郎……四七
一、旅行漫筆　信濃守……五〇
一、子守唄　葉……六五
一、旅行記　王　連……七三
一、秋小景　弓　江……八六
一、茶　話　ぽうふらの親……八八
一、一　隅　T・S・……九四
一、古井戸　とうろく作……九六
一、ゴム風船　九七
一、A溫泉と思ひ出　清野健……九九
一、大木君の「隨分駄話」の後に　一〇九

詩

一、をさな心　飯田唯美……一一一
一、落　陽　S・M……一一四
一、夕べの丘　とうろく作……一一六
一、初　春　Y　A……一二二

短　歌

一、搖籃を出でしより　町　田……一二四
一、五月の光　葉　子……一二七
一、雜　感　あき子……一二七
一、無　題　鷲　絨……一二八
一、このごろ　輝　子……一二八
一、春　S・M……一二九
一、怒　り　眞　沙……一二九
一、思ひしまゝを　摩耶子……一三〇
一、つれ〴〵　洋　子……一三〇

雜　錄

一、卒業生便り　一三二
一、理事室便り　一三四
一、演奏部報　一三五
一、テニス・ピンポン部から　一四二
一、雜誌部便り　一五〇
一、旅行部便り　一五〇
一、編輯者より　一五一

（第五号　大正十五年三月）

音樂　第六號　目次

一、モッツアルト臨終前日鎭魂歌演奏圖（口繪）
一、ふえ（作曲）　吉田良彦
一、おばあさま（作曲）　橋本國彦
一、洋琴獨奏會の曲目と人氣ある作家　牛山　充……一
一、モッツアルトのレクイエム創作の由來　乙骨三郎……五

一、學校備付のピアノ保護の急務　福島琢郎……八
一、解釋・鑑賞　吉田生……一二
一、Der Verminderte 7-Akkord に就いての考察　Q. Hishimoto……二二
一、巴里國立兩オペラ劇場の今夏のだしもの　美子……三八
一、僕の入學した頃　大塚淳……四〇
一、音樂雜感　遠璃子……五一
一、郊外の友を訪ねて　くにを……五九
一、若い音樂家の言葉　とうろく……六七
一、思出の香壺　細島小百合……七七
一、圭さんと晴秋君　九國山人……八〇
一、墓參　久子……九四
一、萬鐘を盗んだ三人の傴僂男　千葉みはる……九七
一、追憶（吉田良彦君のこと）　二……一〇四
一、都を遁れる彼　俊坊……一〇九
一、熱を吐く　吳泰次郎……一二一

詩

一、感傷の日記より　あつみ……一二四
一、農夫　飯田唯美……一二八
一、カナリヤ　唯美……一二九
一、ある時の心　T.……一三一
一、＊　T.……一三三

短歌

一、北海道にて　千葉みはる……一三五
一、忘れいたる故里の心を拾ふ　ひとし……一三八
一、黑き壺　春緒……一四一
一、鄕里にて　あつみ……一四四
一、ためいき　幽記繪……一四五
一、幽欝なる少年の日記　みはる……一四六

雜錄

一、弔報　一四八
一、演奏部報　一四九
一、旅行部より　一五三
一、雜誌部より　一五五
一、編輯の後に　一五六
一、原稿募集　一五八

（第六號　大正十五年十二月）

音樂　第七號　目次

一、東京音樂學校管絃及合唱團（レクイエム演奏中）（口繪）
一、組曲「お伽噺」中の第一番「皇子と兵隊との行進曲」（作曲）　橋本國彦
一、邦樂研究の必要と其方法　弘田龍太郎……一
一、ことばのひびき　吉田生……七
一、オルガン、ストップの話　福島琢郎……一八
一、かなしみうた　吉田生……三二
一、藝術について三つのこと　田村範一……三五
一、國民詩についてのかたこと　眞澄……五〇

一、自問的獨白　岡田二郎……五三
一、余の宗教觀　K　生……五八
一、若い音樂家の言葉　たかき・とうろく……六四
一、ドリマーからドリマーへの手紙　小野崎晋三……七九
一、音樂漫談　竹中重雄……八五
一、紙に曝した感情　五　三　六……九〇
一、宇野浩二論　S・M……九六
一、漫錄二三　ひとし……一〇一
一、若き女性の心　BAN……一〇七
一、色んなこと　良　三……一〇九
一、小品と随筆　ふみと……一一二
一、お葉　かづ子……一一八
一、山小屋の日記から　みまこ……一二〇
一、我が短篇小說　R・T……一二四
一、姉弟　眞　澄……一二七
一、夜汽車　澪　……一三〇
一、源吉　さだを……一四四
一、幻を追ふ　弓　江……一五五
一、夢見る人Hの話　きのむら……一七三
一、にほひ　ひとし……一八三
俳句及短歌
一、我が俳句集より　涼　草……一九五
一、土筆集　一九六
一、野茨さく故里のうた　ひとし……一九九
一、折々の心　みまこ……(二〇三)
一、新春雜錄　りういう……(二〇四)
一、思ひ出の中より　春　緒……(二〇四)
詩
一、ハイネ詩　M. T. Makino……二〇七
一、道化師　陽　……(二〇九)
一、手をさしのべて　BANE……(二一〇)
雜　報
一、理事室より　二一一
一、演奏部報　二一一
一、旅行部報　二一二
一、運動部報　二一三
一、雜誌部より　二一五

(第七号　昭和二年三月)

音樂　第八號　目次

評論・随筆・飜譯

音樂傳說……吉田生(一)
二人マリアと成らずの北塔……外山(一〇)
鰻……吉田(一五)
秋　光……H・K(一八)
ベートヴェンの七部合奏曲……Y生(二四)
扇……田良(二五)
或る女の氣持……ひこ(二六)

裁かるゝ者の心……ひ　（二九）
或　額……みさを（三三）

短　歌

笹　舟……節　子（三六）
秋に寄す……としを（三八）
友は嫁ぐ……ひ　こ（三八）
君をしのびて……千枝子（四〇）
旅より……清　美（四〇）

詩

戯　れ……百合香（四二）
夏……節　子（四二）
京の祇園會……ひなぎく（四四）
詩一篇……美佐緒（四四）
むなしきおもひ……彌　撒（四五）
長　詩……D・K（四五）

俳　句

其折々……其石生（四六）

小　説

平凡なる自殺……とうろく（四七）
黒　猫……いたる（六〇）
光……ひとし（六六）
社……I・Y（八一）

（第八号　昭和二年十二月）

音樂　第九號　目次

皇后陛下御自働車奉迎門御通過（口繪）
乘杉新會長（口繪）
御前演奏練習中の本校管絃合唱團（口繪）
御大禮奉祝歌……高野教授
卷頭の辭……會　長　一
鳴物傳説……吉田生　二
むかし〳〵……なにはのみつ　一七
斷　片……乙骨三郎　二八
セザール、フランクに就いてのきれ〴〵……岡田二郎　三一
オルガン漫談……とりゐ生　三六
群　羊……二　路　三八
或日の心……昭　三九
思ひ出……名無草　四〇
おこよ……還之助　四一
森の月……中村道之助　四四
所　感……吳泰次郎　四六
偶　感……二朗生　四七
冬閑隨想……なほみ　五〇
蝦夷紀行……すえたけ　五五
吾愛する小川ダルニーよ……吳泰次郎　六五
手　紙……きみ　六七
雪の香、土の香……津輕山人　七二
こゝろ……としを　七六

雑　詠……暁　七七
故里の夏……秋　男　七七
をり〳〵に……やまびこ　八〇
古き丘にて……中村道之助　八一
どうでも……糸　竹　棒　八四
私の格言集より……吳　泰　次　郎　八八
亡きK……暁　九七
唄……中村道之助　一〇一
日記の一節……吳　泰　次　郎　一〇二
新入生の會話……滿　壽　美　一〇四
日記から……K・T　一〇七
あるくりごと……青　光　一一二
私の「藝術論」の一節より……吳　泰　次　郎　一一六
休はつる頃……於　矢　治　一二四
雑　詠……き　み　一二四
霧……きくえ　一二五
わびしきは……K・M　一二六
海邊にて……T　生　一二七
幻　想……YYKC　一二九

雑　録

弔　報　理事室より　演奏部報
旅行部だより　運動部だより　雑誌部より

（第九号　昭和四年三月）

音樂 第十號 目次

Alla Mazurka（作曲）……長谷川良夫
卷頭辭……乘杉會長　（一）
將來の日本樂……リーベルゾン博士寄　乙骨三郎譯　（四）
古寺想樂……吉田生　（一一）
シューベルトの「魔王」演奏手引……マ・ネトケ、レーヴェ　乙骨三郎譯　（二七）
アベネック時代のパリ音樂院管絃團……ア・カアス　長谷川良夫譯　（三一）
通俗樂器の音樂的貢獻……中村道之助　（三七）
秋思斷章……奥山謙一郎　（四一）
雑　詠……きくえ　（六一）
歩　む……田鶴子　（六三）
或山守爺さんのお話……二九五二三一五　（六四）
淡路紀行……沙魚　（六八）
う　た……田鶴子　（七八）
女……重吉　（八〇）
蛙の寢言……滿壽美　（八四）
Aを知る……白光　（八七）
夏の斷片（甲斐の卷）……き　み　（八九）
闘の藝術……越谷達之助　（九二）
夏　陽……丘　秋　（一〇四）
禪昌寺漫吟……夜　半　（一〇六）
變　移……中村道之助　（一〇七）

病床にて……ふ　ね　子（一一三）
短詩十題……平　田　忠（一一六）
ある自畫像……山縣茂太郎（一一六）
詩……き　　み（一一七）
故里の夏つづき……夜　　半（一一九）
運命の子は歌ふ……芙　　蓉（一二〇）

（第十号　昭和五年三月）

音樂　第十一號　目次

表　紙……嵯峨天皇御宸筆
御　　諚……（一）
卷　頭　辭……乘杉會長（二）
進講私記……高野辰之（四）
音樂教育家としての伊澤先生小傳……（一〇）
伊澤初代校長胸像除幕式次第……（一一）
亞米利加瞥見記……加納道生（一七）
おもひで、その他……近藤忠義（二三）
財團法人教育樂器調正會の設立……福島琢郎（四三）
東洋音樂の世界文化に及ぼせる影響……田邊尚雄氏講演（五一）
昭和四年度卒業生送別會に於て……（六一）
佐藤美子君より乘杉校長宛の私信……（六五）
千葉演奏遠足記……（六九）
シュテールの轉調法の紹介……長谷川良夫（一一九）
ワグネルの「藝術と革命」を讀みて……齋藤次郎（七三）
心……竹中重雄（八一）
薄暗き脚……越谷達之助（八三）
暑中休暇合宿記……河童連中（八四）
鄉土紹介の二、三……添川ハナ（一〇四）
南蠻と唐土の音樂についての研究……長崎三郎（一〇九）
我沒頭……齋藤次郎（一二〇）
日本音樂漫想……竹中重雄（一二九）
放浪歎……死迷地一線（一三四）
摘　草……香草居淸賀（一四三）
囚　人……三　　吉（一四五）
放火犯……小島喜久壽（一四七）
雜　錄……（一五九）

（第十一号　昭和五年十月）

音樂　第十二號　目次

表　紙……嵯峨天皇御宸筆
作　曲……
一、子守唄……長谷川良夫
二、プレリュード……永谷義輝
三、二ツのムーヴマン……山縣茂太郎
卷頭辭……會長　乘杉嘉壽（二）
所謂日本國民樂についての小考
（子守唄作曲に關連して）……長谷川良夫（四）
遠き友……近藤忠義（八）

うたくづ……〃　〃　（一四）
郷愁……いちろう（一六）
淺草（その他）……竹中重雄（二一）
晩秋の朝（その他）……I　K（二三）
詩三題……勿汚美（二四）
亡き友……小池壽郷（二八）
隨分考へたがいゝ題がない話……白輪白太郎（三三）
「我沒頭」より……サイトウ（三四）
ジヤジヤンドトコゲ……蘭（四七）
變言出沒……平井保喜（五〇）
AとSのこと……S・G生（五三）
涙……小池壽郷（五七）
つれ〴〵草……石本佐千夫（六四）
演奏旅行記……
土浦、水戸、仙臺、……岩越、小池、A・B・C（七三）
京都、名古屋、……小池、岩越
爲になりつるクラス會（漫話）……酢鮒（八七）
演奏部報……演奏部（九〇）
運動部報……織田（九三）
編集後記……（九四）

（第十二号　昭和六年三月）

音樂　第十三號　目次

はしがき　太田太郎（一）
乘杉校長歸朝訓示　（五）
マーラーに就いての斷片　吳泰次郎譯（三七）
一、漢堡よりブルツクナーに與へた書簡
二、創作に於けるマーラー
三、第二交響樂の完成に於ける彼
四、維納のオペラ指揮者としてのマーラー
五、指揮者としてのマーラー
ブゾーニの言葉　宮内鎭代子譯（四一）
一、如何にして私は作曲するか
二、ピアニストに對する要望に就て
三、ピアノフオルテを尊重せよ
四、新しい和聲法
五、クロマテイツシエ　フアンタージーとフーゲ
巴里國立音樂學校一千九百三十一年度の試驗に就いて　佐藤美子（四七）
日本に於ける獨乙音樂の勝利（四九）
演奏部報（五一）
運動部報（五七）
一、富士五湖巡り
二、明治神宮體育大會射擊に出場
三、庭球戰
四、對武藏野野球戰其他
會計報告
（横組の分）
「バッハ平均律ピアノ曲集」解剖　（一）
序說　3
4
7
10
12
13
17
20
21
22
23
24

ペダルの用法（リンド）　北野健次譯（八五）
リードの巨匠シューベルト（ミース）　添川はな譯（一一六）
附　錄
プリングスハイム作曲 Frauenhand（ピアノ伴奏及總譜）

（第十三号　昭和七年三月）

音樂 第十四號 目次

史的に觀たる樂器の意義……教授　太田太郎（五六）
モツアルトのピアノ・ソナタ再研究……本二　山田和男（六五）
音樂學校を中心とせる
古き上野の物語……教授　馨　壽夫（二六）
渾沌と機械の間……アドルフ・ワイスマン　本一　渡　鏡子譯（九〇）
ブゾーニの言葉……フェルツイオ・ブゾーニ　宮内鎭代子　譯（九七）
（一）いさゝか樂器編成法に就て
（二）暗譜演奏に就て
（三）一流藝術家的　アルプルギスナハトより。フオンイノ＝スプ＝エフ。
（四）藝術とテクニツク
指揮者の變遷……ヘンダーソン　吳　泰次郎譯（一〇九）
虛無僧さんからお釣を貰つた話……本一　村尾護郎（一一九）
演奏部報告……（一四六）
雜誌部報告……（一五五）
旅行部報告……（一五六）
運動部報告……（一七四）
會計報告……（一七七）
部報
バツハ平均律ピアノ曲集解剖……フーゴー・リーマン（1）
序說　1　2　9　18　19　黑澤愛子　橫山田鶴　遠見豐子　池田文子　今井治郎　譯
音樂に於ける理論と相關について……フーゴー・ライヒテントリツト　橋本清司　訳（37）
地方通信……（一四四）
編輯後記……（一八一）
講座
音聲學……講師　颯田琴次（一）
ブラスバンドに就て……內藤清五（三八）

（第十四号　昭和九年三月）

音樂 第十五號 目次

卷頭辭……會長　乘杉嘉壽（一）
勅題
謠曲　池邊鶴……教授　高野辰之（三）
南蠻樂器チヤルメラ考……部長　遠藤　宏（四）
「音樂上の生活規範」より……本三　シューマン　松尾千代子（八）

たはこと……師二　梅澤信一（一四）
音樂覺書……師二　綱代榮三（一六）
音樂學校を中心とせる古き上野の物語…教授　馨　壽夫（三五）
乙骨先生の遺著「音樂史」……元教授　太田太郎（五六）
乙骨先生の思ひ出……教授　澤崎定之（六〇）
恩師乙骨三郎先生を偲びて……豫科　津久井　昇（六二）

創　作

あこがれ……師三　鈴木久四郎（六四）
光と影……師三　鈴木久四郎（六四）
北海道雜詠……本二　太田　靜（六五）
小　曲……本二　黑羽　亘（六五）
詩……本一　石渡日出夫（六六）
火事を發見して笑はれた話……豫科　森　一也（七〇）
我が心……豫科　森　一也（七三）
故郷離れて……豫科　森　一也（七三）
都會の黃昏……豫科　森　一也（七四）
通り雨……豫科　森　一也（七五）
學校記事……（七六）
皇后陛下御啓
創立紀念日
シュトラウス誕生七十年祝賀會日獨交歡放送
日比谷音樂會
躍進日本
部　報
演奏部報告……（八六）
雜誌部報告……（九二）
旅行部報告……（九二）
運動部報告……（一〇九）
會計報告……（一一）
クラス消息……（一一三）
本　科
三　年　二　年　一　年
豫　科
師範科
三　年　二　年　一　年
音聲學……颯田琴次（一二一）
熊谷秋男遺稿……（一五八）

（第十五号　昭和十年三月）

音樂　第十六號　目次

卷頭の辭……會長　乘杉嘉壽（一）
音樂古書を漁る（一）……部長　遠藤　宏（二）
東洋音樂の起原……渡アルフレ・ウエスタール　鏡子　譯（一三）
アイヌ音樂に就て……師一　笹谷榮一朗（二九）
音樂學校を中心とせる
古き上野の物語（三）……教授　馨　壽夫（三四）
續音樂覺書……師三　綱代榮三（四四）

創　作
阿呆のたはこと……師二　北原雄一（五五）
東北點描……師三　梅澤信一（六二）
房州でベラを釣る……本二　田村五郎（六九）
思ふまゝ……豫科　菊地てい（七一）
青い眼をした日本人……本一　森　一也（七八）
歌
○・反歌……師二　北原雄一（八四）
椎の實……秋　海棠（八四）
峽・海…（二十一編）……師二　永井重德（八五）
詩
若き日……師三　中村一郎（九九）
悔い・おとろへ・八月下旬
人間の跫音を聞く（三編）……師三　綱代榮三（一〇一）
習　作……師二　青木謙郎（一〇四）
アドバルーン……師一　鈴木邦弘（一〇六）
影三聯（六編）……師二　山下　正（一〇八）
冬に題する二片……本二　森　一也（一一四）
歸り道……本二　江古田野馬鹿（一一六）
勞きし窮（五編）……梧　葉（一一七）
英詩紹介（六編）……師二　鈴木邦弘（一二〇）
部　報
演奏部報……（一二一）
運動部報……（一五九）
クラス消息……（一六九）
演奏旅行記
新潟演奏旅行記……（一三六）
中國九州……（一四三）
先づ鳥取へ……（一四三）
鳥取――松江……（一四五）
博　多……（一四七）
長崎の記……（一四八）
佐賀より熊本へ……（一五〇）
熊本の記……（一五一）
阿蘇遠征記……（一五三）
熊本――別府の記……（一五四）
歸途に就く……（一五六）
特別寄稿
音樂學……颯田琴次（一七八）
東京音樂學校の管絃樂及び
その使命……クラウス・プリングスハイム（一九四）
編輯後記

（第十六号　昭和十年十二月）

音樂　第十七號　目次

口　繪
扉
卷頭の辭……會長　乘杉嘉壽……二
研究・論說
十八世紀に於ける和聲學書……遠藤　宏……四

新しい音樂の語法……ハンス・メルスマン　渡　鏡子譯……一四
日本的なるものの究明
日本的なるものに就いて……風巻景次郎……一八
われ〳〵にひきあげられるもの……山田和男……二五
「日本的」及日本的作曲に就て……今井慶明……三三
アウス・マイネム・ターゲブツフ……安部幸明……三六
東方音樂への斷想……丸山和雄……三八
貴重音盤蒐集體系……森　一也……五三
徒然草の矛盾……原　繁義……六三
創作・隨筆
ペンペン草抄……長與惠美子……六六
偶感・手紙……山下　正……六八
夜の反省……K・K……七〇
或若者の日記……石桁眞禮生……七四
妹　弟……南部　亨……七六
思ふままに・茱莉……鈴木正夫……八〇
ワルツ放送記……岸　かほる……八三
靜　聽……大石　昇……八五
思索の山……原　繁義……八六
このごろ……菊池てい……八八
感　想……伊達　純……九六
詩　歌
紅山茶花……江口　翠……九八
ともしび……山下　正……九九
櫻　餅……田村五郎……一〇四
「秋の譜」六題……多　嚴　粟……一〇七
秋……鈴木澪子……一一一
詩二篇・校庭・アトリエ・朝靄……お　雛　樣……一一三
晩秋に寄せて……白尾容子……一一七
雜　詠……笠井治子……一一八
詩二篇……鈴木正夫……一二三
ひばり……早　苗……一二四
秋に寄せて……石井悠紀子……一二六
雜　詠……青山まさ……一三〇
詩三篇……岸　かほる……一三三
學友會の方向……清田金吾……一三六
クラス消息……一三八
演奏旅行記……一五〇
日程・演奏曲目……一五一
東京――濱松（第一日）……西川潤一……一五三
濱松――彦根（第二日）……鈴木澪子……一五三
彦根――和歌山（第三日）……筒井秀武……一五四
和歌山――奈良（第四日）……天田　昭……一五五
奈良――名古屋（第五日）……森　一也……一五七
グラフの頁
寫眞遺繰記……一六〇
旅行のアルバムより……一六二
開校記念日に拾ふ……一六三

部報に代へて
演奏會のことなど……三宅洋一郎…一六三
參觀演奏に就て……牧野敏成…一六三
言、書、讀……永井重德…一六四
敗殘將語人……山下　正…一六六
餘興雜感……西川潤一…一六八
會計報告……清水　守…一七一
理事のことば……一七三
學友會演奏會プログラム……一八〇
編輯後記
——裝幀・カット　永井重德
（第十七号　昭和十二年三月）

音樂　第十八號　目次

口　繪
——第百回紀念演奏會・　クラウス・プリングスハイム先生
銃後に於ける我等の覺悟……會長　乘杉嘉壽……二
東京音樂學校學生歌……七
學友會發田(ママ)當時……部長　遠藤　宏……一〇
傳統について……風卷景次郎……一八
學生諸君への別辭……クラウス・プリングスハイム……二三
プリングスハイム先生を送るに際して……今井・清田……三一
私の信ずる我等の進路……安部幸明……三三
ぐうかん抄……山田和男……三六
論　說
詩人の戀に就いての私見……本三　柴田睦陸……四三
演奏家としての立場から……本三　外狩仲一……七一
作品に對する演奏家の態度……本三　清田金吾……七七
研　究
ピアノソナタを通して見たるベートーヴエン的性格……本三　今井慶明……八五
デカンショを尋ねて……本二　洒井　弘……八九
傳統への模索……本二　丸山和雄……九五
ひまつぶし……本二　鈴木正三……一〇八
浩造兄へ……豫　K・N……一一三
文　藝
「殘骸」……佚　儒……一一五
詩……多　罌　粟……一三一
信濃追分より……今井慶明……一三三
歩いた跡……青山まさ……一三四
流れ藻……森　瑤子……一四三
秋に……井上フミ……一四三
テンプルちやんと銀座をノスの記……森　一也……一四六
ふるさと……笠井治子……一五五
雜　詠……樫本　正……一五九
私のふるさと花輪町……福岡綾子……一六〇
五つの素描……石井悠紀子……一六三
祈り……音狂詩人……一六八

四季の歌……横笛…一七〇
空虛な秋の心境……原繁義…一七三
秋の庭で……菊地てい…一七四
牛・生命なき歌……柳橋久…一八四
山の歌其の他……兒谷野康子…一九〇
道……松井三郎…一九二
夏休みのおみやげ……堀田雛子…一九七
第百回紀念演奏會を省みて……柴田睦陸…二〇七
クラス消息……二一四
戰地だより……二二五
グラフの頁
保田の記……二二五
部報……二二九
演奏部・雜誌部・運動部・會計
編輯後記……二四八

（第十八号　昭和十二年十二月）

音樂　第十九號　目次

創立記念式に於ける訓示……會長　乘杉嘉壽…（1）
音樂史話（四篇）……部長　遠藤宏…（4）
論文
初等教育に於ける教育私觀……原繁義…（13）
藝術的趣味から見た隅田川……服部榮次…（28）
研究
現代ドイツに於ける音樂美學の方向……清田金吾…（34）
「冬の旅」斷片……津田豐子…（48）
アンサンブル演奏の技巧（ブッシュ談）……鈴木正三譯…（51）
バッハ平均律ピアノ曲解剖（リーマン著）……野村幸子譯…（組横）
絃樂器に於ける音程の問題……渡邊曉雄…（57）
ライマー・ギーゼキングの新ピアノ奏法……左右田五十鈴…（63）
應召諸氏の動靜と音信（四篇）……（72）
カメラ
野外演習記……（81）
旅行記……（86）
文藝
吾が心の手帖より……石井悠紀子…（92）
折にふれて……兒矢野康子…（97）
共鳴……松井三雄…（99）
散文詩……柳橋久…（107）
偶感……友利明長…（109）
キャンプ行　外五篇……安齋要一…（110）
窓邊……N・K…（113）
クラス消息……（115）
部報……（125）
編輯後記　目次カット　バッハ筆コラール

（第十九号　昭和十三年十二月）

音樂 第二十號 目次

創立六十周年記念式に於ける
學校長式辭……部長 遠藤 宏 (一)
文部大臣祝辭……(三)

音樂取調掛最初の演奏會史料……教授 杵屋六左衛門 (二)
藝に對する心構

論說・研究

音樂の勉强(エルマン談)……研一 鈴木正三譯 (二三)
教育音樂の本質より見たる目的觀と
師範科生徒の使命……師一 隅田正明 (三〇)
シューマン論……本二 赤松 稔 (三七)
美と藝術の或る思考過程……師三 松井三雄 (四二)
ライマー・ギーゼキングによる
新ピアノ奏法……本三 左右田五十鈴譯 (五〇)
バツハ平均律ピアノ曲解剖(リーマン談)研一 野村幸子譯 (横組)

文 藝

友に送りし詩……服部榮次 (六〇)
短歌〃野叫び〃外二題……安齋要一 (六二)
詩〃征空者〃……安齋要一 (六五)
滿洲で拾つた印象……草野 剛 (六七)
夏……N・K・ (七〇)
南が北を廻る……森脇憲藏 (七四)
キヤムプ便り……T・M生 (八一)

特別寄稿

學友會演奏會と私……會友 福田回三郎 (八五)
クラス消息……(八八)
グラフ・旅のアルバムより
一年の回顧
應召の學友と凱旋の學友
其の後の動靜……(一〇一)
勤勞報國隊だより……(一〇四)
保田合宿日記……(一〇六)
輕井澤演習記……(一一〇)
創立六十周年記念式竝行事……(一一五)
追悼欄……(一一七)
演奏旅行記……(一一八)
日程・曲目
旅行記
演奏會の感想
部報にかへて……(一二四)
學友會演奏會プログラム……(一四二)
編輯後記……(一五二)

(第二十号 昭和十五年一月)